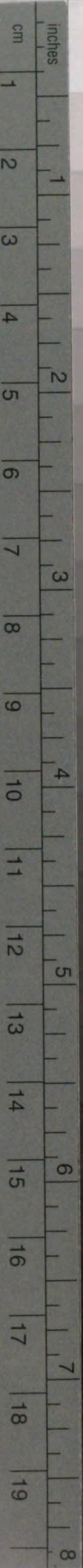


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak



685-76



1200501578967

685
76

36.10.11

227



佐
渡
年
代
記

附
拾
遺

下
卷



685
76

佐渡年代記下卷目次

卷之十八

從天保五甲午年、至同七丙申年
天保五甲午年……………一
同 六乙未年……………九
同 七丙申年……………三

卷之十九

從天保八丁酉年、至同十一庚子年
天保八丁酉年……………兜
同 九戊戌年……………六
同 十己亥年……………六
同 十一庚子年……………八

卷之二十

從天保十二辛丑年、至同十三壬寅年
天保十二辛丑年……………一〇三
同 十三壬寅年……………一七

卷之二十一

從天保十四癸卯年、至弘化三丙午年
天保十四癸卯年……………一五
同 十五甲辰年(十二月二日 弘化と改元)……………一八三
弘化二乙巳年……………一九四
同 三丙午年……………二〇八



卷之二十二

從弘化四丁未年、至嘉永四辛亥年

弘化四丁未年	二二
嘉永元戊申年	二四
同 二己酉年	二五
同 三庚戌年	二六
同 四辛亥年	二七

佐渡年代記下卷目次 終

佐渡年代記 卷之十八

天保五 甲午年

- 一 上杉彈正大弼御領所出羽國置賜郡村々去々辰年御年貢江戸御廻米千百五拾石積船大坂錢屋善兵衛沖船頭徳太郎水主炊共拾四人乗去巳正月廿三日奥州仙臺領へ寒風湊出帆之處江戸着無之に付浦々え漂着有無請書認相廻觸るより最寄御代官池田仙九郎役所え可相達旨浦觸正月九日越後出雲崎より小木町名主へ順達之旨小木番所より届る
- 一 正月十一日曉澤根町笹井治右衛門灰小屋より出火類焼一軒
- 一 去秋近國遠作米價高直之趣末々之者利潤に迷ひ自國之米拂底を不顧拔出等有之而は不容易に付目付役頭取地方掛頭取浦々取締掛申付繁々廻村爲致外海府は姫津出役地方掛り西濱通は地方詰會に而不時に爲見廻夷湊水津左右之村々は前書取締之外御廻米見廻出役廣間役取締心付町同心時々爲見廻大石夷湊納米出役地方掛御用中は是亦前書取締方心得候様沙汰に及ふ
- 一 北鶉島村三七母まな外四人九十五歳に相成に付老養扶持壹人扶持つゝ青木村權次郎親權十郎外貳拾人九十歳已上に相成に付鳥目を爲取
- 一 中尾間歩番所小遣新五郎町長助孝心奇特之趣相聞に付鳥目を爲取褒賞に及ふ

一 日蓮宗竹田村世尊寺義本寺駿州富士本門寺より住持差替緋紋白袈裟永々着用免許いたし候旨同寺添簡を以願出處住持一代每宮方より免許受候振合は有之候得共本寺より永々免許之例無之に付難及沙汰旨申渡願出添簡とも差戻す

一 佐州之儀連年之不作に而米穀融通差支候に付去已御年貢大坂御廻米高之内三千石引殘年賦代金納之積相伺候處米千五百石五ヶ年賦正米を以返納可仕旨被仰渡候處近國不作に而買入米難相成伺之通三千石拜借被仰付候而も御圍籾受取方其外米繰合方勘辨不致候而は國中食料差支可相成に付千五百石にては迎も麥作取入迄之夫食行届兼可申候得共御下知も相濟候義に付先右之趣を以取計夫食不足之分は尙勘辨之上夫々取計候様可仕旨午正月中水野出羽守殿え書面進達

一 右之趣并御廻米可相成米性成丈精撰爲致候得共青米糶多く午年に見合格別相劣候間兼而大坂御藏奉行え申渡有之度旨御勘定奉行へ達す

一 二月二日夜和泉村利右衛門灰置場より出火本家土藏納屋焼失外類焼なし

一 雲子間歩當時之稼所は追々青盤えの貫合模様に付永久稼可相成場所取調之上甚作敷取明申付高山又藏廣間役白石吉郎其外役々掛り申渡

一 本田畑え甘蔗を作候義停止たるへく但荒地或は野山を開き米穀不熟之地え作候義は可爲格別旨文政元寅年御觸有之處近年又々猥に相成候趣に付以來急度相守本田畑え甘蔗を作候義は一切致間敷段御料は其所之奉行御代官私領は領主地頭より入念可申付旨御書付正月廿四日水野出羽守殿御渡二月十一日到來

一 去已年陸奥出羽稀之違作に而江戸廻米無之右兩國は場所に寄飢渴之ものも有之趣風聞世上へ相響米穀圍持候人氣も押移利潤之ために不埒之賣買をも致候哉に而江戸表は勿論在々迄も米價高直に成末々之ものとも可及難儀に付關東筋國々米麥雜穀とも人別に引合當年新穀出來迄之手當を殘置其餘之分は持主限最寄市場町え賣捌又は江戸廻可致身元相應之もの窮民を救候ため米麥雜穀圍置候ものは別段之義に付名前穀數等領主地頭え申立候様可致前書之次第差掛り候義に付心得違無之様爲教諭御代官手附手代等相廻候筈之旨關東筋國々領分知行有之面々え御觸有之旨御書付正月廿八日水野出羽守殿御渡二月十一日到來

一 二月十三日學問所御圍内聖廟におゐて釋奠之式有之延喜式に基キ學問所附役人儒者其外之もの共諸享官に擬し献爵執饌等之式をなす事今年にはしまる

一 同夜畑本郷上組季三郎灰小屋より出火類焼壹軒

一 米價至而高直に付浦々に而他國米穀取引有之候は、當分之内役銀差免旨二月中沙汰に及ぶ

一 去冬より當春え掛ヶ寺泊邊其外より他場所え賣米有之風聞に付買入可相成哉新潟新發田其外及承候義も有之候は、申越候様正月中廣間役より御代官野村彦右衛門出雲崎陣屋詰え及懸合處右陣屋元夫食差支最寄私領穀留にて買入米難出來無據御廻米之内貳千四百八拾石買受米之積り相伺候程之義右に而も不引足候間最寄長岡新發田村松柏崎與板城下町場所より買受米之儀舊冬追々掛合候處いづれも拂米無之旨に而漸與板領より米貳百俵買受候義に付此上私領穀留差免相成候は、其節早々可申越旨返書二月中到來

一 去巳十二月十日相川下戸濱に而珍敷龜拾ひ取候旨にて下戸町彌平差出に付肉を去干立置候間可指上哉之旨繪圖面相添二月中土岐豊前守殿え相伺候處御用無之旨に而御下有之

一 國中夫食差支難澁之趣に付是迄之振合を以來々申年御拂可相成去ル戌年分御圍糶六千俵餘去夏已來追々繰越受取正米に爲摺立相拂爲取凌右代錢來ル申年取立御藏納可仕旨申上書面二月廿二日水野出羽守殿御引中に付松平周防守殿え進達

一 長崎廻俵物代之義去ル丑年分より去巳年分迄五ヶ年之間長崎奉行より受取佐州御金藏え返納相成候處同所之義追々御繰合立直寄候とは乍申金銀山稼御入用御拂廉多く折柄俵物出方相進候様去ル卯年被仰渡専ら取揚相増候様取計候に付旁渡方差支にも可相成候間引續是迄之通俵物代長崎奉行より引渡次第佐州御金藏え返納之積取計度旨申上書面案相添二月中御勘定奉行え及相談處存寄無之此上之年限認入候方之旨挨拶有之

一 右之趣を以當午より戌迄五ヶ年の積年限認入三月晦日大久保加賀守殿え書面進達之處午より申迄三ヶ年は迄之通取計年限明之節猶可相伺旨七月中被仰渡

一 三月三日夜四町目濱町清七借受居候下戸濱町に有之同所三左衛門納屋出火類燒なし

一 同九日夜眞野村勘十郎灰小屋より出火本家納屋燒失外類燒なし

一 去々辰年分山出荒銅三千五拾貫目大坂銅座え相廻に付越後柏崎庄屋規右衛門船沖船頭與三七七人乘え三月十日澤根湊におゐて積渡

一 水野出羽守殿御病氣之處御養生無御叶二月廿八日卒去之旨同廿九日附之御奉書三月十一日到來同日

より鳴物三日停止普請は不苦旨を觸る

一 三月朔日水野越前守殿御事御懇之以上意御本九に而可相勤旨被仰付候旨同二日附御奉書三月二日喜代姫君様被遊御平産女子出生之旨同三日附御奉書三月十一日到來

一 國中米拂底に付越後表より米穀買入のため直段其外開合として掛屋山田茂平次野口五吉差遣二月廿三日小木湊より越後出雲崎え渡海同所并柏崎今町與板長岡新瀨新發田等え相越自分買之趣を以宿之ものえ掛合處いつれも米穀津留に而他所え之賣米等無之出雲崎は御廻米之内引殘有之私領は領主に而世話有之又は豪富之者貯米等を出し取續候躰所之もの飯米直段一升百文より百四五拾文程新瀨にて小麦大豆は津留に無之代錢小麦一升諸掛ヲ加へ百貳拾四文大豆壹升百文に當候由三月初新瀨え津出し米凡六萬俵程有之分は秋田本庄上野山領主より椎谷宮川春日高田長岡其外之領主へ賴合之上買入候米之由秋田は別而穀類拂底に而飢渴人二月廿八日頃迄に貳萬四千人餘も有之其外道中筋行倒人一日に五六人宛有之是を片付候もの皆穀類不食もの故壹人の死骸を七八人にて片付候由秋田之家中去冬より新瀨え出居干柴酒醬油之類貳三百兩代買入候由石地宿中野屋嘉左衛門米隱賣之事に依て一宿之もの集り大造及狼藉寺泊宿本間四郎九郎も既に狼藉に可被及處小前之者任申米貸附又は新穀出來迄飯米可賣渡旨に而事治る由なと見聞の趣等三月十一日歸國之上申立ル

一 二月十八日之風波にて沖合馳掛之廻船及破船候哉椿尾村濱え船屑并往來流寄候處能登國御預所鳳至郡川島村吉次船船頭水主五人乘と有之よし届出其後吉次下代之由に而罷越船屑受取度旨申立れとも領主役人添簡持參可致旨を爲申渡

- 一 三月十五日夜上相川町岩次郎納屋より出火本家焼失外類焼なし
- 一 同廿一日曉上八幡村清四郎灰小屋より出火類焼壹軒
- 一 武士屋敷に怪キ奉公人部屋子と唱侍輩に無之ものを差置候義致間敷若如何之義相聞候は、其屋敷々々え立入召捕候儀も可有之旨大久保加賀守殿御書付之趣大目付より達有之
- 一 地役人江戸詰之者旅宿之義是迄本郷金助町桐生屋嘉兵衛方借家罷在候處追々大破およひ且手狭に而毎年交代之節并平日御用向取調等差支候義も有之に付武家屋敷之内に而相應之明家作買受旅宿致度旨兼而申立候處本郷附木店御持頭島津又吉郎組同心秋山儀平地内五拾坪之處土藏附明家作有之候間買受旅宿致度段詰會吉田藤助外貳人去已十二月中在府若林市左衛門え申出候に付家來差添詰會之もの共差遣爲致見分家作も相應之趣に付對談爲及當正月中島津又吉郎方掛合相濟借地取極證文之義地請人無之而は借地不相成組仕來之由に付用人共地請人に爲相立證文爲相渡地代一ヶ年貳兩貳分に取極家作土藏代拾九兩貳分秋山儀平并組内組頭小屋頭え會釋料壹分家作土藏修復入用三拾貳兩貳分銀問屋に而三月十二日迄に皆出來同十三日江戸詰之者共引移届出に付去ル丑年水野出羽守殿え申上候趣ヲ以前書之地面借受候義承届旅宿爲仕候間一通り申上置候趣同十四日御勝手方御用番大久保加賀守殿へ書面進達

- 一 三月廿二日夜青木村與次兵衛灰小屋より出火類焼壹軒
- 一 同廿三日夜栗野江村茂左衛門後家みよ居宅より出火類焼なし
- 一 大久保加賀守殿松平周防守殿御事御勝手御入用掛申合可相勤旨被仰付候段三月廿二日附御奉書同廿

九日到來

- 一 國中夫食差支に付去已御年貢大坂御廻米之内千五百石拜借之義去十二月御下知に付村々え厚く理解之上葦藪葛蕨根其外かてに可成草木海草等雜穀え取交相用成丈米穀遣ひ延し麥作取入迄飢を凌候義專一に爲心得格別に吟味ヲ詰全く飢を凌候迄之夫食として少々々々爲相渡候得共國中人別拾萬人餘有之故何分引足兼急變夫食米元御斷辻追々受取殘之分は勿論非常御備米七百五拾石之分も受取相渡候處今以他國賣米積入候廻船入津無之麥作取入迄は日間も有之候間此上取凌之ため大坂御廻米高之内猶又千五百石引殘右代金之義は當春御張紙直段三拾五石に付四拾五兩を以上納之積被仰付度日増米穀乏敷最早飢に及候もの共出來仕間敷共難申場合に臨不容易義に付急速御下知御座候様仕度旨伺書二月中差立三月八日大久保加賀守殿え進達委細之手續相認伺書寫添鈴木傳市郎より御勘定奉行え書狀并御勘定吟味役えも書狀差遣三月廿日夫食米千五百石拜借被仰付返納之儀は去十二月中拜借米同様可相心得旨被仰渡三月廿九日到來
- 一 市郷夫食補ひとして三月中小木湊におゐて廣惠倉え買入る所之米穀之價越中船積來ル米壹石に付拾四貫貳百六拾八文丹後船大麥壹石に付八貫四百三拾六文小麥壹石に付拾壹貫貳百四拾八文大豆壹石に付拾貫百四文切干薩摩芋拾貫目に付三貫三百文なり
- 一 去已御年貢小物成諸運上等三月晦日迄に御藏々え上納皆濟則江戸表え御届書面進達
- 一 去已御年貢米之内五千八百九拾石内千五百石 大石より 大坂御廻米になる今年も河原田より積出無し

一 四月三日夜河原田大坂町權九郎灰小屋より出火大坂町本町うら町之内本家八拾軒借屋貳拾五軒土藏納屋小屋九拾壹軒淨土宗常念寺觀音堂壹宇合百九拾七軒御廻米藏燒失并火防のため壞家四軒也人馬別條なし

一 同夜上川茂村六左衛門灰小屋より出火類燒貳軒

一 河原田御廻米藏類燒に付江戸表え申上書面差立

一 三月廿三日溶姫君様被遊御平産男子出生之旨同廿四日附御奉書四月四日到來

一 四月十一日高下村平右衛門船え五人乗組夷湊え相廻ル海上石名村沖に而及難船乗組之内太郎兵衛溺死外四人は石名小田兩村之もの共助揚る

一 同夜徳和村兼次郎灰小屋より出火本家燒失外類燒なし

一 四月十一日於御前太田備後守殿御懇之以上意連判之列被仰付内府様え被爲附松平伊豆守殿御懇之以御謔所司代被仰付候旨四月十二日附御奉書同十八日到來

一 羽田町家大工貞藏師匠之恩義を存し奇特之取計有之趣相聞に付鳥目を爲取褒賞に及ぶ

一 長島小十郎儀御藏方御勘定仕上相濟無宿貳拾人宰領四月十五日江戸出立當朝無宿壹人病死之よし斷有之殘十九人才領三國路通行同廿二日越後國古志郡長岡にて大磯無宿甚五郎病死に付同所寺院え取置殘拾八人宰領同廿三日同國寺泊え出津同廿四日佐州赤泊湊え渡海翌廿五日相川え歸着道中傳馬御證文水野越前守殿

一 大倉村五兵衛同人女房ちみ兩親え孝心に仕ふる趣相聞に付鳥目を爲取褒賞におよぶ

一 河原田町町年寄中山五兵衛金丸本郷兩替屋三輪屋善内金丸村名主季兵衛義小前之もの夫食差支るを勞はり品々奇特之取計ひ有之趣相聞に付白銀を爲取褒賞に及ぶ

一 若林市左衛門四月朔日御暇に而同廿一日江戸表出立三國路旅行同廿七日越後寺泊え出津同廿八日佐州赤泊湊え渡海翌廿九日相川御役所え着鈴木傳市郎交代して五月二日相川出立同十二日小木湊出帆

一 目安箱之儀明六ッ時差出暮六ッ時取入候仕來之處以來は明六ッ時差出七ッ時限取入可申旨五月三日沙汰す

一 田沼玄蕃頭病氣に付願之通御役御免雁之間被仰付候旨四月廿七日附御奉書五月十六日到來

一 當國に而商ひ候菓子類白砂糖に而製候上菓子等は決而賣弘間敷趣前々相觸置候處年數も相立候義に付五月中猶又改而在町え觸ル

一 五月九日夜雜太郡西方村甚十郎妹その面部其外所々刀疵を受栗野江村なんだい川に横死いたし居吟味手掛りなし

一 支配向之内奉行江戸表懇意之もの又は勝手向より面々身分之義頼入候族有之心得違之旨享和之度申渡置候處年數も相立候に付猶又申渡候間其後御抱入之者并年若之もの共心得違無之様可申渡旨六月中書付を以沙汰に及ぶ

一 地役人之内勝手通用部屋え罷出候役々は前々より定も有之處無謂罷越候ものも有之用人共初取扱候御用向之妨にも相成候趣に付心得違ひ無之様可申渡旨前同斷

一 國仲筋川々惡水拔普請目論見見分として組頭三輪四郎左衛門廣間役小池小次郎其外役々出役申付六

月十四日出立同廿日歸着

- 一 六月十三日夜澤根町淨土宗大乘寺本堂より出火庫裏其外別條なし
- 一 近年違作之國柄多く米穀拂底に付諸國酒造去已年は三分一相減候處今以米價高直に付去已年以前迄造來米高之内三分二相減三分一酒造可致尤已年以前迄造來米高并減石之高とも書付いたし可差出旨御觸書五月廿七日松平周防守殿御渡六月十四日到來
- 一 此度被仰出候酒造減石之義は格別之譯に付去已年以前迄造來米高何程内に何程相減候と申義酒造人ともより書付爲差出餘計之酒造決而致間敷旨可申渡此度之儀は近年稀之年柄にて厚き御趣意も有之事に付何れにも減石行届候様猶勘辨之上取計候様御勝手掛御老中御沙汰之旨土方出雲守明樂飛彈守より掛合有之

一 去已年陸奥出羽其外違作之國柄等有之諸國米價高直相成末々及難儀候趣之處領分知行限他國之賣買差留候向も有之融通不宜候間御料私領之無差別米穀融通無差支様米賣買可致旨御觸書六月七日松平周防守殿御渡同十九日到來

一 去冬より當夏迄之間國中時々時疫流行死するもの不少と云

- 一 去已年分山出灰吹銀貳百七拾五貫三百五拾目此金直壹萬五千百七拾貳兩三分永七文御傳馬宿入用金三拾七兩三分銀六匁六分五厘九毛佐野勝右衛門仙田兵藏宰領七月四日相川差立同五日小木湊出帆道中御證文水野越前守殿燒金拾貳貫貳百四拾八匁壹分此小判積り三千四百七拾七兩貳分永九拾八文佐州御金藏に積置出方御入用差引貳千六拾貳兩永五文六分御益になる江戸詰佐野勝右衛門山本桐之亟御勘定

仕上ル

- 一 同年分山出荒銅三千五拾貫目此金直六百四拾七兩貳分永六拾五文八分
- 一 中尾間歩風廻シ其外道中筋御普請御入用高九百八拾四貫文餘穿鑿御入用を以御普請申付廣間役永井四郎兵衛其外役々掛り申渡
- 一 廣間役當分助伊澤佐兵衛病氣に付願之通御暇忤勝之助御抱入申渡
- 一 小木町名主中川吉郎兵衛外九人夷町々々寄鈴木半五郎本間金五郎松ヶ崎村名主彌三太外五人當春以來場所々々小前之者共夫食取凌方世話行届趣相聞に付白銀を爲取褒賞に及ぶ
- 一 定問吹所建替御普請有之
- 一 上横山村與右衛門燒物細工を始る
- 一 江戸詰早川爲四郎義玉目三匁三分同三匁之鐵砲貳挺相調佐州え持歸候に付御老中方え可相伺哉房川中田御關所通り方之義とも在府鈴木傳市郎より御留守居え及問合候處小筒之儀に付拾挺已下は伺并御留守居え斷に不及持主證文に而相通し若外御關所相通候は、猶又問合候様挨拶有之
- 一 江戸詰吉田藤助無宿拾七人宰領八月十三日江戸表出立奥州會津通同廿三日越後新潟湊へ出津同廿五日同所出帆佐州夷湊え渡海翌廿六日相川歸着道中傳馬御證文大久保加賀守殿
- 一 江戸詰早川爲四郎調合藥玉鉛宰領八月十五日江戸表出立同廿日日光御宮參詣奥州會津通八月晦日越後出雲崎え出津九月朔日佐州小木湊え渡海同二日相川歸着道中傳馬御證文大久保加賀守殿
- 一 大坂廻荒銅直増銀四拾目つゝ之處半減に而買入候積り之旨八月中御勘定奉行より達有之

- 一 九月四日夜畑本郷その灰小屋より出火本屋納屋焼失外類焼なし
- 一 同十一日書院におゐて武術を試る
- 一 同廿二日小川村平右衛門灰小屋より出火類焼貳軒
- 一 八月廿三日下戸町權次郎船并大浦村惣吉船に乗組鳥賊獵に出被吹流候人数九人之ものとも加州宮ノ腰又右衛門船に被助揚能州福浦え入津宿根木村徳三郎勘十郎船同所に滞船いたし居候に付乗組九月中追々歸國いたす右に付又右衛門船入津之節爲骨折料貳斗入酒貳樽爲取候様浦方番所え沙汰す
- 一 御金藏新藏建替御普請有之
- 一 大吹所圍内え勝場壹棟増取建る
- 一 本山方修驗杉野浦村勝藏院末小木町明王院義本山京都住心院末に相成旨申立に付寺社奉行え問合聞届る
- 一 十年前酉年御造替大小早御船貳艘釘拔替上廻り仕直御修理之義九月中大久保加賀守殿え伺書進達十一月伺之通御下知有之
- 一 九月廿四日夜九ツ時頃御役所御圍内御作事小屋より出火西風強く大御門御作事方役所江戸より被遣候廣間役兩人御役長屋向陣屋鏈納屋組頭高山又藏御役宅孔廟學問所其外味噌屋町八百屋町長坂町下京町中京町會津町左門町米屋町之内類焼に付同廿五日江戸表え御届差立
- 一 右に付高山又藏は彌十郎町大願寺白石吉郎は濁川町布田逸平御役所附小池小次郎は羽田町高島英助同上方え假宅いたす

- 一 石扣町伊勢屋順藏材木町番所附問屋宅を學問所假役所とす
- 一 類焼に付組頭以下地役人迄夫々拜借申付且來春御借米御役料等假相場を以假請取可致旨を沙汰す
- 一 雇町人共御用場所え相詰留守宅類焼之もの貳拾五人町役人之内火元え相詰同斷之者貳人時鐘撞之者壹人消口之ため役筋之者差圖にて居宅取壊候もの四人御作事方國役に相詰道具差置焼失之家大工木挽壹人町家類焼之内困窮之者三拾七人え救として米七石餘錢四百貫文餘を爲取
- 一 今度出火に付板木類其外高直に賣買致におゐては急度可及沙汰旨在町え觸ル
- 一 目付役古屋與七郎義九月廿四日夜御役所泊番に而急火之處要用之御用物取出其上防方差圖行届候故御役所陣屋向等類焼無之一段之旨書付を以申渡
- 一 今度急火に而御役所外構向其外焼失之節諸役人早速持場々々え相詰御用物取出火防いたし別而御役所向陣屋并辰巳口御金藏御雜藏勝場床屋定問吹所吹分所之義は防方骨折相顯無難に而一段之事に付譽置末々之者格別奇特之働有之候は、向々より可申立旨前同斷
- 一 御役所外構其外焼失之節不手都合成向も有之趣に候得共事濟候間不及沙汰以來心掛專要之旨諸向え可申渡段前同斷
- 一 去秋以來御藏御拂米廣惠倉え受取市中飯米拂遣す處九月限に而止
- 一 御役所外構並御役宅其外焼失に付組頭三輪四郎左衛門廣間役小池小次郎田中從太郎同助山中又四郎其外役々御普請掛り申渡
- 一 加藤斧八原田次郎右衛門廣間役當分助申渡

一 十月朔日夜九山村眞言宗西龍寺留主に而長谷村長谷寺家東光坊看主秀山并下男壹人二階に臥居候處盜賊忍入眞木燃さしと拔身を持上り候に付下男は飛下り近邊之もの呼集立歸候處秀山は被殺害賊は逃去行方不知吟味手掛なし

一 十月二日夜貝塚村久兵衛灰小屋より出火本家納屋焼失外類焼なし

一 同三日夜澁手村權四郎前同斷

一 九月廿四日夜燒失場所大御門并番所物見御作事小屋材木納屋貳ヶ所人溜一ヶ所高山又藏御役宅白石吉郎小池小次郎御役長屋并土藏一ヶ所は燒失二ヶ所破損向陣屋建坪百三拾四坪餘之内九拾三坪餘燒失鏈納屋三ヶ所孔廟學問所并劍術稽古所醫學所等燒失書庫は無別條後藤三右衛門役所并吹役所とも地役人住宅三拾五軒町家九拾貳軒土藏貳ヶ所納屋三拾六軒燒失に付目錢または廣惠倉元高等之内を以救米貸附錢等取計ひ當然爲取凌候旨申上書面十月十七日松平周防守殿え進達

一 御普請役尾町治部左衛門義九月廿四日夜御作事方役所泊番之處御作事小屋より出火大御門其外類燒に付爲相愼置尙申渡方伺書面十月十八日松平周防守殿え進達之處翌十九日押込可申付旨御附札を以被仰渡同日出御用狀十月廿九日到來即刻申渡御届書差立十一月十三日進達同十九日押込可差免旨御書付御同人御渡十二月八日到來則申渡御届差立

一 十月八日大風に而越後岩船郡大川町直船頭奥次郎水主とも貳人乘赤玉浦におゐて及破船乘組別條なし

一 紅葉山御宮御修復出來九月二日正遷宮首尾能相濟候段同廿八日御奉書十月十四日到來

一 近年地役人住居向追々手廣之家作いたし候に付普請序切縮不相應之義無之様去巳年中一同申合書付有之趣に付今般類燒之もの家作いたし候節は坪數も省略いたし萬端手輕に家作可致候得共若心得違申合を背き候ものは及沙汰義も可有之廣間役之義も御用辨差支さへ無之候は、常々不用之家作手廣にいたし置候には不及事之旨書付を以申渡

一 相川町人共住居向之義成丈小住居にいたし木柱を始隨分手輕に可致旨寶曆九卯年相觸置趣も有之上は今度類燒に付家作いたし候者共分限不相應之義は致間敷候得共尙又改而申觸候間若手重之家作いたし候者は品に寄家作爲取壞當人は勿論其所之役人迄咎可申付旨町々え觸る

一 去巳六月大川村沖合に乗組無之漂流之廻船村方え引付候に付預ヶ置候處羽州飽海郡酒田町森田屋三郎兵衛船之由に而町役人臺町傳右衛門差添領主役人小川孫太夫添簡持參九月中水津湊え渡海いたすに付同所におゐて請取渡爲致廣間役より返書爲差遣

一 當二月椿尾村濱え流寄候船屑松平加賀守御預所能州鳳至郡川島村吉次船之由に而同人代兵次郎加賀守御預所掛上役磯松森右衛門安田新兵衛添簡持參九月中小木湊え渡海いたすに付前同斷

一 小田村與四兵衛兼助義弟留次郎稼嫌之旨言葉荒に申聞候節同人惡口及ひ候とて親共之側に而手荒之所業に及ひ既に與四兵衛は自分と怪我いたし候次第に相成其上村内重泉寺外四ヶ所え一人立又は留次郎一同罷越建寄せ有之戸を明ヶ這入米穀其外盜取候に付入墨之上重追放可申付處牢屋近火之節放遣し立歸候に付敲之上輕追放右留次郎義不稼之趣兄兼助申聞候節惡口及ひ候故同人義兩親之側に而手荒之所業に及ひ既に與四兵衛は自分と怪我いたし候次第に相成其上村内重泉寺外七ヶ所え一人立又は兼

助一同罷越米穀金子等盜取候に付入墨之上輕追放可申付處牢屋近火之節放遣立歸候に付敲之上居村を構相川拂申付

一 十月廿九日材木町福太郎船三人乗羽田濱におゐて破船に及ぶ乗組別條なし

一 眞字貳分判通用之義當九月限之處令以引替殘有之趣に付來未九月を限不殘引替可申來未十月より通用彌停止たるべき旨御觸書九月十七日松平周防守殿御渡十月十四日到來

一 國仲筋村々谷地田惡水抜川々損所多作損いたし候に付文化十三子年之振合を以入用錢十五ヶ年賦返納御取替御普請之義九月中大久保加賀守殿へ伺書進達御林木尺八八拾壹本末木三千六百八拾三本錢三千六百三拾四貫八百文餘を以御普請被仰付候旨十二月中御下知有之

一本近年

一 近來違作之國柄多く御米繰不宜候間當年より石代納等精々吟味いたし御廻米之積り取調申上候様大久保加賀守殿御沙汰之旨江戸詰地役人へ申渡有之候處佐州之義願石代は寛政六寅年以來村々え割賦石代納申付別而去ル子年以來作損に而國中一体之有米少く其上去年中貸渡候分返納米等に而多分之米納相増候義に付願石代大坂御廻米に相成候而は國中米融通差支可申に付來春御廻米九千三百石程之外増方都合致兼候趣に付是迄之通石代納申付候様可致旨十月中御勘定奉行え達に及ぶ

一 御役所大御門其外燒失跡御普請御入用御林木貳千六百三拾七本末木百五拾七本米九拾五石餘錢五千九百九拾九貫文餘を以仕越御普請之積り孔廟は地役人始志有之もの寄附に而取立學問所は是迄御役所御入用繰合を以取計ひ候に付此度も右之趣取計候積り御普請積り相除候旨伺書十二月中松平周防守殿え進達未四月伺之通御下知有之

一 十一月朔日夜羽田濱町茂七宅より出火類燒なし

一 同五日夜雜太郎新保村六右衛門灰小屋より出火本家燒失外類燒なし

一 古金銀貳朱銀壹朱金等引替所尙又來十月までは是迄之通被差置候間不殘爲引替候様御觸書十月十六日大久保加賀守殿御渡十二月八日到來

一 遊行上人傾心巡國修行に付來未六月中旬頃佐州渡海相川大願寺四日町村松山大願寺宿根本村稱光寺におゐて神勅之御札弘通致度爲案内九月十三日出奉行當之書狀十二月八日到來

一 諸國酒造之義三分二減石可致旨當五月中相觸候處當年は諸國豐熟之趣に付追而及沙汰候迄は去巳年以前迄造米高之三分一相減三分二酒造可致旨御觸書十一月十五日大久保加賀守殿御渡右同斷

一 佐州之儀右御觸書到來以前當五月御觸之趣を以三分一造割合を以仕入米爲買請大坂御廻米高等取極先達而御勘定所え相達候義に付當午年之儀は三分一造ニ居置來未年より御書付之通り三分二造に申付候様可致別段御老中方え不申上とも可然哉之義十二月中御勘定奉行え及問合處米高減仕込方申付候義は其所之支配領主地頭手限に而申付其段御勘定所え相届候類例も有之候間別段申上に及問敷旨未二月中挨拶有之

一 市中困窮之もの三百貳拾壹人え救として米を爲取

一 當午年家數人別増減書付十二月中松平周防守殿え進達

高拾三萬貳千五百七石壹斗壹升

加茂 羽茂 雜太

三郡貳百六拾壹ヶ村

家數貳萬四百九拾貳軒

内壹軒 去巳年に増

男五萬貳千九拾七人

外七百八拾貳人 去巳年に減

女五萬六百六拾四人

外七百拾六人 去巳年に減

牛七千貳百七拾疋

外拾六疋 去巳年に減

馬六百七拾五疋

外貳疋 去巳年に減

外

高九拾石五斗 御朱印領 寺壹ヶ寺

家數七拾軒 無増減

男百八拾貳人

外四人 去巳年に減

女百八拾九人

外拾人 去巳年に減

一 今年田畑とも豊熟別而田方は十二二分之作なりと云平年之米價大概壹石五貫文程なれば是よりも引

下るへかりしに冬中に至ても在中之米價七貫五百文程也と云近年違作打續國中米拂底故なるへし

天保六乙未年

一 城腰村眞言宗不動院快眞夷湊番所附問屋小松屋治郎左衛門越後屋甚兵衛夷町市右衛門湊町佐治兵衛
去年米拂底之砌奇特之取計有之趣に付快眞外貳人は白銀佐治兵衛は鳥目を爲取市右衛門は兩替屋并申
付五郎左衛門町伊之助孝心之趣に付鳥目を爲取夫々褒賞に及ぶ

一 達者村又三郎祖母ちゑ外三人九十五歳に相成に付老養扶持壹町目濱町與助祖母かめ外三人九十歳に
相成に付鳥目を爲取

一 正月十八日新町村濱え四十歳計之男首より兩手引の縊り面部切疵等有之裸身之死骸流寄名住所不知
吟味手掛なし

一 同廿五日北狭村五郎作所持之獵船に三人乗組相川え薪積廻歸帆之節姫津浦囁口にて難船及び壹人助
命貳人溺死

一 二月四日腰細村惣十郎灰小屋より出火本家焼失外類焼なし

一 同八日達者村傳十郎灰小屋より出火類焼九軒

一 同十二日夜新町村安平灰小屋より出火本屋納屋焼失外類焼なし

一 同日羽茂本郷飯岡兩村境字笹ノ淵に二十五六歳之男左ノ耳切落無之月代面部に疵受候死骸有之名住
所不知吟味手掛りなし

- 一 去秋類焼いたし候學問所御普請出來二月廿四日引移る
- 一 三月三日加州野見郡湊浦畑屋市左衛門船七人乗高下浦に而及破船乗組別條なし
- 一 同六日夷町淨土宗正覺寺貸家明店より出火夷町同新町加茂村之内本家百四拾八軒貸家百壹軒土藏納屋百九拾三軒廻船壹艘類焼人馬別條なし
- 一 小六町兼助事惣兵衛古主之家筋三代之間大切に心を盡す趣に付鳥目を爲取褒賞に及ふ
- 一 三月十四日越前國坂井郡米ヶ脇浦榮藏船八人乗龜脇村濱に而及難船乗組別條なし
- 一 醍醐三寶院門主去年三月准三宮昇進并牛車之儘禁庭え出入宣下以後准三宮共准后門主共稱候に付眞言修驗宗門帳肩書當年より准三宮と書改候旨袈裟頭大行院届出ル
- 一 去秋類焼いたし候組頭御役宅廣間役御役長屋御普請出來に付高山又藏は三月十九日白石吉郎は三月四日小池小次郎は同六日引移
- 一 去秋類焼いたし候地役人家作入用拜借申付
- 一 青盤間歩敷内道中筋并樋場通損所出來に付御入用千五百六貫文餘穿鑿御入用之内を以御普請申付廣間役井口茂十郎其外役々掛り申渡
- 一 去年御年貢小物成諸運上等三月廿七日迄御藏々え上納相濟則江戸表え御届書面進達
- 一 去年御年貢米之内九千貳拾石已年拜借返納米三百石合九千三百貳拾石内三千百石 大石 六千貳百貳拾石 夷 大坂御廻米に成ル
- 一 御雜藏役所建替御普請有之

- 一 去々巳年分山出荒銅三千五拾貫目大坂銅座え相廻候に付越後柏崎庄屋規右衛門船沖船頭彦左衛門拾人乗え四月十日澤根湊におゐて積渡
- 一 四月十日地役人倅厄介等拾四人於書院素讀を試ル
- 一 同廿日北澤矢場におゐて砲術を試ル
- 一 同廿二日願村忠四郎灰小屋より出火類焼四軒
- 一 羽茂郡山田村長左衛門義孝心其上奇特之取計有之趣相聞るに付白銀爲取褒賞に及ふ
- 一 大御門其外焼失跡御普請出來に付四月廿六日上棟之規式有之
- 一 鈴木傳市郎四月朔日御暇に而同廿七日江戸表出立三國路旅行五月四日越後寺泊え出津同六日佐州赤泊湊え渡海翌七日相川御役所え着若林市左衛門交代して同九日相川出立同十六日小木湊出帆
- 一 仙田兵藏御藏方御勘定仕上相濟無宿貳拾四人宰領四月廿四日江戸表出立同廿六日小山村無宿金藏武州本庄宿に而病死同所寺院え取置殘貳拾三人信州路通五月五日越後出雲崎え出津同六日佐州小木湊え渡海同七日澁手村に止宿翌八日相川え着道中傳馬御證文大久保加賀守殿
- 一 五月八日二町目濱におゐて山西篤之進火術を成す
- 一 大杉村名主佐右衛門御船渡海之節行届候取計ひ有之に付鳥目を爲取褒賞に及ふ
- 一 青山下野守殿病氣に付願之通御役御免雁之間席被仰付以思召御差之御刀被下候旨五月六日被仰出候段同七日附御奉書同十九日夜到來
- 一 雲子間歩敷内御普請御用出精相勤候に付爲御褒美組頭高山又藏え銀五枚廣間役白石吉郎え銀貳枚定

役三人え金三百疋宛並役五人え金貳百疋宛被下候旨御書付五月廿八日松平周防守殿御渡六月十二日到來

一 國仲筋川々御普請に付組頭三輪四郎左衛門廣間役白石吉郎其外役々掛り申渡

一 去午年分山出灰吹銀貳百拾五貫九百八拾四匁御傳馬宿入用金三拾九兩貳分銀拾貳匁四分六厘四毛佐

々木紋左衛門海老名寛次郎宰領六月十八日差立同廿七日小木湊出帆道中御證文大久保加賀守殿燒金拾

三貫三百三拾六匁八分此小判積三千七百八拾六兩貳分永貳百拾貳文壹分佐州御金藏に積置出方御入用

差引千六百五拾八兩三分永五拾壹文四分御益に成江戸詰佐々木紋左衛門仙田良平御勘定仕上ル

一 同年分山出荒銅貳千七百貫目此金五百八拾四兩壹分永貳百拾文

一 後藤三右衛門役所去秋類燒後彌十郎町平三郎宅假役所にいたし候處役所普請出來六月廿八日引移候

旨届ル

一 鐘樓去秋類燒に付先地形より三尺高く築上ケ鐘撞居宅とも普請入用四百拾八貫文一旦御役所御入用

に而振替當七月より來申十二月迄御藏御拂米え懸ケ市中より出錢之分を以戻入候積り享和度之振合を

以御作事方役人取扱仕立申付

一 七月朔日曉材木町又兵衛居宅出火類燒なし

一 彌十郎町家大工平三郎妹つき後藤三右衛門役人玉城武四郎方に十二ヶ年來奉公いたし主家大切に仕

ふる趣に付鳥目を爲取褒賞に及ぶ

一 鳥越間歩勘六敷取明御入用千貳百貳拾六貫文餘穿鑿御入用を以御普請申付廣間役永井四郎兵衛其外

役々掛り申渡

一 遊行上人傾心七月十四日越後出雲崎より赤泊湊え渡海同十六日四日町村大願寺止宿翌十七日相川彌

十郎町大願寺え着同廿三日出立四日町村大願寺え罷越同廿七日宿根木村稱光寺え移八月四日同所より

出帆越後出雲崎え渡海

一 眞野外拾貳ヶ村犬狩致度旨依願聞届ル

一 紙屋町善兵衛外貳人七月十七日夜烏賊獵に出沖合え被吹出候哉行衛不知旨届ル

一 諸山水道筋之内所々損所有之に付御入用高九百貳拾壹貫文餘穿鑿御入用之内を以御普請申付廣間役

當分助加藤斧八其外役々掛り申渡

一 支配組頭并廣間役御用に而被爲召家内女とも時宜に寄三國路猿ヶ京御關所通行之義十四年以前午年

問合之上挨拶之趣を以此後通行之節は在勤奉行證文を以相斷候様可致に付鈴木傳市郎若林市左衛門印

鑑其筋え達有之様七月中御勘定奉行え達奎ヶ橋御關所も同様印鑑松平右京大夫留主居え達

一 七月中北ノ方え當り彗星出る

一 去々巳去午兩年分佐州燒金江戸表え可差越旨御書取七月廿一日松平周防守殿御渡閏七月二日到來

一 去々巳年分山出燒金拾貳貫貳百四拾八匁壹分去午年分同斷拾三貫三百三拾六匁八分合貳拾五貫五百

八拾四匁九分此小判積六千貳百六拾四兩壹分永六拾文壹分橋本權平久保十左衛門宰領して閏七月九日

相川出立同十三日小木湊出帆道中御證文水野越前守殿

一 閏七月六日大風高波に而夷湊兩町境橋押流片野尾月布施兩村往還道并片野尾は人家貳軒月布施は人

佐渡年代記 卷之十八

二二三

家壹軒納屋三軒流失松ヶ崎村字青木往還道并人家四軒流失其外地面引流住居不相成家拾四軒有之旨訴
出見分之者遣し夫々手當に及ふ

一 同日野浦村多左衛門納屋高波に而危く相見本家え品物持送り候内同人女房まゝ二階に居候節納屋打
流シ溺死いたす

一 同日越中國新川郡西小橋吉三郎船四人乗下久知村濱え馳揚及破船乗組別條なし

一 同日湊町仁兵衛船四人乗夷湊に囁懸いたし居磯邊え打寄破船夷町紋右衛門船五人乗は檣伐捨打荷い
たしいつも乗組別條なし

一 同日加州石川郡大野浦理左衛門船三人乗越後國三島郡尼瀬町徳三郎船二人乗赤泊湊におゐて破船及
ふ乗組別條なし

一 閏七月八日曉壹町目濱町吉十郎納屋より出火本家其外類焼なし

一 於西九姫君様被遊御誕生候處表向被仰出は無之御名之儀は千惠姫君様と奉稱右に付表向御祝儀等申
上不及旨閏七月二日附御奉書同十三日到來

一 江戸詰山本桐之亟調合藥玉鉛宰領七月廿八日江戸表出立日光御宮參詣奥州會津通閏七月十五日越後
出雲崎え出津同十六日佐州小木湊え渡海同十七日新町村止宿翌十八日相川え歸着道中傳馬御證文水野
越前守殿

一 閏七月十一日松平千三郎殿御事松平越前守養子被仰出候右に付御祝儀等不及申上旨同十二日附御奉
書同廿二日到來

一 同廿一日大風高波に而小木湊掛り之奥州南部廣三郎船九人乗加州栗崎浦木屋藤右衛門船九人乗及
難船乗組別狀なし

一 同廿二日下戸町伊左衛門船五人乗夷湊におゐて破船乗組別條なし

一 江戸詰佐野勝右衛門無宿四拾四人宰領閏七月十三日江戸表出立三國路通同廿一日越後寺泊え出津同
所におゐて無宿之内梶野新田與七病死同所寺院え取置殘四拾三人召連同廿六日佐州赤泊湊え渡海翌廿
七日相川え歸着道中傳馬御證文松平和泉守殿

一 金銀山御入用之内大工五千人分并穿鑿御入用其外薄鏈御買上代等之儀當未年迄五ヶ年御斷之處猶又
來申より子迄五ヶ年は迄之通御斷之義申上書面六月中大久保加賀守殿え進達七月十三日三ヶ條共同之
通御下知有之

一 去午九月佐州後藤三右衛門役所類焼之節銅錢燒流候分銅座え賣上度旨三右衛門申立候に付佐州より
大坂銅座え荒銅相廻候節右燒錢別箇にいたし一同差廻候様致度旨七月中土方出雲守下田幸太夫より懸
合有之に付荒銅は大坂御廻米引請人越後柏崎規右衛門船え積渡候間其節燒流銅錢佐州銅方役所え差出
候は、荒銅一同大坂銅座え可差廻に付右之趣三右衛門は勿論大坂銅座詰役人并規右衛門えも申渡有之
様挨拶に及ふ

一 青盤間歩松太郎敷より冠大吉敷え高下六丈餘去午八月より當七月迄に切抜出來に付稼所え之通路附
替有之

一 四日町長石兩村濱通り見取畑御高入之義相願ひ候に付檢地有之三輪四郎左衛門は國仲筋川々御普請

見分序廣間役白石吉郎其外役々右御普請仕立出役中より兼合

一 廣間役井上儀右衛門儀御金藏定番役明次第申渡尤廣間役持格に而是迄取來役扶持貳拾人扶持勤候内其儘被下候旨水野越前守殿御書付八月三日御渡有之同十二日到來同廿四日轉役并御書付之趣申渡

一 廣間役助山中又四郎廣間役え同當分助加藤斧八廣間役助申渡

一 松ヶ崎村金十郎船米五拾壹石積乘組四人去午二月羽州秋田湊心掛出帆之處其後歸帆不致所々風聞等承候得共行衛不相知旨届る

一 九月十一日曉越後國頸城郡鬼舞浦直船頭與右衛門船拾壹人乘高崎村沖合沈瀬え馳懸り及難船乘組別條なし

一 浚明院様五十回御忌御法事於東叡山九月四日より御執行之旨同五日附御奉書同十六日到來

一 世上通用之ため新規百文錢吹方被仰付候間右百文錢壹ツを以並錢百文之代りに相用國々に至るまで有來通用錢に取交無差支通用可致旨御觸書九月二日松平周防守殿御渡右同斷

一 銅錢鐵錢吹方先年被差止候處此度鐵錢吹増被仰付候間國々におゐても彌無差支通用可致旨御觸書九月二日大久保加賀守殿御渡右同斷

一 眞字貳步判通用之義當十月より彌停止候間停止以後堅通用致間敷尤遠國其外無據引替殘も可有之哉に付引替所之儀先ツ是迄之通被差置候間所持之者は早々引替可申若停止以後眞字貳步判通用いたし候歟又は貯置不引替ものは吟味之上急度可申付旨御觸書八月廿六日大久保加賀守殿御渡右同斷

一 燒金宰領出府いたし候橋本權平久保十左衛門八月廿六日江戸表出立日光御宮參詣奥州會津通九月十

一日越後出雲崎え出津同十五日佐州小木湊え渡海同十六日新町村止宿翌十七日相川え歸着道中傳馬御證文松平和泉守殿

一 九月十三日喜代姫君様被遊御平産男子出生之旨同十四日附御奉書同廿四日到來

一 浚明院様五十回御忌御法事於東叡山首尾好御執行九月八日公方様被遊御參詣萬端御作法無殘所相濟恐悅之旨同十一日御奉書右同斷

一 九月十九日能州珠洲郡飯田浦庄右衛門船三人乘倉谷村字ヲットに而破船乘組別條なし

一 中尾間歩上岡山に字大乘寺新田と唱元祿七戌年下田壹反六畝拾五步山下に田壹反九畝廿壹步御高入相成候得共年來之荒所に而出水湛へ沼池同様相成流末不相知候に付右水敷内え漏落候義も可有之哉と試之ため假手當之上右出水字八森澤え流落し候處敷内の出水減少いたし候旨山方役申立に付大乘寺相糺候處山道往還際之場所故牛馬猥りに入込何分田地に難相成年久敷荒所に而御年貢辨納いたし居候場所に付出水流落候而も差支無之段申立るに付溝仕付之上出水一圓八森澤え引捨御普請申付翌申年大乘寺依願田畑成になる

一 古金銀貳朱銀壹朱金等今以引替殘有之候間引替所之義來申十月迄是迄之通被差置候間不殘爲引替候様御觸書九月廿九日水野越前守殿御渡十月十三日到來

一 十月六日於御前松平伯耆守殿御事御懇之以上意御本丸に而可相勤旨被仰渡候段同七日付御奉書十一月十五日到來

一 十月廿九日松平周防守殿病氣に付願之上御役御免帝鑑之間席被仰付候旨同晦日附御奉書右同斷

一 廣間役白石吉郎儀妻子等も召連江戸表え罷越候様可致旨十一月七日大久保加賀守殿御書付御渡同十五日到來同十六日申渡同廿三日相川出立十二月五日小木湊出帆

一 右白石吉郎上下之者并荷物等小廻船三艘に而小木湊出帆之處越後地二三里に成風筋相變夜半後より大雪に成翌六日朝に至り風波強く吉郎乗船は逆も無難之程難計旨船頭申聞候程之處同日四ツ時頃榊原式部大輔領分越後國頸城郡笠島村え馳寄村方より助船其外多人數差出介抱に而上陸七日朝に至り荷物船は出雲崎え着船之義同所陣屋浦觸に而承知柏崎迄歩行に而罷越荷物待合旅具取繕等に而八日は滯留いたし荷物之内引分ヶ信州路差廻同九日柏崎出立奥州路え通行之處同十三日越後行地宿え至り雪支に而同所え止宿翌十四日宿方に而品々手當之上諏訪峠通行十二月廿四日着府

一 組頭廣間役出府之節御手當員數を極る

一 眞字貳分判通用停止被仰出候に付御金藏御在高之内千貳百四拾八兩當未年分山出灰吹銀來申年上納之節差立蓮池御金藏におゐて御引替之義十月中大久保加賀守殿え書面進達十一月三日伺之通相心得土方出雲守下田幸太夫え可申談旨御下知有之

一 支配組頭掛り御用相勤候御用扶持是迄御斷無之候に付金銀山敷内御普請之外廉立候臨時御普請御用相勤候節は分限に應し御用扶持被下方之儀二月中松平周防守殿え書面進達いたし置候處御用中分限に應し勤日數を以平扶持之積野扶持被下候旨十一月十四日大久保加賀守殿御下知有之

一 國仲筋惡水拔川々御普請七月廿八日より取掛り八月廿日迄に皆出來御下知高と差引尺々百七拾八本相減末木千四百壹本増錢貳百貳拾壹貫百貳拾四文は御普請中世話爲致候もの雇賃其外筆墨代小入用等

惣牀御普請仕來に振候由にて於御勘定所相除候廉に候へ共佐州之義は右小入用相減候而は仕來に振迄組合村々混雜いたし候間右之分増御渡之義其外掛り之者御褒美願十月中差立大久保加賀守殿え進達右御入用増之分共申上之通に而相濟申三月御藏斷到來

一 松平越中守領分越後國三島郡野積村海上沖合にて九月六日夜難破船有之死骸流寄候内佐州雜太郎眞野村觀智坊自本松平肥後守領分會津北方藤卷村藤藏外壹人越中守領分三島郡五千石村淨土眞宗敬勝寺住持に有之敬勝寺住持は死骸引渡其餘は野積村西生寺え假埋申付置候に付出張之上會津役人共一同立會改而吟味可有之哉之旨一件書物寫相添十一月二日柏崎陣屋詰川澄何右衛門伊藤太右衛門書狀持參飛脚到來に付觀智坊院代眞輪寺病氣に付組合隆昌院相糺候處兼而風聞も有之溺死一件聊申分無之候間死骸請取として罷越申度旨申立吟味一件は寫に而相分り候上は改而立會吟味にも及問敷此方より出役不致候間隆昌院罷出候は、尙糺之上決着有之様廣間役より返書爲遣

一 右觀智坊自本溺死一件に付隆昌院病氣代眞輪寺弟子寛住罷越死骸請取本葬いたし十二月中歸國一件落着安堵いたし候由川澄何右衛門外壹人より廣間役え返書差越

一 相川五郎左衛門町金五郎弟壽三郎儀當六月江戸表え身上稼に罷出銀座貳町目伊豆屋傳兵衛方に奉公いたし商ひ物取逃京都まで登り當八月密に歸國いたし町廻り同心召捕候處傳兵衛始引合之者一同打合吟味不致候而は難決候間江戸表其筋に而吟味可被仰付哉之儀相伺候積り町奉行え相談旁伺書寫相添十二月及掛合處京都にも引合有之佐州に而吟味有之候而は不辨理にも可有之候間見込之通伺可然旨筒井伊賀守より申正月十五日挨拶有之

十一月十五日徳川民部卿殿え永姫君様御引移即日御婚禮萬端御作法首尾無殘所相濟候旨同十六日附御奉書十二月廿一日到來

一 永姫君様御婚禮相濟候に付而爲御祝儀輕罪之者赦被仰付候間當時赦に可相成もの遂吟味如先格可申付旨御書付十一月三日松平和泉守殿御渡有之十二月廿一日到來於佐州當時可申上者無御座旨申上書面同月差立申正月御同人え進達

一 市中困窮之者貳百九拾五人え救として米を爲取

一 當未年家數人別増減書付十二月中大久保加賀守殿え進達

高拾三萬貳千五百七石壹斗壹升

加茂 羽茂 雜太

三郡貳百六拾壹ヶ村

家數貳萬四百九拾三軒

内壹軒

去午年に増

男五萬千五百七拾人

外五百貳拾七人

去午年に減

女五萬五百七拾三人

外九拾壹人

去午年に減

牛七千三百三拾五疋

内六拾五疋

去午年に増

馬六百八拾四疋

内九疋

去午年に増

外

高九拾石五斗

御朱印領

寺壹ヶ寺

家數七拾軒

無増減

男百八拾三人

内壹人

去午年に増

女百九拾人

内壹人

去午年に増

一 近年こうなこ獵乏敷處今年春より冬迄相應に揚る外海府西濱三崎邊重に而内海府前濱邊は少しと云
一 金銀山水道筋之儀九月下旬より霖雨打續岡川通り出水に而敷内水勢相増水道え落込所々留棚潰込候に付金四百六拾兩永百貳拾四文御金藏御除金之内を以仕越御普請之儀申上書面十月中差立大久保加賀守殿え十二月廿日伺之通取計御普請中可成丈御入用相減候様可致旨御下知有之

一 佐州御役所向始浦方番所浦目付所等に至迄四十九番迄之小繪圖并右に引合候國繪圖相添寛政七卯年差上置其後三ヶ年目毎模様替有無申上來候處去年九月御作事方役所燒失之節繪圖面類扣不殘燒失に付今般諸向とも有形を以繪圖面取調直シ五十八番迄之小繪圖并右番付に引合候國繪圖差上是迄之分は一圓御引替御下之儀申上書面十二月中差立申正月十一日松平和泉守殿え進達

一 十二月廿四日夜大雪に而裁許所白洲とも屋根一圓落込

一 今年田方熟作之趣に而八月頃米價引下り壹石五貫文餘に成候處取入に至り合毛劣り且又近國不熟之由に而賣米不積來追々引上冬中七貫八九百文餘に至る畑作も宜けれとも價は不減大根は國中惣体近年無之上作なりといふ

一 武井村醫師玄碩會津と佐州産物交易之義に付行違筋有之於會津吟味中に候處保科季右衛門え掛合及ひ度義有之松平肥後守役人佐藤房次郎藤井儀右衛門差向候段右家中清水作右衛門外兩人より廣間役え之書狀持參十月中小木湊え渡海に付季右衛門罷在候夷湊御役宅え差遣爲及懸合早速事濟之由に而歸國いたす

一 長江村繁太郎事治左衛門弟政吉と云もの松平右京亮領分上州高崎城下町に而盜いたし召捕候由右家來より掛合之處右治左衛門と申立候は長江村式太郎にて政吉と申立候者紋之助に有之去午七月出奔帳外に成候者に付其段廣間役より返書に及ふ

天保七 丙申年

一 佐州御役所大御門其外燒失跡御普請御用出精相勤候に付爲御褒美組頭三輪四郎左衛門え銀拾五枚廣間役小池小次郎田中從太郎同助山中又四郎え銀五枚つゝ定役四人 御普請所定役桑山愛之助同助富田俊助目付役藏田太仲古屋與七郎 え金貳兩宛并役三人 御普請役黒瀬平藏齋藤庄三郎同助山下勘之丞 使役貳人 萩野彌曾八吉田登一 え金五百疋宛町同心貳人 渡部與一郎吉村儀一 旨御書付未十二月廿九日大久保加賀守殿御渡正月十四日到來

一 佐州村々惡水拔普請出精相勤候に付爲御褒美三輪四郎左衛門え銀五枚定役三人 地方掛頭取助永井庫之助地方掛助辻八三郎久保藤十郎

え金三百疋つゝ并役壹人 地方掛并役藤田裕之進 え金貳百疋町同心壹人 野原繁之助 え金百疋御褒美被下候間被下金銀は佐州御金藏より相渡候様可致旨御書付前同斷

但元廣間役に而掛り相勤候白石吉郎えは於江戸表銀貳枚被下

一 去十二月廿三日井伊掃部頭殿大老職被仰付候旨同廿四日御奉書正月十四日到來

一 支配勘定格廣間役白石吉郎儀去十二月廿六日支配勘定被仰付候旨正月十四日申來

一 元祿度出來候御國繪圖郷帳年曆相立候に付去ル卯年御國高え調被仰出候處出來に付尙今般御國繪圖之義も御改被仰出依之元祿度佐渡國御繪圖寫え往還并海岸通り川筋其外新田村に至まで不洩様當時之地模様右繪圖え掛紙にて取調早々差越候様去十二月中明樂飛彈守 御勘定奉行 大澤主馬 御目付 中川忠五郎 御勘定吟味役 より掛合有之御繪圖寫前日到來

一 清土岡村次郎左衛門父休兵衛外貳人九拾五歳に相成に付老養扶持壹人扶持宛長江村藤左衛門親道心眞定外壹人九拾歳に相成に付鳥目を爲取

一 鈴木傳市郎去秋以來折々持病之腹痛いたし候處正月廿七日曉より別而不相勝候に付廣間役壹人宛晝夜御役所え詰切其外取締方等之義組頭より達

一 二月十二日鹽屋町龜四郎船三人乘姫津浦出帆東風に被吹流行衛不知旨届る

一 同廿三日夜貝塚村權兵衛灰小屋より出火本屋酒藏等燒失外類燒なし

一 二月十六日脇坂中務太輔殿西九御老中格被仰付被任侍從候旨同十七日御奉書同廿六日夜到來

一 同十八日湊町四郎右衛門船え同人養子茂吉外三人乘組獵業に出南風高波に成行衛不知旨届ル

一 去未年大坂銅座え相廻候去ル巳年分荒銅代金五百五拾兩三分銀八匁九分五厘四毛之内金五拾九兩三分銀八匁九分九厘は直増御手當之分銅山稼御仕入之方え引取殘之分二月十四日蓮池御金藏え上納

一 鳥越間歩樋場通御普請御入用高六百三拾壹貫文餘穿鑿御入用を以御普請申付廣間役山中又四郎其外役々掛り申渡

一 去冬町奉行え掛合置候相川五郎左衛門町金五郎弟壽三郎江戸表主人方取逃いたし候一件吟味之義京都にも引合有之佐州に而吟味いたし候而は不辨にも可有之候間見込之通伺可然旨正月十五日筒井伊賀守より挨拶に付其筋吟味可被仰付哉之伺書同十八日松平和泉守殿え進達二月四日壽三郎儀町奉行え引渡候様御差圖有之同十二日申來

一 右に付使役荻野彌曾八町同心藤澤武兵衛吉田林平差添二月十九日壽三郎相川差立囚人道中御證文松平和泉守殿右囚人同廿四日小木湊出帆三月八日江戸着榊原主計頭え引渡彌曾八外貳人歸國之節日光御宮參詣四月十三日相川え歸着使役以下之參詣此時に初る

一 三月四日鈴木傳市郎病氣差重り跡目願書江戸表え差立有之御下知狀并宿繼御證文組頭兩人え可相渡處三輪四郎左衛門病氣に付高山又藏え相渡四郎左衛門出勤之上は申合可取計旨申渡

一 鈴木傳市郎病氣養生不相叶三月五日辰ノ上刻死去之旨用人より組頭え届に付其段諸役人え申達江戸表え組頭より御用狀差立若林市左衛門え届る

一 高山又藏壹人勤に而御藏々御用向も有之御役所詰切難相成に付三月五日より御下知狀等御役宅え持參御藏出役之節は御役所に差置封印之儘廣間役え預ル

一 鈴木傳市郎遺骸三月七日山之神曹洞宗總源寺え葬る

一 御代官山本大膳手附御普請役格平塚金兵衛義三月四日松平和泉守殿御書付を以佐渡奉行支配與力格廣間役被仰付候旨同十三日申來

一 諸組與力同心手代等身元慥ならさるもの有之趣に付支配頭にて吟味入念候様御書付二月晦日大久保加賀守殿御渡三月十三日到來

一 鈴木傳市郎家來之内重立候者兩人若林市左衛門到着迄居殘其餘家來共一同三月十五日引拂

一 鈴木傳市郎佐州御役所におゐて大病に付若病死之節佐州におゐて異國船渡來漂着其外異變之節越後三領主え人數差向方之義組頭より申進候義水野越前守殿え若林市左衛門より申上年番榊原式部太輔留守居えも達

一 去未御年貢米之内壹萬三百八拾石巳年拜借返納米六百石合壹萬九百八拾石内三千三百五拾石 大石 七百六十三拾石 夷湊御廻米になる

一 去未御年貢小物成諸運上等三月廿九日迄に御藏々え上納皆濟若林市左衛門到着之上右御届差立る

一 諸秤之儀守隨方より役人相廻候節不隱置改請手前に而衛并鍾緒等取替間敷旨御觸書三月廿四日附御奉書に而若林市左衛門旅中越後出雲崎え到來

一 若林市左衛門三月十九日江戸表出立信州路通同廿八日越後出雲崎え出津四月二日小木湊え渡海翌三日相川御役所え着高山又藏守護いたし候御下知狀御證文等請取

一 右に付今日より廣間役詰切に不及旨を沙汰す



一 海老名寛次郎御藏方御勘定仕上相濟無宿貳拾三人宰領三月十八日江戸表出立内壹人道中に而病死殘貳拾貳人召連奥州會津通り越後新潟え出津四月二日夷湊え渡海無宿乗船は三日朝迄追々着岸同四日相川着道中御證文水野越前守殿

一 篠山十兵衛景徳四月八日鈴木傳市郎跡佐渡奉行被仰付候旨同十一日附御奉書同廿三日到來元御徒士頭なり

一 於西丸姫君様御誕生表向御弘は不被仰出御名吉姫君様と奉稱候旨四月廿八日附御奉書五月十日到來下戸町肴屋彌兵衛悻彌十郎下京町三次養子佐吉彌十郎町忠五郎悻駒次郎孝心之趣長坂町彌五兵衛母もん古主大切にいたす趣相聞ゆるに付夫々鳥目を爲取褒賞に及ふ

一 當春以來海獵多く市中米拂底に付來酉年可請取去ル亥年分御圍糶三千俵假請取之上正米に摺立相拂

一 吉岡村甚之亟悻勇次義久保十左衛門小者相勤候節同人下女寐間え忍入度由兼而懇意いたし候金藏申聞候を承受夜中非常口掛かね外し置候故金藏義右場所より立入十左衛門居間え忍入掛硯盜出シ錠前固辭明金貳拾兩其外潰金取出し出奔いたし候途中に而行逢候節右盜いたし候始末申聞金拾兩分ケ吳候を請取右一件吟味中牢抜いたし追而自訴いたし候とも右始末不届に付敲之上中追放申付

一 彌十郎町通りより淡路坂え入口道巾之内壹間彌十郎町權兵衛彌市え三尺つゝ年來影地に相成候處五月中不殘返納いたし淡路坂道筋元形之通りに成

一 越後國尼瀨町野口七左衛門引請御用船拾六人乗越後より江戸御廻米積請馳登五月三日夜能州沖合に而雷に逢橋裂折れ小木湊え入津に付吟味として廣間役永井四郎兵衛其外役々出役御廻米別條無之橋は

取替出帆申付其段御勘定奉行え達

一 去ル辰年甲州より呼下候紙漙平七初發より場所え立入候もの共え漙方傳達いたし最早同人居とも差支無之様相成趣を以願に依而歸國爲致

一 五月二日地役人悻厄介等拾人於書院素讀を試る

一 廣間役平塚金兵衛五月廿二日江戸表出立信州路通り六月朔日越後出雲崎え出津同五日佐州小木湊え渡海同六日新町村泊翌七日相川え着

一 組頭三輪四郎左衛門江戸表え罷越候様可申渡妻子等も召連引拂可申旨松平伯耆守殿御書付六月三日御渡同十二日到來十三日申渡同十九日相川出立小木湊え出津翌廿日出帆三國路旅行

一 大工町北側字牛ヶ窪空地并見取畑等同所益右衛門願に依而田地に開試る事を免す

一 六月十二日越後國糸魚川新田町與平次船三人乗深浦村字大囀え馳揚及破船乗組別條なし

一 米價高直に付市中八拾歳以上之者拾六人え米を爲取

一 小木番所附問屋能登屋仁右衛門下女よし主家大切に仕ふる趣相聞に付鳥目を爲取褒賞に及ふ

一 中尾間歩西敷通樋場損所出來に付御入用高千四百八拾貫文餘を以御普通申付廣間役田中從太郎其外役々掛り申渡

一 去末年分山出灰吹銀百八拾貫七百七拾八匁御傳馬宿入用金三拾八兩銀貳匁壹分七厘四毛御引替可相成真字貳分判千貳百四拾八兩藤木武助宮崎伊右衛門才領六月廿九日差立七月十日小木湊出帆道中御證文水野越前守殿燒金拾壹貫四百八拾壹匁六分此小判積り三千貳百五拾九兩三分永貳百拾五文九分佐州

御金藏に積置出方御入用差引七百五拾三兩貳分永百五拾九文壹分御益に成江戸詰藤木武助渡邊佐左衛門御勘定仕上る

- 一 同年分山出荒銅貳千五百五拾貫目此金四百八拾五兩貳分永六拾三文九分
- 一 三輪四郎左衛門七月三日御弓矢鍵奉行被仰付候旨松平伯耆守殿被仰渡候段同十六日申來
- 一 石坂宗哲之製法被仰付候官製人參之内御用殘之分世上爲御救御拂相成御府内何れ之藥種屋に而も賣買いたし候間望之者は勝手次第可買請旨大久保加賀守殿御書付之趣大目付より達有之
- 一 銅稼之儀薄鏈多に而粉成吹方は迄之仕法に而は難引合候間様之上大吹之仕法に倣ひ候へは御入用相減候に付銅床屋役所勝場床屋とも建直序大吹床仕付候積り右御入用は御普請之節地割のみ掃に而取揚候銀銅御買上代と取揚入用と差引有餘を以仕拂木品は御林木遣之積り御普請爲取掛候段七月十七日大久保加賀守殿え書面進達廣間役平塚金兵衛其外役々掛り申渡
- 一 佐州山出金元和七酉年より後藤庄三郎手代佐州え呼寄小判に吹立上納以來金銀吹替之度々燒金に而相納候儀も有之候へ共延享三寅年分より文政元寅年分迄は於佐州吹立候處小判壹分判吹直に付翌卯年より燒金延金之儘佐州御金藏に積置其後御沙汰に付追々江戸表え上納之處小判壹分判吹立手業相心得候もの追々病死又は老衰に而殘少に相成右之者死失候へは元和以來相續之職業絶果候様可相成哉に付兩三年も一ヶ年分山出筋金高之内三分一通成共於佐州小判貳分判壹分判貳朱判之類吹立方被仰付候様御内慮伺書五月廿一日大久保加賀守殿え進達之處當申年分山出金高之内三分一は向後江戸表え上納には被仰付間敷佐州御藏え別廉に除置尤同所に而通用金に吹立候儀は今暫見合可申追而頃合之儀は御達

可有之右三分一之分年々燒金之儘納置候積り可取計旨十一月十九日御下知有之

- 一 金穿大工五千人分去々午より當申迄三ヶ年増御斷有之處年限に付引續來酉より亥まで三ヶ年増御斷之義五月晦日大久保加賀守殿え進達七月五日伺之通御下知有之
- 一 外海府村々は米拂底之處近來酒造屋相増米融通に差響に付外村出稼いたすもの三人は引拂元村に而渡世可致旨を沙汰す
- 一 諸國酒造之義今以米價高直に付去ル巳年以前まで造米高之内三分二相減三分一酒造可致旨御觸書七月廿八日大久保加賀守殿御渡有之
- 一 八月十三日夜越後柏崎規右衛門手船九人乘夷湊御廻米積請之積空船に而同所に囀掛いたし居風波に而及破船乗組別條なし
- 一 同夜野浦村囀内におゐて越後蒲原郡中村小三郎船三人乗及破船右小三郎は溺死相川材木町多四郎船三人乗是亦及破船乗組別條なし
- 一 同夜水津湊囀掛り能州羽喰郡鹿頭村季三郎船外八艘破船に及ふ乗組別條なし
- 一 御勘定評定所留役河島才右衛門八月四日三輪四郎左衛門跡組頭被仰付候旨同十六日申來
- 一 當田方之儀土用中より雨天打續七月中旬に至り一旦晴上り候へ共同月下旬より猶又雨天勝其上不時之冷氣に而山寄村々虫附并實入不宜山澤之場所は皆無同様に而願筋申立候村々貳百ヶ村に及ひ候内三拾ヶ村餘は破免檢見入相願に付八月中一通り申上書面差立
- 一 青盤間歩水道字龜助尻留棚危く相成御入用高八百六拾貳貫文餘を以御普請申付廣間役當分助原田次

郎右衛門其外役々掛り申渡

一 八月十八日大崎村傳七灰小屋より出火類焼三軒

一 同廿二日能州珠洲郡折戸浦惣兵衛船五人乗八幡新町濱におゐて難船及ふ乗組別條なし

一 當申年大坂銅座え相廻候去々午年分荒銅貳千七百貫目代金五百拾壹兩三分銀拾壹匁九厘六毛之内金五拾四兩貳分銀四匁五分貳厘は直増御手當之分銅山稼御仕入之方え引取殘之分八月廿六日蓮池御金藏え上納

一 越後國御廻米御用達野口七左衛門差配御用船永保九加賀沖に而逢難風橋切捨八月廿七日夜小木湊え入津地方掛出役見分之上假橋補理出帆に付御勘定奉行え達

一 大坂より差下水替道中御規定等取調相濟候に付來酉年より拾人程宛木曾路通目籠に入宿繼人足御定之賃錢拂越後出雲崎より佐州小木湊へ渡海之積り之旨八月中大坂町奉行より掛合有之當時小屋内人數多に付拾人宛隔年に差下有之様挨拶に及ふ

一 江戸詰仙田良平八月十五日江戸表出立眞字貳分判御引替相成候金千貳百四拾八兩地方御藏有高古金銀六百貳拾五兩三分金銀座に而引替候分并調合藥玉鉛宰領信州路通り同廿七日越後出雲崎え出津九月四日佐州小木湊え渡海同五日新町村止宿翌六日相川着道中御證文大久保加賀守殿

一 江戸詰佐々木紋左衛門無宿五拾人才領八月廿四日江戸表出立信州路通九月五日越後出雲崎え出津右無宿之内三人道中に而病死殘四拾七人召連同六日小木湊え渡海猶又壹人病死同七日新町村止宿翌八日相川え着道中御證文大久保加賀守殿

一 内府様御年も被爲重候付而御政務被遊御讓御本丸え來酉年四月可被爲移候公方様被遊御隱居西丸え可被成御移候不相替内府様え御奉公可仕旨九月四日被仰出候段同日御奉書同十五日到來

一 九月四日松平伯耆守殿永井肥前守殿御移替に付西丸え被召連太田備後守殿森川内膳正殿御本丸え被召連脇坂中務太輔殿御懇之以上意連判之列被仰付大納言様え被爲附本多豊後守殿大納言様え被爲附大岡主膳正殿大御所様附若年寄堀田攝津守殿大納言様附若年寄被仰付候旨御奉書前同日到來

一 九月四日夜青盤間歩敷内長助廣戸樋場八番順厚身地山石肌より割離堅六間横四間程之大石并右以下大石夥敷通行筋貳拾間餘之場所え崩落樋場三ヶ所突埋敷内鳴動いたし候に付御稼引取落石之間合見計假手當いたし同九日より御稼相立候に付御届書面同十五日差立

一 右急破に而是迄之樋場難相用候間西通りえ一圓引移之積其外所々仕越御普請御入用千三百拾六兩永五拾四文六分請取方御藏斷申上書面十一月五日差立伺之通可取計旨酉二月四日御下知有之

一 右御普請に付組頭高山又藏廣間役小池小次郎井口茂十郎同當分助原田次郎右衛門其外役々掛り申渡
一 村々破免檢見有之組頭河島才右衛門未參着不致高山又藏壹人勤に付廣間役兩人差出候旨申上置廣間役平塚金兵衛山中又四郎其外地方役人出役申渡九月五日出立

一 百姓町人等自分用に而致旅行候節地役人共より道中宿々え添觸又は駄賃帳等相渡或は家來銘目にい
たし遣候ものも有之哉に相聞并近來雇飛脚差立候も不少其内には爲差用事に無之分も相聞自今以後右
様之趣於相聞は急度可及沙汰旨書付を以申渡

一 本山方修驗大工町法教院椿榮義同町字牛ヶ窪より上京町迄坂道手入自普請いたし奇特に付白銀を爲

取褒賞に及ぶ

- 一 來酉年四月公方様内府様御移替之節西丸え御臺様御本丸え御簾中様御移替可被遊旨内府様御移替當日より上様と奉稱將軍宣下當日より公方様と奉稱候旨公方様西丸え御移替當日より大御所様と奉稱候旨書狀に御移徙以後は三御所様と相認御一方様の御事は上様大御所様大納言様と可相認尤將軍宣下以後は准前條可認旨御臺様西丸え御移徙當日より大御臺様と奉稱御簾中様御本丸え御移徙當日より御臺様と奉稱旨九月十三日御奉書同廿三日到來
- 一 河島才右衛門九月六日江戸表出立信州路通同十七日越後出雲崎え出津同廿二日小木湊え渡海同廿三日新町村止宿翌廿四日相川着
- 一 江戸詰之者御殿御勘定所え罷出候節是迄書物等いたし候場所無之に付在府篠山十兵衛より筋々掛合之上以來御納戸同心部屋に罷在御用向相辨する事に成
- 一 十月二日夜二方瀧村太郎兵衛居室より出火類焼なし
- 一 同三日夜四日町村長右衛門灰小屋より出火類焼九軒取入候稻并粃とも焼失
- 一 當田方不熟に而市中米拂底に付去ル亥年分御圍粃當春請取殘之分三千俵餘御藏請取之上正米に摺立相拂
- 一 二町目土田屋善兵衛義同所困窮もの八人家内人數に應し壹人一日四合宛町相場之内壹升に付拾文安に而十月より來西正月迄賣拂ひ遣度旨願出る
- 一 十月十九日夜瓜生屋村甚内土藏より出火類焼なし盜賊之所爲と聞申

- 一 長江村定太郎義孝心奇特之趣相聞に付鳥目を爲取褒賞に及ぶ
- 一 大坂御廻米引請人越後柏崎規右衛門義納方に付品々難澁之趣を以引請御免相願候間當申御年貢米來酉御廻米之分は廻船方御用達佃屋勘左衛門え積廻方申付候旨十月中御勘定奉行より掛合有之
- 一 古金銀眞字貳分判古貳朱銀壹朱金等今以引替殘有之に付猶又來酉十月まで引替所是迄之通被差置候旨御觸書十月廿八日水野越前守殿御渡有之
- 一 當年大坂御廻米積殘貳千六百石餘有之來春まで夷湊假藏に圍置候而は多分の欠減相立御不益に付去ル寅年御廻米佐州出帆後秋受大坂え着船いたし兼る米買納に相成候例を以積殘米引請人規右衛門手に而爲賣拂大坂表にて買納に相成候は、御不益も有之間敷旨十月中御勘定奉行え及掛合處規右衛門義引請難澁申立當申御年貢之義は廻船方御用達え引請申付候義に付右御米金山稼之もの其外人足等之扶持米渡又は夫食足合等にいたし候は、當節之凌にも可相成候間新穀に引替來春大坂御廻米に取計候様十一月月中挨拶有之
- 一 諸國酒造之義三分一造彌以嚴重相改場所に寄三分一造之内減申付又は酒造皆差止申付候とも可爲勝手次第其外江戸表等諸方え積廻候樽數も三分一之積り可相心得旨御觸書十一月五日大久保加賀守殿御渡有之

- 一 村々違作に付夫々手當に及ひ候得共一舂人別に見合出來米少き國柄に付大坂御廻米壹萬石程之内年々三千五百石宛御殘置に相成候様仕度段若林市左衛門文談之趣を以渡海滯之時節ゆへ在府篠山十兵衛より御内慮伺十一月中大久保加賀守殿え進達之處以來年々三千五百石宛引殘し之義は難相整乍然當年

不作之趣に付去未御年貢大坂廻之内積殘米貳千六百石之分并當申御年貢來西大坂御廻米高之内九百石都合三千五百石之分當申一ヶ年限不作手當に差向石數之分は來西秋新穀を以來々戌年御廻米に可取計旨十二月廿二日御下知有之酉正月十九日到來

一 米價高直に付銀山仕入として市中之者御拂米代え添相納候出錢之分當分差免旨十一月中沙汰す

一作損に而在中不穩趣相聞るに付取締として地方掛りえ町同心差添十一月中廻村爲致

一 市中米拂底に而難儀之趣に付十一月より御藏御拂米廣惠倉え請取壹石に付九貫四拾八文之割合を以市中飯米拂遣

但在中は新穀取入之頃より壹石拾壹貫文程夫より追々引上十二月に至り拾七八貫文迄と云

一 内府様御麻疹被遊候處御様躰御輕恐悅之旨十月廿二日附御奉書十一月廿一日到來

一 内府様御麻疹御快然十一月四日御酒湯被爲召候旨同日附御奉書前日到來

一 長崎廻俵物代去ル午より當申迄三ヶ年之間佐州御金藏え返納いたし年限に相成候處今以同所御金藏御繰合不宣候間來西年より來ル亥年迄三ヶ年之間是迄之通長崎奉行より請取佐州御金藏え相納度旨御勘定奉行え掛合之上相伺候處伺之通取計年限明之節納方之儀猶可相伺旨十一月廿日御下知有之

一 國中一同不作を申成し一村之外他村にて賣米を制し合候故皆畑町場米買入不相成趣相聞に付自國內は村々米繰對談を以自由相成候様可致旨在方掛より爲觸

一 見立村勘兵衛船四人乘萬吉船三人乘當春乘出後行衛不知旨を届る

一 十二月十三日曉江積村茂七灰小屋より出火類焼拾貳軒

一 同十六日曉赤玉村與七郎灰小屋より出火類焼四軒

一 三日市太夫次郎名代中澤兵右衛門日本大繪圖壹箱學問所え奉納

一 栗野江村長傳寺四十餘年無住に而修驗院代致居候處村役人より本山羽州湯殿山大日坊え申立今年住持を下し住職いたす處大日坊修法に而種粃本尊前え備置加持供養いたし右粃村々百姓種粃に少々つゝ加へ候得は虫附之患無之に付來春より右修法相營望來候者え施遣度尤施物請る義には無之旨願出ル

一 十二月廿一日朝清次間歩廊下内五間計打越俄にけたへ大工五行倒三人は即死貳人は生氣付追々快氣いづれも手當に及ぶ

一 市中困窮之もの三百八拾九人當人并厄介人數に應し救米を爲取

一 廣惠倉益金元金え増加今年より八千七百兩之高になる

一 當年無宿多數差下有之小屋内人數不足に無之候間來西年より貳拾人程引渡有之様致度旨九月中町奉行え掛合候處諸掛りより佐州え可遣相當之者差越候儀故人數は差定難及挨拶旨筒井伊賀守より申來に付來西年は大坂よりも水替差下之積り元御斷人數貳百人より相増候而は御入用にも差響候間來西年は貳拾人程引渡有之度旨猶又及掛合候處掛り々々えも申違貳拾人程可引渡旨十二月中挨拶有之

一 越後國尼瀨町野口七左衛門差配御用船三艘榊原式部太輔御領所江戸御廻米積入九月十九日より十月七日迄追々小木湊え入津風筋合兼冬圍ひいたすに付夫々掛合之上十二月中御勘定奉行え達に及ぶ

一 當申年家數人別増減書付十二月中差立翌正月大久保加賀守殿え進達

高拾三萬貳千五百拾貳石六斗六升六合

加茂
雜太

三郡貳百六拾壹ヶ村

家數貳萬四百九拾三軒 無増減

男五萬千七百貳拾壹人

内百五拾壹人 去未年に増

女五萬五百四拾四人

外貳拾七人 去未年に減

牛七千三百拾四疋

外貳拾壹疋 去未年に減

馬六百七拾四疋

外拾疋 去未年に減

外

高九拾石五斗 御朱印領 寺一ヶ寺

家數七拾軒 無増減

男百八拾六人

内三人 去未年に増

女百九拾貳人

内貳人 去未年に増

一 當春より四五月頃迄之内外海府相川西濱澁手三崎邊折々こうなこ獵夥敷有之國中田畑之肥に用たる

外油ハ粕他國え積出す所之高拾六萬九千九百貫目餘也此代金他國より入る所凡壹萬兩程なりと云近年なき所にて今年國中臨時之融通となる米穀之價前々聞及はさる高料なれば海邊米穀乏敷村々は早く飢にも可及を此幸ひあること天の此國を惠む厚しといふへし

一 屏風澤彌十郎間歩大吹所取扱に而年來少々宛出方有之處去夏より模様付今年に至り次第に景氣相進み十二月中十日鏈代壹貫八百目に成ル

一 當秋己來青柳間歩彌平間歩諏訪間歩靄子天道間歩等追々自他國之もの願出試稼いたすといへとも吹實少く引合兼手を引屏風澤藤兵衛間歩取明も取掛る大切山銅稼は追々様子宜趣に而大工仕掛銀銅出る彌十郎間歩に而功をなせしを羨み頻に古間歩稼願出しならんと云

一 中尾間歩元盛助臺取明御入用六百八拾貫文餘を以御普請申付廣間役助加藤斧八其外役々掛り申渡

一 米穀諸菜菓等女種を植れば作徳多きよし農業餘話抄に見ゆれば農事の助けとなさんため其形ヲ圖して村々え渡し遣す

今年諸國とも一般之違作に而東國北國別而不宜由冬に至り江戸表之相場百文に四合京大坂は壹石百八九拾目に及び奥州路は金壹分に三四升にも當る所有之よし風聞す當國破免檢見入にて御取箇減米六百貳拾七石其外惡米に而御收納に難立別而内外海府前濱山寄等遠在に而破免不得願又は願下といへとも皆無同様之場所不少に付五千九百八拾五石石代納申付一体去ル巳年の後翌午年熟作なれとも前年拜借米返納等にて穀を貯る間無之未年も不熟又今年に及び近國も違作に而賣米不積來國中夫食差支に付地拂米相對賣に不爲致分水替御入用米糶半納米等市郷え拂出す高五千八百石餘其外御圍糶

六千俵繰越請取相拂夫食御斷高も不殘貸渡猶大坂御廻米之内三千五百石不作手當に差向方御下知之
分を以來夏迄之夫食を繼しむ

佐渡年代記卷之十八 終

佐渡年代記 卷之十九

天保八丁酉年

- 一 金銀錢米札遣之儀前々御觸之通金錢札遣は難相成銀札米札共願濟之分は格別其餘遣札遣之儀は難相成事に付心得違無之様可致旨御觸書去十二月廿四日大久保加賀守殿御渡有之正月十九日到來
- 一 金箔并下金類取締方之義文政三辰年後藤三右衛門一手に相成同年并同七申年御觸有之候處近來又々猥に相成候趣に付以來急度相守吹金はつし金屑金等他所に而堅賣買不致金箔之義も定職之外相立候儀一切致間敷旨御觸書去十二月廿七日大久保加賀守殿御渡正月十九日到來
- 一 赤玉砂利四斗程御内御用之旨御小納戸頭取朝倉播磨守より達有之正月十九日申來に付赤玉村え地方掛出役爲致近郷よりも爲拾集精撰之上御扣とも八斗荷作之上雇足輕宰領爲致篠山十兵衛屋敷え向ヶ二月五日相川差立同十六日小木湊出帆三月朔日江戸着播磨守御役替に付美濃部筑前守え引渡候處御用相濟候旨追而達有之
- 一 正月十八日夜江積村清右衛門灰小屋より出火類燒五軒
- 一 同夜北小浦村與三右衛門灰小屋より出火類燒四軒

一 清士岡村與右衛門親與三兵衛羽茂本郷善次郎祖母も百歳に相成に付鳥目を爲取下横山村武兵衛祖母はま外貳人九十五歳に相成に付老養扶持壹人扶持宛下横山村平八祖母いよ外拾人九十歳に相成に付鳥目を爲取

一 二丁目松次郎忤龜次郎炭屋町龜助孝心奇特之趣相聞るに付鳥目を爲取褒賞に及ふ

一 正月廿六日夜大野村長助灰小屋より出火本家納屋焼失類焼なし

一 米價至而高直に付浦々におゐて他國船より米穀取引有之候は、當分之内役錢差免旨二月中沙汰す

一 村々夫食差支に付夫々拂米等取計ふといへとも小前之ものに至り格別之難澁有之趣相聞るに付地方掛り廻村爲致夫々手當に及ふ

一 廻船乗出に付米穀取締として二月より八月迄目付役頭取地方掛り頭取海岸村々其外え廻村爲致

一 村々違作に付去ル巳年御物成米之内拜借當年大坂廻返納可致六百石之分一ヶ年々延之義去冬御勘定奉行え打合之上伺書正月十一日大久保加賀守殿え進達二月四日伺之通御下知有之

一 正月廿一日御本丸え大納言様御移徙御式被爲在候旨同廿二日附御奉書二月四日到來

一 二月六日夜澤根村清兵衛灰小屋より出火類焼六軒

一 組頭高山又藏義江戸表え罷越候様可申渡妻子等も召連引拂可申旨御書付二月四日水野越前守殿御渡廣間役小池小次郎儀も同様御書付二月三日御同人御渡一同同月十七日到來同廿六日兩人共相川出立新町村泊翌廿七日小木湊え出津三月十二日越後出雲崎え渡海奥州路旅行

一 高山又藏小池小次郎御用召に付青盤間歩御普請掛り代り河島才右衛門平塚金兵衛申渡 三月十六日才右衛門敷下有之

一 鳥越間歩化粧棚其外道中筋損所出來に付御入用五百四拾貫文餘を以御普請申付廣間役助加藤斧八其外役々掛り申渡

一 佐州之義近年打續違作之處昨申年は別而不熟に而國中夫食にも差支金銀山景氣にも相響品々手當方差略等取計居候處に付交代頃合早めに出立萬端取扱之義評議に及ひ度三月中旬頃迄に御暇被下置候様仕度旨篠山十兵衛御内慮伺進達之處當年は三月中旬御暇被下候旨御書取を以被仰渡

一 二月廿七日夜久知河内村佐次兵衛灰小屋より出火類焼五軒

一 松平周防守元領分石州濱田松原浦無宿八右衛門竹島え渡海一件に付夫々嚴料被行右島往古は伯州米子之もの共渡海魚漁等いたし候得共元祿之度朝鮮國に御渡相成候以來渡海停止被仰出都而異國渡海之義は重き御制禁に候條向後右島之義も同様相心得勿論國々之廻船等異國船に不出會様乘筋等心掛以來可成たけ遠沖乘不致様乘廻り可申旨御觸書二月十九日水野越前守殿御渡三月六日到來

一 三月六日馬場におゐて砲術向陣屋におゐて武術を試る

一 三月十三日夜大川村藤左衛門灰小屋より出火浦目付役役家并百姓家三拾五軒類焼

一 二月十九日不容易企および大坂市中所々放火いたし及亂法候元大坂町奉行組與力大鹽平八郎并組與力大鹽格之助同瀬田濟之助同組同心渡邊良左衛門同庄司儀左衛門同近藤鍋五郎忤近藤梶五郎等人相書并去申十一月廿一日夜甲州巨摩郡上手村忠兵衛并同人孫娘みのを殺逃去候趣に相聞候右忠兵衛忤同國上神山村伊右衛門人相書とも三月四日水野越前守殿御渡同十四日到來

一 諸向御入用取扱候場所々之内掛り廣間役えも不申聞主役限之取計いたし候而も相聞心得違之事に

付以來右躰之向は糺之上嚴重に可及沙汰旨書取を以申渡

一年々交代之節陣屋奥向居間其外御修復之義他之もの不立入場所に付見躰に拘り候筋に無之候間御入用省き候義専ら心を用ひ内造作之内も年々新々ニ仕替候義無之様いたし且居間向補理替等可致義有之候とも格別手輕に可取計旨書取を以申渡

一文姫君様御不豫之處御養生不被爲叶三月十六日被遊御逝去候に付同日より同廿二日迄鳴物停止普請は不苦段同十七日御奉書三月廿五日到來に付鳴物は同日より四月朔日迄停止普請は不苦旨を觸る

當二月十九日不容易企および候大鹽平八郎え荷擔いたし候大坂玉造口御定番組與力大井傳兵衛舊離忤大井岩太郎事正一郎大坂町奉行組同心河合善太郎忤に而先達而致出奔候河合郷左衛門人相書三月十三日水野越前守殿御渡同廿五日到來

一定問吹所之義本途粉成買石引請之節は様吹出來姿に寄割増又は手當筋引上方等夫々取極有之候得共當時本途之方役人取扱に付右躰之義無之御入用掛り方買石共目利之虚實見合之ために候處近年買石引請之節願に依而様鏈引分方嵩多に相成當時右之振合故粉成方間取候に付追而引請に相成候迄は以前之通嵩少に引分可申付間出來形早く相分り候様取計可申尤近年之如く本途粉成入用多く相掛り候而は其ため銀山之立行にも拘り不容易義に付成丈御入用相省候主法勘辨いたし可取扱旨書取を以申渡

大久保加賀守殿病氣之處養生無御叶三月十九日卒去之旨同廿二日御奉書四月三日到來
但定例鳴物御停止有之候處文姫君様御逝去鳴物御停止中に付被仰出無之義と相見當國に而は朔日に而日限相立候へ共江戸表より不被仰下義に付觸に不及

一 山出金通用金に吹立之義去申五月相伺候處今暫見合三分一ハ年々佐州御金藏え除置候様被仰渡候處矢張是迄之通不殘御取寄御用途之一廉にも相成候様仕度向後之所山出金を是迄之位より程能位劣之御仕法被仰出被下度旨再御内慮伺二月中進達之處燒金位劣之義は程能可取計三分一之分以後年々佐州御金藏に納置其外は江戸表え相廻候様可致委細之義は御勘定奉行可談旨三月廿三日御下知有之

一 右に付位劣之義如何相心得可申哉且江戸表え相廻候分は是迄之通兩三年宛積置御沙汰次第上納之心得に候旨矢部駿河守え問合候處燒金之分以來程能位劣に而上納相成候に付而は右手本金は後藤三右衛門より佐州表同人役所え相廻置積に付是迄之通燒金之分右役所え差出候得は手本金に引合取極候積之旨矢部駿河守川路三左衛門より挨拶有之

一 二十二年以前御造替有之候小早御船貳艘木品朽損候に付御林木拾五本米拾貳石五斗八升九合五勺錢五百貳拾貫八百六拾貳文中割鐵百八拾貫四百三匁を以御造替之義二月中伺書進達伺之通御造替可致旨五月十九日御下知有之然處去申年之義近年之内就中之凶作に而村々相痛木品御林元より濱出積廻等抄取兼追々荒繁之時節に差向當年は作事難相成候間明年迄御造替差延候旨十一月中申上る

一 御武具藏并陣屋附土藏組頭北御役宅土藏近年地震に而破損に付御林木百四拾六本末木九本米三石九斗三升七合錢五百六拾五貫七百拾三文を以建替御普請之義二月中伺書進達十月朔日伺之通御普請之積取計尤出來之上可成丈御入用相減候様可致旨被仰渡

一 去申御年貢小物成諸運上等三月廿八日迄に御藏々え上納皆濟

一 去申御年貢米之内貳千七百貳拾石大坂御廻米に成る 内 五百貳拾石 大石
貳千貳百石 夷湊

一 大吹所勝場床屋水車勝場共建替御林木貳百貳拾本餘錢七百八拾貫文餘を以御普請申付廣間役山中又四郎其外役々掛り申渡御林木は定式御斷之内を以追々遣合錢は粉成入用遣錢を以取計候に付伺に不及
 一 篠山十兵衛三月十五日之御暇に而同廿七日江戸表出立三國路旅行四月三日越後寺泊え出津同六日赤泊湊え渡海翌七日相川御役所え着舊弊改革之義水野越前守殿御書取を以御沙汰に付若林市左衛門暫居殘御用向打合之上四月十六日相川出立兼而願濟日光^{御宮}拜禮に付赤泊湊え出津同廿日寺泊え渡海奥州路旅行

一 高山又藏三月廿九日御代官被仰付小池小次郎同日支配勘定被仰付候旨四月五日篠山十兵衛旅中越後寺泊え申來

一 宮崎伊右衛門御金藏御雜藏御勘定仕上相濟御米藏之分は大坂御廻米引請人越後柏崎規右衛門御勘定所吟味中に而未年分納札不差出候に付江戸詰え引殘置無宿拾壹人宰領三月廿三日江戸表出立三國路通り四月朔日越後寺泊え出津同六日赤泊湊え渡海同七日同所逗留翌八日相川着道中御證文松平伯耆守殿
 一 四月二日就吉辰上様大御所様大御臺様御臺様被遊御移徒御作法万端首尾無殘所相濟御機嫌不斜誠以目出度御儀不可過之旨同日御奉書同十二日到來

一 水野越前守殿御事御勝手掛被仰付候旨四月二日附御奉書前同日到來

一 河島才右衛門養父隱居宜体病氣に付江戸番に引殘候處快氣若林市左衛門渡海御船歸帆に付小木湊え渡海四月廿五日相川着

一 五月十日諸役人武術を試役人二男之内十五才以下之者素讀を試む

一 五月四日松平初之亟殿御事徳川民部卿殿御養子被仰出候旨同五日附御奉書同十一日到來

一 時疫流行并食毒に中り候節之藥法書此度御救として村々え可相觸旨水野越前守殿御書付大目付より達に付國中え觸る

一 四月中市中八十歳以上之者拾八人え爲老養米を爲取七十才以上之もの百五拾四人え米直安に拂遣八月又同様取計

一 市中飯米去十一月已來廣惠倉に而拂遣す處麥作相應之趣に付五月限に而止

一 御國繪圖御改被仰出去々未年佐渡國御繪圖寫六卷江戸詰之者え御勘定所より相渡候に付夫々取調候處年曆相立候義故様子相替り候ヶ所多に付惣掛紙六卷に仕立引渡之六卷一同五月中御勘定所え爲差出其段明樂飛彈守大澤主馬え及達

但元祿之繪圖は方角等凡の地模様は相見候に付享和三亥年天文方高橋作左衛門弟子伊能勘解由測量御用に付渡海之上佐州海岸通不殘分間繩引いたし候繪圖ヲ踏へ國仲邊其外川々並道中筋等地方附繪圖師石井靜藏石井彩助え分間繩引爲致地模様相極元祿之繪圖太サに倣ひ一里五寸六分壹厘餘之割合に而村々之居り所其外書入もの悉く地模様相叶候様右御兩人取調精細に仕立方出來いたす

一 松平越中守御領所越後國村々臨時御買上江戸御廻米并松坂三郎左衛門御代官所同斷積入候防州熊毛郡別府浦直船頭榮次郎船水主共拾六人乘五月十三日沖合に而及難船六月二日小木湊え漂着廣間役田中從太郎其外役々出役吟味いたし候處破損取繕ひ船具手入之入用金拜借相願候へ共先例も無之併時日を移候而は御米延着相成候に付手當方取計候歟若又差支之向も有之候は、於佐州拜借可申付哉之義廣間

役より水原陣屋詰え爲掛合候處右御代官所に而金子貸渡候旨申來に付作事爲致八月廿一日出帆いたすに付御勘定奉行え達

一 山之神新ニ御米藏建替瓦屋根に御普請有之

一 金銀山去申年出方之様子并西五十里村屏風澤銀山彌十郎間歩一ヶ月鏈代貳貫四百目程出來一廉之山所に相成候旨其外廣惠倉益金千七百兩是迄之元金え加へ都合八千七百兩之元高に相成且又金銀山向從來被餘義振替拂六千五百兩之分償戻相濟候へは相川市中之者共月々買請候御藏御拂米代え掛ヶ一ヶ年金四百兩程出錢致候分差免候積に而右振替拂去々未年皆濟致候處金銀山御仕入故一同渡世連綿難有右爲冥加引續出錢之義願出候に付承届候義等申上書面五月中水野越前守殿え進達

一 御藏元書御拂米之義寛政之度右高取極之節一人一日當り貳合九勺三才之處當時人別相増貳合四勺七才に相當差引四勺六才相減候分買請人數九千貳百貳拾壹人に掛合候得は千五百石餘相減候間右之分元高増加一ヶ年壹萬八千四百九拾石を目當に買請申付度旨伺書前同斷進達之處難被及御沙汰旨十月二十一日被仰渡

一 金銀山出鏈粉成吹引請候もの無之御直粉成同様取扱候に付掛り役人御手當之義寛政三亥年銀山勝場御直稼相止引請稼に相成候節粉成吹掛り役人役扶持役金等金貳百拾五兩三分相減候分年々佐州御金藏御除金にいたし候四百四十九兩餘之内に籠り有之候に付右之内を以御渡方伺書前同斷進達之處買石之銘目に而其筋之者雇入候由に付未御直稼と申にも無之且は除金之内に而手當相渡候は、廉立候御普請等有之候節之御出方にも差支可申哉に候間旁以此上御直稼等に相成候節は格別買石之銘目を以粉成吹

いたし候義に付掛役人以下手當之義は先是迄之振合を以如何様にも繰合可相渡旨十月廿一日御下知有之

一 青盤間歩敷内急破御普請皆出來御届并掛り之者御褒美願前同斷進達十月廿一日河島才右衛門え銀拾五枚廣間役平塚金兵衛井口茂十郎え銀五枚宛同助原田次郎右衛門え銀三枚定役四人 山方役永井庫之助目付 役鹿野源右衛門元銀山

方定役公事方役助岡源三 野與三次佐野勝助鳥越番所役山口芳之助雲子番所役山本幸輔 え金五百疋宛

御褒美被下候旨御書付水野越前守殿御渡十二月七日到來

一 去申年分山出灰吹銀百八拾三貫四百三匁御傳馬宿入用金四拾兩三分銀貳匁三分三厘八毛前田雄助水

品孫十郎宰領六月十六日差立同廿日小木湊出帆道中御證文太田備後守殿燒金拾三貫百七拾八匁四分此

小判積三千七百四拾壹兩貳分永貳百三拾七文六分出方御入用差引千七百拾五兩壹分永百拾七文九分御

益に成江戸詰水品孫十郎岩間奎右衛門御勘定仕上る

一 同年分山出荒銅貳千七百貳拾七貫目此金五百三拾貳兩三分永百九拾六文七分

一 百姓町人賣荷之分近年武家或宮門跡堂上方等之荷物躰に仕成し又は百姓町人之身分に而右之向之家來杯と申成旅行いたし其外賣荷を飛脚荷にまし候類間々有之候趣相聞不届之事に付以後右躰之取計いたし候は、吟味之上其者は勿論會符先觸駄賃帳貸遣し候もの迄急度可申付旨御觸書六月三日松平和泉守殿御渡同十六日到來

一 篠山十兵衛巡村として六月十八日出立七月二日歸陣

- 一 御勘定山本丈右衛門六月十日高山又藏跡組頭被仰付御普請役露木兵助同八日小池小次郎跡廣間役被仰付候旨同廿四日羽茂本郷巡村先え申來
- 一 六月廿八日夜小木町三右衛門父季傳次壹人に而烏賊漁に出被吹流候處七月三日越中國境浦え船とも被打揚候由に而松平加賀守家來茨木主殿より問合書狀持參足輕兩人相越に付身寄之もの爲迎差遣八月中無滞歸國いたす
- 一 上京町いよ悴榮藏幼年に而孝心之趣相聞に付鳥目を爲取褒賞に及ふ
- 一 七月九日脇坂中務大輔殿御本丸に而可相勤旨堀田備中守殿連判之列被仰付大納言様え被爲附候旨同十日附御奉書同廿三日到來
- 一 長坂町依願道普請入用拜借申付候處町内一圓切石を以坂普請出來
- 一 古金銀引替之義向後道法之遠近に不拘古金百兩に付拾兩宛御手當被下候間當十月限引替可申旨御觸書七月十三日水野越前守殿御渡八月二日到來
- 一 此度慶長金位之通新規金吹立壹枚に付金五兩通用之積被仰出右五兩判吹立并小判壹分判をも位を上ケ吹立被仰付右に付而は金子之員數も相減候間目形を減吹替被仰付貳朱金通用方之義は是迄之通相心得且貳分判之義も壹朱金同様追而通用停止可被仰出候間兼而其旨可相心得旨御觸書前同斷
- 一 江戸詰渡邊佑左衛門地方御藏有高古金銀三百四兩壹分貳朱金銀座に而引替候分宰領七月廿三日江戸表出立信州善光寺通八月三日越後出雲崎え出津同四日小木湊え渡海五日新町村止宿翌六日相川着道中傳馬御證文松平和泉守殿

一 同斷藤木武助無宿三人宰領七月廿三日江戸表出立奥州會津通八月二日越後新潟え出津同四日同所出帆風筋合兼赤玉村え着岸無宿船は下久知村濱え馳揚翌五日一同陸路夷湊え相越同六日相川え着道中傳馬御證文前御同人

一 八月十日夜松ヶ崎村惣兵衛船小屋より出火辻堂とも類焼六軒獵船四艘焼失

一 松平伊豆守殿就病氣願之通御役御免被遊候旨八月五日被仰出候段同六日附御奉書同十四日到來

一 廣間役露木兵助家内召連八月二日江戸表出立同十一日越後出雲崎え出津同十三日小木湊え渡海十四日新町村止宿翌十五日相川着

一 大坂無宿拾人木曾路通越後出雲崎え出津八月十三日小木湊え渡海同十四日相川着

一 山本丈右衛門家内召連八月二日江戸表出立同十三日越後出雲崎え出津同廿一日小木湊え渡海廿二日新町村止宿翌廿三日相川着

一 八月六日一町目濱におゐて地役人三人火術をなす

一 同廿三日加州能美郡安宅浦直船頭與三郎四人乗之船澤崎村沖合に而難船及ひ能州黒島浦藤助船に被助揚小木湊え入津

一 吉井本郷曹洞宗剛安寺義仙義去々未年奉行所え不申立羽茂本郷大蓮寺外二ヶ寺相手取關三ヶ寺え訴狀差出候一件に付僧祿上州白井双林寺代并役増等四月中渡海之上双方相糺度旨申立候得共奉行所を差越候訴狀を以吟味は難相成剛安寺心得違無之様及教諭候は格別之旨申渡願書下遣候處相片付不申由に而七月中歸國いたす

- 一 右剛安寺義仙訴狀之義に付大蓮寺外三ヶ寺呼出之義觸頭龍穩寺相願候旨間部下總守より掛合有之候處双林寺并國祿總源寺申立と龍穩寺申立齟齬いたし候間今一應同寺糺之上被申越候様及挨拶後義仙義心得違之由に而訴狀願下度旨申立候に付大蓮寺外三ヶ寺差出不申旨八月中阿部能登守え及懸合
- 一 右剛安寺願下書付は國祿總源寺より上州双林寺え爲差出龍穩寺より大蓮寺外三ヶ寺呼出相願候得共寺社奉行衆え掛合之上差出不申候間其段龍穩寺え申立候様可致旨廣間役より双林寺え爲及掛合
- 一 村々虫附作損訴出に付御勘定奉行え達に及ふ
- 一 屏風澤彌十郎間歩出方相進候に付右間歩并大吹所え酒鯛を遣す
- 一 善知鳥明神祭禮前御初穂并手當兼銀五枚年々社人え相渡正五九月御祈禱いたし御守護札爲相納事に極る
- 一 九月十一日河原田諏訪町源兵衛小船に而漁業に出大風に被吹流行衛不知
- 一 九月三日篠山十兵衛羽田村山田村御林見廻河島才右衛門同道
- 一 八月廿三日徳川右衛門督殿御事被任中納言田安中納言殿と被稱候旨同廿四日附御奉書九月八日到來
- 一 九月二日公方様將軍宣下之上左大臣御轉任大納言様右大將御兼任之宣旨御頂戴大納言様九月二日より右大將様と奉稱候旨同日附御奉書同十五日到來
- 一 當年は諸國豊熟之趣に候へ共近年違作打續候上之義に付酒造三分一造之積勿論場所に寄三分一之内減候旨申付又は皆差止申付候共勝手次第去ル巳年以前迄造高并減石之高とも書付可差出旨御觸書九月八日水野越前守殿御渡同廿三日到來

- 一 中尾間歩東敷道中破損所手當字八番臺元規定場取明御入用八百拾壹貫文餘を以御普請申付廣間役露木兵助其外役々掛り申渡
- 一 九月十三日十六日十八日將軍宣下御轉任御兼任爲御祝儀諸御禮首尾無殘所相濟候旨同十八日附御奉書十月四日到來
- 一 於江戸表巡見御用被仰渡有之候に付廣間役永井四郎兵衛目付役頭取石井三郎右衛門地方掛頭取早川爲四郎地方掛り辻六郎右衛門巡見御用取扱掛申渡
- 一 下寺町金鐘寺百三十年餘無住に而客殿計有之處同所高安寺弟子大貫庫裏建立之上住持にいたし度旨其筋願出に付承届
- 一 松平丹波守領分信州安曇郡船場村忠兵衛義彼地産物小木湊え差越置同所え入津之廻船持渡品と交易致度由領主役人添簡を以小木番所え願出候處添筒と願書と齟齬いたし候義も有之殊に新規之義に付難及沙汰候間其趣返書爲遣
- 一 古金銀眞字貳分判古貳朱銀壹朱金等を以引替殘有之候間引替所之義來成十月迄被差置草字貳分判之義も一朱金同様追而通用停止可被仰出に付所持之者は早々引替可申旨御觸書十月廿三日水野越前守殿御渡十二月七日到來
- 一 世上通用之ため此度位最上之銀を以新規壹歩銀吹立被仰付候間右壹歩銀四ツを以金壹兩之積且通用銀之義此度吹直被仰出貳朱銀壹朱銀通用方之義は是迄之通相心得貳朱銀之義無程通用停止可被仰出候間兼而其旨可相心得旨御觸書十月廿四日前同斷

一 新規吹立被仰付候五兩判之義十一月朔日より通用可致小判壹分判は同月十五日より追々引替たとへは皆小判皆壹分判にて差出候とも小判七分壹分判三分之割合を以引替候等之旨御觸書引替所名前書とも十月廿五日同前

一 鶴取扱之義は夫々御定も有之趣之處佐州之義仕來之趣に而可然哉取調書問台案等を以御勘定吟味中野又兵衛え在府若林市左衛門より及内談候處鶴之義は享保度より献上之次第并振舞之料理等に遣ひ候義等規則有之尤近來隱取候者之御仕置は外鳥類と違異同有之候得共賣買受に不相成譯にも無之佐州之義離島殊に打留候もの奉行所え持參り糺之上入札いたし賣拂右代錢之内より御褒美銀等被下候段夫々起立相分り居候義に付前々之通に而不苦筋之旨十月中深谷遠江守より挨拶有之

一 西五十里村字屏風澤銀山彌十郎間歩之義一ヶ月鏈代四貫八百目餘之出方に相成候に付本途稼之義并大工五千人増御斷申上書面十月十一日水野越前守殿え進達之處本途稼之義は伺之通相心得大工人數之義は是迄之御斷高三萬人之内を以繰合取計候積を以御入用御藏斷之義取調直可申上旨十二月廿二日御下知有之戊正月十日到來

一 銀山仕入として御藏御拂米え掛ヶ市中之者より出錢之分米價高直に付去申十一月より差免置候處今年十一月より元之如く出錢爲致

一 他國は勿論在中えも米穀密賣停止之處動もすれは一己の利潤に迷ひ心得違之輩も有之哉に付向後銘々飯米之外端米たりとも當前之ものえ拂渡候様可致旨御切米御扶持方被下候分は勿論御拂米買受候者迄急度可相守旨書付を以申渡

一 相川市中之義凡三十ヶ年以前と違ひ金銀山御仕入廣惠倉救方等に而今日之渡世心安きよりいつか以前之難儀を打忘れ衣食住とも其身分不相應奢を生し都而諸事不足を存し救筋等に付猥に願立等いたし候は心得違之義町役目常々相諭し可申に夫々取締は等閑にいたし厚き御仁恵に付込候哉事實相違之救筋等相願候に付以來町役人とも一ヶ年限年番持に申付名主は七月中使は十二月町代は四月入代り可申并町代は小前惣代之心得に而名主え立會諸願書え加印可致其外江戸表より御觸は勿論時々沙汰に及ふ義も町年寄より相達候は、家別爲觸知猶其次第委細に認日數十日之内町々名主共軒下掛札に張出置へき旨書付を以申渡

一 鳥越間歩中臺所々損所堅め樋場之内結替御入用九百五拾壹貫文餘を以御普請申付廣間役當分助原田次郎右衛門其外役々掛り申渡

一 青野村安右衛門外五人孝心之趣相聞に付鳥目を爲取河原田本町瀬下彌兵衛外八人奇特の取計有之趣に付夫々身分取立又は鳥目を爲取褒賞に及ふ

一 廣間役始諸役人町同心迄身分慎方之義に付書付を以沙汰に及ふ

一 市中町役人共年番持に申付候は先前名主中使共父祖より引續勤居如何之取計有之趣に付不正筋可改ため之義に候間仕來に不泥正路にいたし貳割安御拂米は土地柄格別御趣意之御手當に付行届候様いたし買請石數人別割付迄書付名主共軒下え張紙可致旨を觸る

一 十月廿八日田安大納言殿御事被叙從一位田安一位殿と被稱候旨同廿九日附御奉書十二月七日到來

一 十二月十四日夷町源左衛門小船え五人乗組沖獵に出風波に而三人溺死貳人は助命

- 一 町同心之内四人宛文政十亥年以來年々入替市中定廻り申付置處今年十二月より差止
- 一 市中米屋共之榭を改
- 一 目付役之席順吹分所定役之次に定む
- 一 市中困窮之もの貳百九拾六人え救米を爲取
- 一 銀山勝場惣仕事師千七百九拾壹人え手當として鳥目を爲取
- 一 五兩判世上通用被仰出候に付形見知之ため五兩判壹枚小判四枚壹分判四枚矢部駿河守川路三左衛門より差越十二月七日到來則代り之金子差遣
- 一 去申年不作爲手當御引殘米三千五百石之内去々未米貳千六百石之方に而受痛欠百九拾四石四斗八合除之殘三千三百五石九斗九升貳合當酉より丑迄五ヶ年に割合返納之積伺書十二月朔日水野越前守殿え進達戌二月九日伺之通御下知有之
- 一 酉年家數人別増減書付十二月中差立
 - 高拾三萬貳千五百拾貳石六斗六升六合
 - 家數貳萬四百九拾四軒
 - 内壹軒 去申年に増
 - 男五萬千六百貳拾三人
 - 外九拾八人 去申年に減
 - 女五萬四百七拾五人

- 外六拾九人 去申年に減
- 牛六千九百三拾貳疋
- 外三百八拾貳疋 去申年に減
- 馬五百四拾六疋
- 外百貳拾八疋 去申年に減
- 外

高九拾石五斗 御朱印領 寺一ヶ寺
 家數七拾軒 無増減

- 男百八拾三人 去申年に減
- 外三人
- 女百九拾人 去申年に減
- 外貳人

一 今年田方虫付は有之といへとも近年に見合候而は相應之出來方に有之處連年之不作故米拂底高直に有之秋以後も壹石に付拾五六貫文より拾壹貳貫文也他國より入る所之米千九百八拾石餘壹石に付拾八貫文餘より拾貫五百文迄也と云

天保九 戌 戌年

- 一 西五十里村屏風澤彌十郎間歩本途稼御下知正月十日到來に付出方永久いたし候様厚く心掛爲相屬可申旨申渡新規山方役御番所役等申渡
- 一 今度吹直通用銀并吹立壹分銀見知のため丁銀四枚小玉銀四ツ壹分銀四枚明樂飛彈守田口五郎左衛門より指越正月十日到來に付則代り之銀指遣
- 一 小倉村久左衛門親久五郎外壹人九十五才に相成に付老養扶持壹人扶持宛馬町彌左衛門外八人九十才に相成に付鳥目を爲取
- 一 金銀山に携候内末々之者市中え出山之權威をかりがさつの所行に及び又は奉行家來之内末々之者共右に似寄候事迄は指押置早速其筋え可申立旨沙汰す
- 一 稻鯨村獵師共沖合に而長九尋程之流鯨拾ひ村方え引付届る
- 一 二月廿一日篠山十兵衛海岸通見廻りとして稻鯨村迄罷越
- 一 彌十郎間歩本途稼之儀に付御下知之趣を以大工繰合方は得と取調追而申上候積御藏斷取調直二月中進達
- 一 大坂水替隔年に拾人宛引渡之儀及掛合置候處惡黨者多き場所引渡人數少に而は土地之者共恐怖も薄く候間年々拾人宛船路指送澤根湊に而引渡度旨跡部山城守堀伊賀守より掛合之處當時人數充分に備り水替方指支無之に付隔年に拾人宛引渡都合に寄五人宛年々引渡は不苦尤船路指送りは指支無之旨四月

中及挨拶

- 一 地役人藤村小四郎忤小膳去年中より病氣療治として江戸表え出居昌平橋學問所に寄宿正月十六日初場學問吟味え出
- 一 二月廿一日廿二日大廣間出御御代替御法令被仰出誠以目出度御事之旨同廿三日御奉書三月三日到來
- 一 諸巡見并御料巡見被遣候儀に付御書付水野越前守殿御渡右同斷
- 一 三月十日卯刻西丸炎上之處早速鎮御本丸二ノ丸無御別條旨同日未之刻附御奉書同廿六日到來
- 一 去西御年貢米之内八千七百四拾石巳年申年拜借返納米千貳百六拾五石五斗九升貳合合壹萬五石五斗九升貳合大坂御廻米に成内三千七百貳拾石大石
六千貳百八拾五石五斗九升貳合 夷
- 一 去西御年貢小物成諸運上等三月廿九日迄に御藏々え上納皆濟に付江戸表え御届書面進達
- 一 御法令書寫見出し武家諸法度も有之 大目付より相廻り三月廿六日到來に付四月朔日於書院諸役人え爲讀聞學問所預り田
- 一 西丸御普請に付御用途莫太之事に候間御三家始御手傳被仰出就而は萬石以下諸役人五百俵以上勤仕并不勤共高百俵に付金貳兩五百俵以下百俵以上勤仕并不勤共高百俵に付壹兩貳分宛之割合を以上納金被仰付候旨御書付水野越前守殿御渡四月二日到來
- 一 去ル午年より御儉約年限中之處此度西丸御普請に付而は莫太之御用途に有之御旗本之面々えも上納金被仰付候程之儀に付惣而拜借は勿論上納年延等之儀申立候共決而被及御沙汰間敷旨御觸書前同斷
- 一 御代替に付誓詞として國中一向宗寺院追々東西本願寺え罷越誓詞前書之寫之由左の通

起請文前書

- 一 東照宮様本願寺御取立以來御代々御厚恩不淺被思召當上様猶又疎略不被思召之旨被仰聞御尤至極奉存候末々迄懇意に萬事御本寺之御下知違背申上間敷事
 - 一 對公儀不儀之輩御座候而何様之事頼申候而も房主中并旦那は申不及假令知音近付たりとも一味仕間敷候早速言上可仕事
 - 一 公儀輕存間敷旨從御本寺被仰聞候趣堅相守可申事
- 右之條目於致違犯は

罰文

- 一 廣惠倉役所西側え引移土藏二棟増取り立る
- 一 四月三日夜吉井下町善右衛門灰小屋より出火同上町吉井本郷水渡田村之内寺院修驗百姓家等本家三拾壹軒土藏納屋小屋貳拾九軒類燒人馬別條なし
- 一 小早御船貳艘御造替に付廣間役永井四郎兵衛其外役々掛申渡四月七日皆出來船玉勸請同十一日篠山十兵衛乘初之式有之山本丈右衛門同道
- 一 烏越間歩助平敷けたへに而四月九日荷揚壹人即死手當に及ふ
- 一 若林市左衛門御作事奉行被仰付候旨四月朔日御奉書同十二日到來三月廿八日之御役替也
- 一 四月十一日土井大炊頭殿連判之列被仰付大御所様え被爲附間部下總守殿所司代被仰付候旨同十二日御奉書同十八日到來

一 鳥居八右衛門正房佐渡奉行被仰付貳百俵高に被成下候旨前同斷四月九日之御役替元御勘定吟味役なり

一 彌十郎間歩番所鍛冶小屋共建替釜ノ口化粧棚結ひ替御普請有之

一 青盤間歩臺通り取明之積御入用六千四百貫文餘市中出錢を以御普請申付河島才右衛門并廣間役露木兵助井口茂十郎其外役々掛申渡

一 清次雲子番所役助を止る

一 米價高直に付他國米穀役錢指免置候處去年中より少シは引下候間閏四月より如元役錢取立る

一 前田雄助御藏方御勘定仕上相濟無宿八人才領四月廿八日江戸表出立信州路通閏四月八日越後出雲崎え出津同十二日小木湊え渡海翌十三日相川着道中傳馬御證文脇坂中務太輔殿

一本道兵衛

一 御料巡見御勘定廣木義太郎支配勘定三宅彌作御徒目付石川九十郎爲迎御船手役辻將兵衛兼而越後出雲崎え遣置候處閏四月十九日小木湊え渡海翌廿日赤泊休松ヶ崎泊廿一日新穂町休泊廿二日夷町休中興村泊廿三日相川え出晝後御役所え出席於書院篠山十兵衛面談之上銘々旅宿え引取翌廿四日銀山勝場見廻り廿五日出立西濱通り河原田町休泊翌廿六日も同所に逗留廿七日小泊休小木湊え出津五月二日出雲崎え渡海

一 西九炎上に付格別に御儉約被仰出候間來々子年迄三ヶ年之間嚴敷省略可致旨御書付水野越前守殿御渡閏四月十三日到來

一 金銀具百姓町人用ひ候處決而不相成武家要用之品其外武家より誂候分は格別都而金銀具内證に而拵

置賣買致間敷只今迄商人共仕入候分は當年限賣買いたし來亥年より可相停止旨御觸書水野越前守殿御渡五月四日到來

一 去々申秋以來米拂底に付身元に應し施米安賣米又は無利足無年季等に而金錢貸渡候寺社人醫師百姓町人等貳百八十五人褒賞に及ふ

一 五郎左衛門町淨土宗來迎寺信哲奇特の取計有之褒賞に及相川重立町人伊藤嘉十郎同斷に付白銀を爲取中尾間歩小遣六助外三人孝心奇特之趣に付鳥目を爲取褒賞に及ふ

一 鳥居八右衛門同四月十五日之御暇に而五月二日江戸表出立三國路通旅行同六日越後寺泊へ出津同十四日赤泊湊へ渡海翌十五日相川御役所へ着巡見御使番木下内記御書院番頭齋藤内藏頭組石尾織部御小姓組番頭小笠原長門守組算新太郎同月十三日越後出雲崎より小木湊へ渡海に付篠山十兵衛暫居殘巡見御用向相濟同十九日相川出立

一 巡見木下内記外貳人五月十三日越後三領主仕立船に而出雲崎より小木湊え渡海赤泊松ヶ崎夷湊等相廻り同十六日相川へ着夫より御役所へ出席書院へ相通り奉行組頭御機嫌伺相濟組頭誓詞見届に而退散其後篠山十兵衛鳥井八右衛門同道に而木下内記外貳人旅宿へ相越翌十七日巡見使一同銀山勝場見廻り同十八日相川出立河原田町に止宿同十九日小木湊え出津同廿三日越後出雲崎へ渡海

一 國分寺村國分寺圓音外貳拾貳人義去々申年來在中米拂底之節居村并隣村小前困窮之者へ鳥目又は施米安賣米等いたし爲取凌候趣に付一同褒賞に及ふ

一 五月三日右大將様御袖被爲留御喜悅不大形誠以目出度御事不可過之段同四日附御奉書同十一日到來

一 德川刑部卿殿病氣之處養生不被爲叶去ル十四日逝去絶言語候三御所様御機嫌被爲替候義無之候間可心易右に付十四日より普請は三日鳴物は七日停止之旨五月十五日附之御奉書同廿四日到來に付普請は同日より同廿六日迄鳴物は六月朔日迄停止

一 上山田村善兵衛頭取其外拾人計申合一國惣代に成品々願筋相認候訴狀巡見使へ差出由に付右次第一通相尋候積を以善兵衛呼出遣す處及遲滞折柄同人小木湊に罷在由故同所へ巡見使爲見送役いたし居候役人より猶御役所へ被出候様申論といへとも不取用に付五月廿二日善兵衛召捕差出右始末一通相尋候節不都合之答向有之に付吟味中牢預申渡處一國惣代に而願筋いたす頭取之者右躰相成候而は難儀之趣を以村々百姓共申合同廿三日巡見使小木湊出帆之砌多人數罷出善兵衛出牢之儀歎願いたし度旨申立候に付出役之者より及利解一同場所爲引取同廿四日鳴物停止江戸表より申來に付善兵衛出牢爲致郷宿へ預ケ申渡

一 五月廿四日八幡村へ百姓共多人數屯いたし同村名主四郎吉居宅土藏納屋共打毀及狼籍直に小木湊へ押出し同廿五日同所番所附問屋信濃剛之助外原本何れも缺字人宅をも同様及狼籍趣追々訴出に付召捕出役之者出ス但八幡村四郎吉は善兵衛願意に不泥小木湊問屋其外は善兵衛召捕れ御役所へ差出相成節取扱ふ故意恨を合狼籍及ふ事と聞ゆ

一 當年之儀土用より不時候に有之秋入之所懸念に付五穀成就之爲一國惣鎮守金北山權現別當眞光寺村眞光寺并相川二社鹿伏村三社合五社へ一七日之祈禱申付鳥居八右衛門手元より夫々初穂を神献す
一 大判之儀享保之度吹改後年數相立燒失等に而減少いたし候に付此度吹増被仰付候間新古取交無滯通

用可致旨六月廿六日水野越前守殿御書付七月廿日到來

一 御藏元書御拂米一ヶ年壹萬六千九百九拾石に而は近年金銀山間歩數相増稼人多飯米不足に付先達而本途稼御下知有之西五十里村字屏風澤彌十郎間歩雇之者共手當御拂米六拾四石四斗相増一ヶ年壹萬七千五拾四石八斗を目當にいたし閏月有之年は割合を以相増爲買請度旨伺書六月廿一日水野越前守殿へ進達之處當成より來ル子迄三ヶ年之間伺之通御下知有之

一 金北山權現堂雷破にも有之哉本堂大破供物所も所々破損いたす旨別當眞光寺訴出に付見分之者差遣處無相違段申立に付仕越御修復之積伺書六月廿一日水野越前守殿へ進達七月十九日伺之通御下知有之

一 田安中納言殿養方弟松平房之助殿御事五月廿五日一橋家相續且徳川と被稱一橋領拾萬石其儘被進候段同廿八日附御奉書六月七日到來

一 去酉年分山出灰吹銀貳百三拾三貫拾九匁御傳馬宿入用金四拾三兩三分銀貳匁六分貳厘壹毛内田與五右衛門岩崎爲右衛門才領六月十二日差立同十七日小木港出帆道中傳馬御證文太田備後守殿燒金拾三貫九百拾三匁三分出方御入用差引八百五拾六兩三分永九拾五文四分御益になる江戸詰内田與五右衛門井上爲三郎御勘定仕上る此直貳萬八百四拾兩永百六拾九文五分
此小判積三千九百六拾壹兩三分永四文七分

一 同年分山出荒銅千六百五拾貫目此金三百貳拾兩壹分永貳百八文三分

一 鳥居八右衛門銀山間歩々々へ始而見廻り相越に付爲神酒酒拾五樽手元より遣す

一 同人巡村として六月十九日出立七月朔日歸陣

一 佐州御役所附御道具之内御弓矢鎗奉行より相渡有之分員數承知致度旨御留守居より掛合有之内譯取

調八月五日牧丹波守へ及達

一 近年引續米價高直其上漁業等薄く金錢不融通旁市中小前之者共及難儀趣に付御圍籾の内千俵摺立正米壹石代錢五貫八百文に而拂遣す旨書取出す

一 御金藏大藏並錢撰立場建替御普請有之

一 此度御男子様被遊御誕生候處表向被仰出け無之御名之義松平龜五郎殿と被稱都而表向御祝儀等不及申上段六月廿九日之御奉書七月十日到來

一 上山田村善兵衛外三人義三郡より拾人願筋有之江戸表へ罷越度候に付判渡吳候様申立るといへとも村役人加印も無之其上名前等も委敷不申立に付取用難相成旨鳥居八右衛門申渡願書下ヶ遣す

一 地役人悴共學問武術心掛江戸表師家又は昌平坂學問所へ寄宿等願出もの有之節は承屈候様致度旨六月廿一日松平和泉守殿へ書面進達いたす處先ッ見合師範等無之實々差支候義に候はゞ支配向又は地役人共之内藝術相應之者追々相撰申立候様可致旨七月十九日御下知有之

一 八月六日夜多田村庄五郎宅へ人數三拾人程押込及狼籍趣訴出に付召捕出役之者出すが但此節在中米價引上り小前難儀いたすに付重立百姓共之内米穀貯有之ものゝ宅及狼籍事に聞ゆ

一 江戸詰水品孫十郎無宿貳人宰領七月晦日江戸表出立八月八日越後寺泊へ出津同九日赤泊湊え渡海岩間奎右衛門調合藥玉鉛才領七月廿一日江戸表出立日光御宮參詣八月七日越後出雲崎へ出津同九日小木湊え渡海兩人共同十日相川へ着道中傳馬御證文脇坂中務大輔殿

一 八月十二日夜徳和村多六外九人并赤泊村佐藤勘十郎外一人宅へ人數三四拾人程押込及狼籍段訴出る

に付召捕として出役之者遣す

一 當地百姓共騒立候一件に付篠山十兵衛義此節御暇被下評定所留役等差添被遣候間諸事申談一件吟味可致委細之義は十兵衛より可達旨八月二日附太田備後守殿御奉書同十七日到來

一 上山田村善兵衛其外徒黨及候者共速に召捕可相糺筋に候得共左候而は萬一又は百姓共騒立品に寄八右衛門一人に而制止も行届兼候様相成候而は御威光にも拘り不容易事に付十兵衛八右衛門并留役共一同彼地え打揃固人數等之義も手當いたし置最寄十兵衛一覽爲致候訴狀之趣を以善兵衛其外之者共召捕及徒黨奉行所を輕蔑いたし候趣意相糺嚴重に吟味詰候様可致尤其己前善兵衛逃去候而は吟味手掛りを失ひ可申間右等之義厚勘辨いたし手筈行届候様可取計旨并彼地渡海之船定例之通に而は差支之筋も有之候は、最寄大名所持之船爲差出候方可然哉何れにも遲滞無之様勘辨いたし早々發足可致旨八月十二日水野越前守殿御書取篠山十兵衛え御直に御渡

一 金九村落合橋掛替御普請有之

一 篠山十兵衛八月朔日之御暇に而同十六日江戸表出立信州路通同廿七日越後出雲崎へ出津兼而江戸表に於て御沙汰有之柳原式部大輔固人數一同同廿八日小木湊へ渡海十兵衛は同廿九日相川御役所へ着固人數之内百五拾人餘は同日新町村に止宿

一 八月廿九日夜上山田村善兵衛外七人吟味中入牢揚屋入等篠山十兵衛鳥居八右衛門立會十兵衛申渡

一 松平越前守八月廿八日於在所卒去に付公方様右大將様定式半減之御忌服大御所様定式之御忌服殘日數被爲請候旨九月四日附御奉書同十九日到來

一 柳原式部大輔固人數百三拾七人九月朔日相川え着に付右届として物頭内藤六郎兵衛外壹人御役所へ出るに付篠山十兵衛鳥居八右衛門列座之上謁す但固人數之内七拾人程四日町村大願寺に逗留其餘は小木湊にも同斷

一 百姓共騒立一件吟味に付又候騒立候義も有之候は、柳原式部大輔固人數に不拘奉行所役人手に而取鎖方心得之義書取を以申渡

一 越後出雲崎野口七左衛門差配船頭水主拾五人乘新潟湊に而御廻米積受候御用船九月四日於沖合及難船同八日小木湊へ漂着に付廣間役當分助内江清兵衛其外役々出役

一 破免村々檢見として廣間役平塚金兵衛永井四郎兵衛其外地方掛之者出役

一 留役望月新八郎小田五郎作御徒目付石川九十郎戸田嘉十郎御小人目付山本角藏永坂鑑八森澄太郎作鈴木藤之助評定所書役後藤宗太夫磯益之助同當分助青山榮太郎并固人數之内七拾貳人九月廿一日越後出雲崎より小木湊え渡海留役己下は同廿二日相川着御役所え出席に付篠山十兵衛鳥居八右衛門并組頭面談固人數は四日町村大願寺に止る

一 九月廿三日より留役以下御役所へ出席上山田村善兵衛其外之者共追々吟味有之

一 柳原式部大輔固人數之内百六拾人餘九月廿五日歸國

一 青盤間步釜ノ口化粧棚結替御普請有之

一 夷町與右衛門外三人小船に乗組九月七日沖漁に出る所風波強く船覆り乗組貳拾壹人之内拾四人溺死殘七人行衛不知船は與右衛門外三艘なり

- 一 百姓共徒黨およひ候一件吟味に拘り候地役人之内地方掛頭取早川爲四郎堀口市太夫廣間役田中從太郎山中又四郎等追々吟味中揚屋入になる
- 一 松ヶ崎村五郎八外壹人船十二月朔日曉漁業に出被吹流行衛しれす
- 一 榊原式部大輔固人數十二月十七日一同引拂歸國
- 一 十二月廿四日夜新町村佐吉納屋焼失
- 一 同廿七日下午戸町清三郎貸家同濱町福四郎居宅焼失
- 一 市中困窮之者九拾八人え救米を爲取る

天保十己亥年

- 一 羽茂本郷兵右衛門祖父多兵衛百歳に相成稀成長壽に付鳥目を爲取小木村藤三郎祖母みい外三人九拾五歳に相成候に付老養扶持壹人扶持宛原黒村藤左衛門母よね外八人九十歳に相成候に付鳥目を爲取
- 一 四十物町市兵衛母へ孝養清次間歩小遣新五郎町權兵衛職分年來相勵近隣之者へ交宜趣を以夫々鳥目を爲取る
- 一 去戌御年貢米之内九千五拾石并同年分返納米六百六拾石共合九千七百拾石大坂御廻米になる
- 一 最樹院様十三回御忌御法事於東叡山去月十六日より御執行有之候處萬端御作法無殘所相濟誠以恐悅之旨二月十七日附之御奉書三月朔日到來
- 一 御譜代與力格辰巳御番所定番役岩間半左衛門跡式實子綱次郎へ被下旨去戌十二月廿八日脇坂中務大

輔殿御書付稻生出羽守へ御渡之分二月四日到來に付翌五日申渡候段御届書面進達

- 一 百姓共騒立一件吟味伺之上評定所一座掛り被仰渡候旨去戌十二月廿七日附御奉書二月四日到來
- 一 天保六未より同八西迄三ヶ年分山出燒金貳拾九貫五百六拾九匁四分山田市郎右衛門上月紋平宰領して三月三日差立同五日出帆道中御證文松平和泉守殿此小判積八千三百九拾五兩貳分永百貳拾七文四分
- 一 百姓共騒立一件吟味に拘り候山方役永井庫之助地方掛辻六郎右衛門藤田祐之進揚屋入になる
- 一 百姓共騒立一件吟味に拘り候地役人田中從太郎外六人上山田村善兵衛外拾七人江戸表へ差出評定所一座へ引渡相成候に付目付役内江清五郎外四人使役町同心等宰領申渡三月十六日差立同十八日渡海道中御證文水野出羽守殿

- 一 篠山十兵衛御用向相濟三月廿日相川御役所發足同廿一日小木湊より越後出雲崎へ渡海
- 一 三月廿四日曉北狄村與次右衛門灰納屋より出火家數六拾軒焼失
- 一 同廿九日夜下矢馳村長藏灰納屋より出火本家壹軒焼失
- 一 今般百姓共騒立一件之外諸向總而不宜仕癘流弊改革いたし御奉公筋大切に可相勤旨書付を以申渡
- 一 諸向御入用筋勘定方改方等可入念旨同斷
- 一 尾張大納言殿病氣之處養生不被爲叶二月廿六日逝去絶言語候三御所様御機嫌被爲替候御儀無之候公方様右大將様去ル廿六日より定式半減之御忌服被爲請大御所様同日より定式之御忌服被爲請候旨右に付普請は三日鳴物は七日停止之旨三月廿七日附御奉書四月十日到來に付普請は同日より十二日迄鳴物は同十六日迄停止

一 四月二日夜上新穂村久左衛門灰納屋より出火本家納屋焼失類焼なし

一 田安中納言殿御事尾張家相續被仰出尾張大納言殿遺領無相違被遣候段被仰出只今迄田安殿之被遣候拾萬石は田安一位殿七男松平群之助殿へ其儘被遣徳川と被稱候様被仰出候段三月廿七日附御奉書四月十日到來

一 西村善右衛門下女りや奇特之義相聞に付鳥目を爲取及褒賞

一 四月廿七日大御所様大御臺様西丸へ被遊御移徙誠以目出度御儀不可過之旨同廿八日附御奉書五月六日到来

一 百姓共騒立候一件吟味に付榊原式部大輔固人數當地引渡後小木定番役外拾九人へ贈物有之依之水野越前守殿へ相伺候處受納可致旨被仰渡候段書付を以申渡

一 江戸詰岩崎爲右衛門無宿四人宰領四月廿五日江戸表出立奥州路通五月八日越後新潟湊へ出津同十一日夷湊へ渡海同十二日相川へ着道中傳馬御證文吉田備後守殿

一 囚人差添として江戸表へ罷越候御目付役内江清五郎外四人使役五十嵐半次外三人町同心中川與右衛門外六人四月廿一日江戸表出立日光御宮拜禮之上五月九日出雲崎へ出津同十一日小木湊へ渡海同十二日相川へ着

一 廣間役田中從太郎外六人揚屋入相成居候處病氣に付五月二日より追々篠山十兵衛家來へ預となる

一 五月廿四日晝頃戸中村權七灰納屋より出火本家三拾九軒郷藏壹軒類焼

一 近來上方筋金直段下落故自ら諸色高價にも到り候趣相聞候間金壹兩に付銀六拾目内之相場を以兩替

致間敷尤六拾目己上之相場相立候儀は不苦旨之御觸書五月廿四日水野越前守殿御渡六月十日到來

一 五月廿八日右大將様御前髮被爲執御喜悅不大形誠以目出度御事不可過之旨同廿二日御奉書同晦日到來

一 此度田安殿尾州家相續被仰出誠以目出度御儀不可過之旨五月廿八日附御奉書六月十二日到來

一 去戌年分山出灰吹銀貳百七貫拾八匁御傳馬宿入用金四拾三兩銀七分貳毛野田又左衛門藏田太仲宰領

六月廿五日差立同廿八日此金直壹萬千四百七兩壹分永百七拾貳文六分小木湊出帆道中御證文水野越前守殿燒金拾三貫四百六拾六匁壹分出方御入用

差引七千貳百三拾四兩貳分永八拾七文八分御益に成江戸詰野田又左衛門中澤善次郎御勘定仕上る

一 同年分荒銅千貳百九拾六貫五百目此金貳百六拾四兩壹分永貳拾文

一 松平上總介病氣之處養生不相叶六月廿二日卒去三御所様御機嫌被爲替候御儀無之公方様右大將様定式半減之御忌服大御所様定式之御忌服被爲請候旨六月廿三日附之御奉書七月五日到來

一 八月七日暉姫君様御事徳川右衛門督殿御縁組被仰出誠以目出度御事候旨同日附御奉書同廿二日到來

一 江戸詰内田與五右衛門調合藥玉鉛宰領八月十日江戸表出立信州路通同廿四日越後出雲崎へ出津同廿五日小木湊へ渡海同廿六日相川へ着道中傳馬御證文水野越前守殿

一 村々檢見として組頭山本丈右衛門廣間役露木兵助其外地方掛出役

一 新穂町彌左衛門居宅灰小屋より九月九日夜出火類焼三拾八軒右飛火に而上新穂村并北方村之内にて類焼五拾軒土藏納屋小屋等焼失

一 十月二日諸役人炮術を試

- 一 此度姫君様被遊御誕生候處表向被仰出は無之御名之義は萬釵姫君様と奉稱候旨都而表向御祝儀等不及申上旨十月十六日附御奉書同廿四日到來
- 一 徳川右兵衛督殿病氣養生不相叶十月十二日逝去に付鳴物は三日普請は不苦旨右同斷
- 一 古金銀眞字貳步判古貳朱銀壹朱金等引替殘有之候間引替所之儀來子十月迄に差出草字貳分判并貳朱銀其外は文政度吹直金銀等所持之者此節精出引替可申旨御觸書十月晦日水野越前守殿御渡同廿五日到來
- 一 國々において新田畑開發之義一領一圓之内に籠有之候場所は公儀より新開不被仰付萬石以下知行所之分も同斷都而新開之儀享保七寅年被仰出候趣違失無之様可相心得旨御觸書十一月五日右御同人御渡之分同斷
- 一 通用銀之儀去々酉年吹直被仰出候處一体通用不足之由相聞候間壹朱銀吹方差止通用銀吹直は勿論猶吹増をも被仰出候條其旨可相心得段御觸書十二月九日右御同人御渡之分同廿五日到來
- 一 松平和泉守殿御事病氣之處養生無御叶十二月二日卒去右に付鳴物三日停止普請は不苦旨同三日附御奉書同廿五日到來
- 一 十二月六日於御前土井大炊頭殿御事御懇之以上意御本丸に而可相勤旨被仰付候段同七日附御奉書右同斷
- 一 西九御表向御普請は皆出來誠以目出度御儀不可過之旨十二月十二日附御奉書右同斷
- 一 去戌御年貢米之内九千五拾石巳年申年拜借返納米千貳百六拾石合壹萬三百拾石大坂御廻米になる内

三千四百石 大石
六千九百拾石 夷

天保十一 庚子年

- 一 夷町伴藏祖母はく百歳に相成稀成長壽に付鳥目を爲取潟端村森兵衛親森右衛門外一人九拾五才に相成に付老養扶持遣旨小木番所附問屋藤屋勘十郎親八左衛門外拾三人九拾歳に相成に付鳥目を爲取
- 一 馬町佐次兵衛外四人奇特之趣相聞に付鳥目を爲取及褒賞
- 一 正月十三日於御前間部下總守殿御事御懇之以上意連判之列被仰付大御所様え被爲附牧野備前守殿御懇之以御錠所司代被仰付候旨同十四日附御奉書同廿九日到來
- 一 御臺様御不例御養生不被爲叶正月廿四日午上刻被遊薨去奉絶言語三御所様御哀惜之御事乍然御機嫌被爲替御儀無之旨右に付普請は正月晦日迄鳴物は二月八日迄停止之旨正月廿五日附御奉書二月十五日到來に付於當國同日より前書之日數停止を觸る
- 一 御臺様御事奉稱淨觀院様と旨淨觀院様二月六日巳ノ下刻御出棺於東叡山御葬送相濟同八日より御法事御執行之由同九日附御奉書同廿一日到來
- 一 近來於諸國砂糖之製作追々相増大坂表其外國々へ積送高多分之趣に相聞候右に付ては自然本田畑へ甘蔗を作り米穀にかへ砂糖製作を専らといたし候義は不可然事に候依之自今以後猥に本田畑え甘蔗を作り候義可爲停止候但荒地或は野山を開米穀不熟之地え作り候義は可爲格別事右之通文政元寅年相觸候處近年又々猥に相成本田畑へ甘蔗を作り候趣相聞不埒之事に候以來急度相守本田畑へ作候義は一切

致問敷候若相背もの有之におゐては吟味之上急度可申付旨御觸書水野越前守殿御渡三月廿一日到來

- 一 西九御普請に付上ヶ金品上納并冥加金等本勤いたし候ものとも當御役所にて取扱之分有之候は、廉々不洩様相認可遣尤右之分御褒美等申上候儀有無共承知致度旨三月中御勘定奉行より懸合有之候に付支配組頭兩人共御書面之通上納金いたし外上ヶ金品上納并冥加金等本勤いたし候者等佐州御役所に而取扱候義無之勿論御褒美等申上候儀も無之旨及挨拶

- 一 鷺崎村彌次右衛門義沖漁に罷出流鯨拾ひ取扱旨訴出に付地方懸出役申渡入札拂にいたし分一運上取立一本廿一日

- 一 三月廿七日在府篠山十兵衛より在勤烏居八右衛門方へ差立る宿送御用狀壹箱同廿八日夜上州坂本宿持人足市右衛門紋藏え宿役人代太次郎差添輕井澤宿へ繼送る途中碓氷峠を一里拾町程登り字栗栖と申所へ差懸候處盜賊躰之者四五人脇差を帶し立出太次郎携る提灯を吹消御用狀奪取に付同人并市右衛門俱々人足呼集る積りを以同所字羽根石茶屋迄驅付る跡に而右惡黨共之内壹人は紋藏を差押へ聲立るににおいては可切殺旨申威打擲及ひ殘之者共は右御用狀箱往還より壹町程山中へ持入上包引破箱打明る様子にて書狀計りに付其者へ可相渡旨呼はり候故紋藏を押へ居る者手を放し一同逃去後太次郎市右衛門始呼集る人足共馳集るといへとも惡黨共退散故取亂し候御用書類取集メ宿方へ立歸り宿役人共へ其段申聞領主板倉伊賀守役場え注進致すに付役人相越御用書類相改上は箱補理右出役之者假符印附坂本宿年寄彌三兵衛清兵衛差添宿々繼送四月九日小木湊へ渡海之上同日御役所え到着彌三兵衛外壹人右之趣訴出取調候處御用書類無相違候得共右糺方等之儀は道中奉行御勘定奉行えも相達御用番脇坂中務大

輔殿へ申上置

- 一 右大將様被遊御疱瘡候處輕御様躰被成御座候旨三月廿五日附御奉書四月十日到來

- 一 右大將様御疱瘡被遊御快然四月六日御酒湯被爲召御機嫌不斜誠以目出度御事不可過之旨同七日附御奉書同廿一日到來

- 一 御靈屋附御紋附御品之内損之分先年之振合を以道頓堀佛具屋喜兵衛と申者へ仕立方之儀申付候積之處御紋附之御品に付相達候旨四月中大坂町奉行え及懸合

- 一 佐州之儀近年時々之違作に而有米少に罷成去秋之儀も田方不熟國中在町共米拂底之趣相聞候に付去亥年新穀に詰替御拂可相成去ル丑年御圍糶三千俵を以爲取凌候積是迄之振合を以右之内千百俵請取追々正米に摺立廣惠倉へ爲引請救米等に差遣候處近國之米價及承候哉在町共一時に直段下落いたし此上摺立米拂出候而は猶又直段引下ヶ御藏元書御拂米代并諸石代直段にも相響候間拂方差止殘糶摺立も見合候得共去亥年凶作後之義に付追々農業海漁専ら之時節に相成又々米糶差支候趣相聞候間摺立米糶共當節之相場を以一圓廣惠倉へ爲引請追而米穀拂底之向へ取捌其節損益は同所仕拂之内融通之積取計右直段之儀は糶半摺之積り摺立賃除之正米壹石に付殘三貫貳拾四文宛に而此節御藏納爲致右之趣御勘定奉行へも申達候旨申上書面四月廿三日水野越前守殿え進達

- 一 村々百姓共騒立候一件爲吟味江戸表より被遣候面々逗留中飯米並榊原式部大輔固人數糶米等入用之節々佐州御藏非常御備御圍米之内より御藏御拂米時相場を以請取之新穀を以詰戻候積兼而申上米百五拾三石請取候處出目欠差引之上百五拾三石五斗四升七合全御藏出相成候間去亥御物成新穀を以詰戻候

旨申上書面前同斷

一 金銀山金穿大工共於市中がさつ之所業及び候哉に相聞るに付去々年中夫々及沙汰置處やもすれは町方商人家へ立入ねたりケ間敷義申掛る趣相聞不屈之事に候畢竟其筋締方ゆるかせより右之始末に至候間此未取締方改而末々之者え嚴敷可申渡置其上に而聊たり共猥りケ間敷儀於有之は無用捨召捕嚴重申付條山方役へ沙汰いたし可被置旨四月廿五日書取を以申渡

一 金銀山金穿大工共於市中がさつ之所業有之哉に相聞右様之節は無斟酌可訴出旨去々年中及沙汰置處今以商人家等え立入ねたりケ間敷儀申掛る趣相聞る處是迄何之訴も無之如何之事に候今般取締方其筋え猶申渡置候得共向後矢張不法之義等有之は差押へ品々可訴出若等閑にいたし置後日に顯はるゝに於ては急度可申付無違失可相心得右之趣市中小前末々之者迄不洩様可相觸旨前同日町方掛廣間役え書取を以申渡

一 大坂御廻米近年欠減多く船方疑感いたし雇付方差支候趣に付先達而掛合有之支配向取調差出候書付相達候處夫々廻船御用達共へ申渡有之請書寫相添尤米計人袴之儀は勤具之由に付廻船方願に寄改候而は支配向氣請にも拘り可申哉に付着用之積申渡候得共江戸御藏御取締之儀に付明和四亥年松平右近將監殿被仰渡候御書付に御米納拂に差出候人足とも前垂爲致間敷と有之右は御米請取渡之節疑感無之様と之儀に可有之既に江戸御藏にては米計り立に拘り候者袴着用いたし候儀無之趣御勘定奉行より四月中掛合に付今般御掛合以前御米積渡之分は都而仕來之通取計相濟候得共以來之儀右御用達共え申渡之趣相心得米計人も袴着用不爲致積夫々支配之者へ申渡候段及挨拶

一 前々評定所并於奉行所裁許有之御料私領寺社領等之村々に所持いたし候裁許裏書繪圖裁許下書裁許證文御料は御代官私領は領主地頭に而其村方より寫を爲差出本紙相添來ル十月中に取集江戸着次第寺社奉行月番へ致通達御差圖請右裁許證文古來は爲取替證文と認有之間是又同様取集可差出旨御書付四月廿七日水野越前守殿御渡五月十一日到來に付國中へ相觸候處延享五辰年上新穂村新延寺より國分寺村國分寺外一ヶ寺へ掛り寺役之儀に付及出入寺社奉行所裁許下ヶ書銘々持傳罷在差出其外裁許繪圖裁許證文等所持之者無之に付右新延寺外貳ヶ寺より差出下ヶ書本紙并寫共六通月番寺社奉行松平伊賀守へ相達其段水野越前守殿へ申上置

一 暉姫君様御不豫之處御養生不被爲叶五月八日巳ノ上刻御逝去に付普請は同日より同十二日迄鳴物は同十七日迄停止之旨同九日附御奉書同十六日到來に付同十七日より前條之通停止を觸る

一 暉姫君様御事奉稱貞明院様と旨五月十一日巳ノ刻御出棺於東叡山御葬送相濟同十二日より御法事御執行之由同十三日附御奉書同廿四日到來

一 六月二日入牢人大間町多市外五人牢拔有之右之内平松村小十郎は同三日五十里炭屋町に而召捕差出に付嚴重に取締方爲致牢拔之始末は吟味詰追而可申上旨御届書面同十三日水野越前守殿へ進達

一 國府川橋掛替有之吉岡村仁平次三夫婦之者渡初有之鳥目を爲取

一 藏田太仲御藏方御勘定仕上相濟無宿貳人宰領五月廿四日江戸表出立信州路六月五日越後出雲崎へ出津同九日小木湊へ渡海翌十日新町村泊十一日相川着道中傳馬御證文脇坂中務大輔殿

一 六月八日川路三左衛門佐渡奉行被仰付貳百俵高に被成下候旨六月九日附御奉書同十八日到來元御勘

定吟味役なり

- 一 越後月岡村文左衛門不屈有之中追放申渡當地水替人足として出雲崎御代官青山九八郎より引渡有之
- 一 六月廿一日小木湊へ渡海翌廿二日同所番所役率領到着に付小屋入爲致其段公事方御勘定奉行へ達置
- 一 去亥年分山出灰吹銀貳百五貫六百七匁御傳馬宿入用金四拾三兩三分銀七厘八毛上月紋平山田市郎右衛門才領して六月晦日差立七月三日小木湊出帆道中傳馬御證文脇坂中務大輔殿燒金拾八貫四拾壹匁八分佐州御金藏に積置出方御入用差引金九千七百六拾三兩三分永拾壹文六分御益此小判積五千九百七拾兩永百五拾貳文貳分なる江戸詰上月紋平淺見忠次御勘定仕上る

一 同年分山出荒銅千七百貳拾貫目此金三百五拾四兩三分永百拾五文

一 秤改御用に付守隨彦太郎名代改之者傳馬御證文頂戴之上越後佐渡兩國巡行爲致候に付佐州國中最高宜場所を改場にいたし道法貳三里之間村々呼寄如前々諸秤相改尤去ル申年從公儀被仰出候御觸之通心得違之者無之様申渡有之度旨并右御用中御定之木錢米代相拂止宿いたす先格に付其段相届候旨二月中在府篠山十兵衛方へ書付出す五月中彦太郎名代馬場次右衛門外壹人上下六人に而小木湊へ渡海改濟之上六月廿九日赤泊湊より出帆

一 六月廿四日御勘定評定所留役山本新十郎組頭過人御普請役元へ進退御普請役格水野正太夫廣間役過人被仰下候旨七月十二日申來

一 川路三左衛門在勤に付七月朔日之御暇に而同十一日江戸表出立三國路通同十七日越後寺泊へ出津同廿三日赤泊湊え渡海翌廿四日相川御役所え着鳥居八右衛門交代して同廿七日出立小木湊え出津翌廿八

日越後出雲崎へ渡海信州路旅行

一 組頭山本新十郎江戸廣間役水野正太夫兩人共家内召連七月十一日江戸表出立三國路通同十七日越後寺泊へ出津同廿三日赤泊湊へ渡海翌廿四日相川え着之所差定候御役宅無之に付新十郎は廣惠倉役所御役宅形に補理ひ假住居正太夫は羽田町清八方に寄宿とす右に付廣惠倉御用向之儀は最寄雜穀藏圍内え假役所補理取扱候趣御届申上る

一 於江戸表押込被仰付候廣間役田中從太郎山中又四郎山方役永井庫之助地方掛井上爲三郎辻六郎右衛門同並役藤田裕之進元地方懸頭取堀口市太夫義今般川路三左衛門佐州え罷越候に付召連候様御沙汰有之七月十一日江戸表出立海陸無滯同廿四日相川え到着に付夫々爲相慎置旨翌廿五日御届差立る

一 上相川町熊次郎孝心奇特之趣相聞るに付鳥目を爲取

一 村々百姓共徒黨いたし候一件評定所一座より御仕置伺之上水野越前守殿御渡御下知書之内書抜一冊并請證文捨札案欠所書付差遣候間佐州着之上可申渡尤支配地役押込日數は別紙に而相達候間別段掛合不及差免堀口市太夫外六人今十九日押込申付候間出立之節佐州引連道中日數除殘日數佐州着之上爲慎全日數相立候は、是亦同様取計ひ可申趣其外取計向之儀六月十九日評定所一座より在府川路三左衛門え達書到來

一 右に付一件之者へ申渡之趣其外御書付等を以左に其荒増を記す

一 御作事奉行若林佐渡守佐渡奉行勤役中佐州村々御年貢臨時石代取立方銀山御用途補ひ方之儀泉本主水正勤役中去ル子年以來差略之仕法有之候を支配向之者共仕來に泥み取計候處如何之義共不心付罷在

去ル申年石代取立方事實相違之皆濟目録へ裏判いたし村々々々相渡候段不束之至に候依之逼塞申渡篠山十兵衛佐州表流弊改革之儀去ル酉年若林佐渡守と交代之節同人居殘品々申談取調候處去ル子年以來御年貢臨時石代寛政度伺濟相違之取立方いたし候右石代之内を以銀山御用達え振向候如何之取計有之段支配向之者申聞候に付大仕法を以去ル申年取立置臨時石代之内銀山御用途え振向候仕來之分御遣方見合候上は猶又委細之始末取調去ル戌年歸府之上早速可申立處其儀無之等閑に罷在候段不束之事に候依之差扣前同日被仰付

一 御代官添田一郎次佐渡奉行支配組頭勤役中去ル子年佐州表御年貢臨時石代取立方銀山御入用補方等之儀泉本主水正差略之取計振有之候を強而之差圖に候迎同役一同承請去ル寅年臨時石代相立砌も同様取計其時々村々々々相渡皆濟目録へは時相場に而爲納候分をも伺濟石代之積認相渡段事實相違之致方奉行差圖とは乍申不束之事に候高山又藏佐渡奉行支配組頭勤役中去ル巳年佐州表御年貢臨時石代取立方銀山御入用補方差略之取計去ル子年泉本主水正及差圖其以來之振合有之由在方掛廣間役共申聞共右は如何之儀と心付其段可申立處都而右仕法に泥み^ト在勤奉行鈴木傳市郎并同役一同相談之上前書銀山御入用補方等之儀は自然國中之潤助に可相成との存込を以仕來之通取計村々々々相渡皆濟目録へは時相場に而爲納る分をも伺濟石代之積に認相渡段事實相違之致方不束之事に候依之兩人共前同日差扣被仰付

一 支配勘定評定所留役白石十太夫支配勘定小池小次郎佐渡奉行支配廣間役之節在方掛に而御取箇筋取扱候處臨時石代高之内村々々々願時相場に而取立候相場違之間錢銀山向御用途之補に振向候様可取計旨去ル子年泉本主水正差圖に任せ十太夫は其砌より小次郎一同其以來右振合を追ひ取調候段右は奉行差

圖に候共素々事實相違之儀を如何之儀共不心付取扱候始末不埒に付兩人共前同日押込被仰付

一 支配組頭河嶋才右衛門儀巡見使歸帆之砌上山田村善兵衛出牢預として百姓共徒黨いたし候趣相聞候上は委細之始末早速可遂穿鑿處等閑に打過其上徒黨之者とも八幡野へ屯いたし候由及承候は、右次第奉行え申達速に取鎮人數可差出處其儀も無之右之者共奉行所までも可押參杯不容易場合に至り人數差出候手筈之處右様取扱候而は人氣に可障旨を以善兵衛を歸村爲致候様奉行存意之次第如何之旨再應申述取用無之とは乍申其後善兵衛并荷擔之者共品々及不法候をも奉行之存寄に任せ其儘打過罷在且去ル申年村々不作に付御年貢臨時石代等之儀掛リ之者共如何之仕來に泥み差略之取計有之候を其節可承^{一本被仰付ノ下右は水野越前守殿被仰渡候趣を以申達候(川路奉行)}心付も無之事實相違之皆濟目録え奥印いたし候始末彼是不行届事に候依之差扣被仰付八月七日申渡九月廿六日御免山本丈右衛門義巡見使歸帆之砌上山田村善兵衛出牢願として百姓共徒黨いたし候趣相聞候上は委細之始末早速可遂穿鑿處等閑に打過其上徒黨之者八幡野へ屯いたし候由及承候は、右次第奉行へ申達速に取鎮人數可差出處其儀も無之右之者共奉行所までも可押參杯不容易場合に至人數差出候手筈之處右様取扱候而は人氣に可障旨を以善兵衛を歸村爲致候様奉行存意之次第如何之旨再應申述取用無之とは乍申其後善兵衛并荷擔之者共品々及不法候をも奉行之存寄に任せ其儘打過罷在候始末不行届事に候依之差扣被仰付九月廿七日申渡十月廿七日御免

一 廣間役田中從太郎山中又四郎儀去ル子年地方掛頭取相勤候節作方不熟に付在勤奉行泉本主水正差圖を以作損之村方へは爲手當臨時石代納割賦殘之分御拂願出候村方へ時相場を以拂米にいたし出錢之分銀山御用途に差向候儀奉行差圖とは乍申事實相違之儀共心付可申立處無其儀其外又四郎儀は銀山え村

々より納錢爲致候は、勤功にも可相成と心得糶納之分半減納に申立右に付冥加金差出方申論其外夷湊御藏敷地引移方目論見是又出錢取調申立且又四十物師共願之上人數取極候節も銀山御用途に出錢致し候儀は從太郎同意に而申立右等に付而は自然非分も相生し可申其上廣惠倉仕法之儀初發と違ひ掛役人共御益金相進候儀を専ら心掛候様成行候をも不心付不埒に付兩人共押込_{日數}五十日地方掛頭取早川爲四郎義去々戌五月中百姓共騒立相川陣屋元え押寄候風聞に付人氣取鎮之ため上山田村善兵衛差返候様在方掛廣間役談請候共無謂差戻之義郷宿共へ申渡且銘々地方掛相勤候身分に而任仕來在中之者より野菜代錢_{日數}少分受用いたし其上去ル午午以來御林木根伐人足扶持米代錢其年々割錢いたし候而は聊之儀手數相懸候に付相應之高に相成候迄溜置相渡可然旨一己の存寄を以地方掛え申談去々戌年に至り相渡候付百姓共疑惑を生し候に相到候段不届に付存命候へは頭取役取放押込可申付處病死いたすに付其旨可存山方役永井庫之助義先役之節地方掛相勤候身分に而仕來に泥み少分とは乍申在中之者より野菜代として鳥目受用いたし其上去ル午午分御林木根伐扶持米代割渡之節仕來に而銀納爲替にいたし遣候處員數聊宛に而手數も相掛り候儀に付四五年分一度に相渡候方可然旨早川爲四郎一己之了簡に同意いたし午年以來之分去々戌年に至相渡殊に去ル巳年村々作損に付被下候臨時石代割賦殘仕來に任せ御拂米に取計相場違出錢之分金銀山御入用へ相廻且又去ル子年在勤泉本主水正御入用筋配慮いたし候儀及承御圍糶半減納に申立村々より冥加錢爲差出勤功に可致ため右躰之取計に及び候故自然非分之義も相生し實意之致方に無之旁不埒に付押込地方掛頭取堀口市太夫地方掛辻六郎右衛門同並役藤田裕之進義巡見使小木湊出津出帆當朝百姓共騒立散亂いたし候後穿繫之上差押へもいたさず裕之進は右之趣奉行え注進

として早速相川表罷出市太夫六郎右衛門も風順に寄巡見使歸帆之程も難計に付翌朝迄小木湊に罷在同所引拂相川表え罷歸候途中八幡村八幡野へ百姓共多人數相集候を見請候得共卒爾に相制候而は失躰之儀可有之と存一應之制も不致殊に追々百姓共相川陣屋元へ押寄候風聞に付取鎮之ため上山田村善兵衛差返候様在方掛廣間役談請候とも無謂儀に返し遣候様郷宿共へ申渡且銘々地方懸相勤候身分に而仕來に任せ野菜代錢_{日數}少分村々より受用いたし其上去ル午午以來御林木根伐人足扶持米代錢其年々割賦いたし候而は聊之義手數も相掛候に付相應之高に相成候迄溜置相渡可然旨早川爲四郎一己之存意に同意いたし去々戌年に至相渡殊に市太夫義は去ル申年違作に付村々に被下候臨時石代村々割賦殘前々仕來に泥み御拂米に取計出錢之分金銀山御用途へ相廻候段不届に付市太夫は頭取役取放押込_{日數}五十日六郎右衛門裕之進は押込_{日數}五十日地方掛井上爲三郎儀地方掛勤る身分に而仕來に泥み少分とは乍申在中之者より野菜代として鳥目貫請候段不埒に付押込_{日數}六十日六月十九日評定所に而被仰付道中日數除之八月廿四日差免

一 上山田村善兵衛義村々御年貢口米并新規高掛御役錢等御宥免之儀巡見使え申立逸々願も相立候は、國中通用宜可有之と存付村々え右相談に可集旨之廻狀等差出所々におゐて會合いたし村々之者共より種々申聞候百姓共勝手儘心得違之儀或は疑惑を以不取留儀共訴狀に取綴一國願之銘目を以御使番御番所并御勘定巡見先へ差出其以前村々之者共度々寄集候趣相聞奉行所より呼出請右躰黨を結候巧之次第穿繫可請儀と押量呼出相拒不參之始末糶請候節は病氣に付延着之趣申紛又は國中惣代引請候者に付糶明無之様其筋へ沙汰有之度杯不筋之願書畑本郷四郎左衛門名前に而取調同人より巡見使え爲差出其上

村山村白山權現祠官宮岡豊後外貳人申合巡見衆へ差出候訴狀之趣江戸表奉行所において取調可請積を以右之者共國中一郡宛惣代を爲心得又は俱々江戸表へ出判申請度など不法之事共申立或は村々より諸入用錢取集右躰之取計ひ及び候故國中村々之者共人氣立所々において徒黨いたし人家等打毀候次第に至候段不恐公儀致方右始末不届至極に付獄門宮岡豊後義上山田村善兵衛國中之惣代引請品々可相願杯不容易企に厚く同意いたし右願之趣江戸表奉行所にて取調請候積を以羽茂郡惣代相心得又は右に付村々より諸入用錢取立或は畑本郷季左衛門外壹人俱々善兵衛申合を請願筋に携り候者は速に江戸表へ之出判請度杯不筋之願書奉行巡村先え差出右取上無之旨奉行所に而利害申聞候を相拒殊に同一人一旦入牢に相成候節最寄村々之者共申合又は火之手を揚人數を集小木町巡見使旅宿へ罷出歎訴及び取上無之候迎國中一体へ廻狀差出人數を集奉行所へ可願出積を以八幡野へ屯いたし右躰黨を結び候より人家打毀及狼藉候者も有之候次第に至右始末不恐公儀致方不届に付死罪畑本郷四郎左衛門義上山田村善兵衛一國之惣代引請品々可相願杯不容易企に厚く荷擔いたし同人義呼出不參之吟味中入牢に相成候節國中惣代心得候者に付嚴重之取扱無之様其筋へ沙汰有之度杯善兵衛任頼不筋之願書巡見使え差出遣又は右願筋に付村々より之入用錢取集其外品々不法之及取計殊に善兵衛一旦入牢に相成候節村山村白山權現祠官宮岡豊後重立村々一体申合奉行所へ可願出旨同人より之通達を村内季左衛門俱々承請近村々へ寄集り候様廻狀差出八幡野へ多人數屯いたし右躰及徒黨候故人家打毀候者も有之次第に至右始末不届に付遠嶋畑本郷季左衛門加茂村半左衛門義上山田村善兵衛國中之惣代引請品々可相願杯不容易企に厚く荷擔いたし願之趣は江戸表奉行所において取調請候積を以季左衛門は雜太郎半左衛門は加茂郡惣代可

引請旨申合右に付村山村白山權現祠官宮岡豊後俱々善兵衛申合を請願筋に携候者は速に江戸表え之出判請度杯不筋之願書奉行巡村先え差出右取上不相成旨追而奉行所に而利害請候を相拒品々我意申募り殊に季左衛門は最初より都而如何之相談に加里右諸入用として村々より出錢取集等世話いたし或は善兵衛一旦入牢に相成候節豊後重立奉行所え慈悲願可致旨同人より通達請村内四郎左衛門俱々最寄村々え廻狀差出八幡野へ多人數屯いたし右躰及徒黨候故人家打毀及狼藉候者も有之候次第に至右始末不届に付兩人共遠嶋上山田村助左衛門義村内善兵衛任申品々願之事共取綴一國惣代と名附巡見使え差出候訴狀清書いたし遣又は願筋に付入用錢取集として村々え差出候廻狀等をも認遣候始末不届に付輕追放後山村樹五郎下八幡村常右衛門小倉村兼之亟儀上山田村善兵衛一國惣代之名目を以村々願筋引請都而爲筋相量候杯如何之風説を頼に心得同人一旦入牢に相成候節村山村白山權現祠官宮岡豊後重立村々舉而奉行所へ宥免願可致と八幡野へ屯いたし候人數に加里殊に上八幡村四郎吉等は兼而善兵衛へ荷擔不致を心憎存仇可致と樹五郎重立常右衛門兼之亟差續其外徒黨之者共一同四郎吉宅へ礮投付戸障子諸道具等打毀其後長石村忠助重立宮浦村兵右衛門宅打毀候節常右衛門は村内之者共人數に加里候様觸歩行樹五郎村内清太郎俱々右狼藉及び殊に同人申合村内傳九郎其外都而穀屋共居宅打毀之儀企候者有之趣申觸し夫々恐怖爲致自然傳九郎より不法者宥免方相頼候様仕成候上右取扱候には多分之雜用相掛候杯無跡形儀を申掛金子ねたり取候段樹五郎は別而之儀右始末一同不届に付樹五郎は遠嶋常右衛門兼之亟は重追放大石村太郎兵衛瀧平村石之助義太郎兵衛は上山田村善兵衛一旦入牢に相成候節宥免願として村山村白山權現祠官宮岡豊後重立村々之者共一同奉行所へ歎訴可及と八幡野へ屯いたし候人數に加里

寄集候者共は小木町問屋共善兵衛願筋へ荷擔不致殊に同人被召捕候節も夫々取扱方いたし候を舉而相憎候故右躰之者へ仇致し候は、以後村々取用宜敷可有之と存付其場之人氣を察し徒黨之者共引連小木町へ押掛居宅其外打毀石之助は右騷を承り場所へ駆付人數之掛引いたし候より幾群にも引分れ右問屋共宅戸障子打毀衣類引裂品々及狼藉候始末兩人とも不届に付太郎兵衛は遠島石之助は重追放畑方村兼之助季四郎義上山田村善兵衛へ荷擔は不致候得共畑本郷藤九郎發意いたし畑方村萬七等米價高直之折柄困窮者へ救方等不致を心よからず候迎一同同人方へ押參及亂妨又は同村與次兵衛申に隨ひ河内村東五郎方をも打毀候積りに而同意之者共俱々右最寄へ寄集候上其場に於て藤九郎任申宮浦村兵右衛門宅へ押掛長石村忠助等へ荷擔いたし諸道具其外打碎或は右人數之内馬場村與之助を以同村森右衛門に米下直に賣出候様爲掛合又は藤九郎與次兵衛任申東五郎宅え押參候途中村内孫兵衛方をも可打毀旨頭取共申出候處兼助は懇意之間柄氣毒に存取扱頭取共を宥季四郎は東五郎方へ罷越居宅等打毀及狼藉候始末不届に付兩人共中追放下八幡村十吉儀上山田村善兵衛へ荷擔は不致候共長石村忠助發意に同意いたし米商ひいたし候宮浦村兵右衛門宅打毀候は、其外之者共致恐怖一同米穀直下ヶ可致旨最寄村々之者共を申勸兵右衛門方へ押參表入口戸障子蹴放し立入居宅土藏等打毀候折柄畑本郷藤九郎重立畑方村兼助其外多數押參一同に而猶又狼藉又は忠助發意に隨ひ馬場村森右衛門方をも可打毀といたし候處同村與之助取扱以來米穀直安に可賣捌旨及掛合候段右始末不届に付中追放三宮村季七儀上山田村善兵衛へ荷擔は不致候共米價高直之折柄村内傳十郎等手厚く相暮候身分近郷困窮之者共へ救方も不致を心憎存夫々仇可致旨發意いたし多數申合次兵衛方へ罷越他村え米穀賣拂申間敷旨押而及掛合其上傳十郎

宅可打毀と仕成候處村役人より制請逃去候始末不届に付中追放丸山村多次郎甚五郎儀上山田村善兵衛え荷擔は不致候共米商いたし候多田村庄五郎任相場利潤を貪心憎候迎多次郎發意甚五郎同意いたし多數申合庄五郎宅え罷越俵物切碎米穀等蒔散し及狼藉候段不届に付多次郎は重追放甚五郎は中追放徳和村徳三郎權兵衛義上山田村善兵衛荷擔は不致候得共米價高直之折柄最寄穀屋共其外身元宜敷者とも救方等不致を心憎存徳三郎發意に權兵衛致同意火ノ手を揚又は人數を呼集家並に押掛居宅諸道具打毀候處村内多六外壹人方に而は酒食差出相佗候迎恣に飲喰いたし夫より權兵衛は赤泊村利左衛門外一人宅をも可打毀旨發意いたし右人數一同押參家財等打毀及狼藉候段右始末不届に付兩人共重追放右之通一同夫々可申付處於江戸表病死いたす國中貳百六拾壹ヶ村之内相川町見立虫崎三ヶ村相除殘貳百五拾八ヶ村之内金丸外四ヶ村名主は名主役取放過料錢五貫文組頭は過料五貫文百姓は村過料上山田村名主は所拂組頭は役儀取放過料五貫文百姓は村過料高崎外貳百七ヶ村は名主は過料拾貫文組頭は同五貫文百姓は村過料吉住外四拾三ヶ村名主は急度叱組頭叱此外一件に携候役人出家社人修驗百姓町人等押込逼塞手鎖過料叱等八月七日より度々に申渡

一 市之勢間歩之儀元祿十四巳年開發以來時々盛衰有之候得共寛政之頃迄稼方相續いたし候處臺通出水有之稼方相廢候處去亥年中銀山町長兵衛外一人自分入用を以取明相稼追々出方可相進体に付手入稼に取計掛役人爲附張爲相稼候處當節一ヶ月貳貫五百目餘之出來銀高に相成候間手輕に番所取立掛之者晝夜爲附張取締爲致候段申上書面八月六日水野越前守殿え進達

一 佐州御入用筋之儀追々御沙汰之趣を以無油斷取調候得共口々多端殊に從來仕來一概に取計兼候廉有

之彼は掛引其上金銀出方に差響候而は不容易右等も程々見計ひ以後御取締は勿論山出金銀高不相減様且一國立行方をも差合此節迄に諸向改革筋見込取調共凡出來仕右書類此度交代之砌八右衛門より三左衛門へ引渡得と及演說置候得共種々入組候も有之候間初在勤急速考辨附兼候に付此上夫々取調十兵衛一同打合評議之上追而相伺候様可仕旨申上書面前同斷

一 彌十郎間歩去々成年本途稼に付雇之者へ爲買請候御拂米當子年迄三ヶ年之御斷引續來丑より來ル卯迄三ヶ年之間是迄之通増御斷被成下候様同斷伺之通御下知有之

一 金銀山金穿大工御入用寛政八辰年貳萬人は御斷相成稼方差支候付増御斷文化十三年相伺候處五ヶ年之間貳萬五千人を目當に可仕旨被仰渡其後年限度々引續五ヶ年宛御斷被成下當子年に而年限相立引續來丑より已迄五ヶ年之間五千人分増御斷有之候様前同斷

一 彌十郎間歩相應出方に罷成去々成年本途御稼入之上大工五千人増御斷申上候處本途稼は何之通御下知有之大工之儀は同年より三ヶ年之間五千人増御斷被成下當子年に而年限相至候間引續來丑より卯迄三ヶ年は迄之通五千人分増御斷有之候様前同斷

一 江戸詰中澤善次郎地方御勘定仕上相濟調合藥玉鉛宰領八月二日江戸表出立信州路通同十二日越後出雲崎へ出津同十三日小木湊え渡海十四日新町泊翌十五日相川着道中傳馬御證文太田備後守殿

一 元地方掛頭取早川爲四郎儀吟味中於江戸表病死いたし御宛行上り候に付高貳拾俵三人扶持取壹人分減相成候間御藏斷之儀八月中申上に相成る其後家内之者共親類え引取

一 江戸詰野田又左衛門銀山方御勘定仕上相濟無宿貳人才領八月十三日江戸表出立三國路通同廿一日越

後寺泊へ出津同廿七日赤泊湊え渡海廿八日新町泊翌廿九日相川着道中傳馬御證文水野越前守殿

一 壹朱金之儀去亥十月相觸候通當子十月より彌通用停止に候間以後堅く通用致間敷候尤遠國其外無據引替殘も可有之哉に付停止已後も所持之者は是迄之引替所え早々差出引替可申候若停止以後通用致し候歟又は貯置不引替者於有之は吟味之上急度可申付旨八月中御觸有之

一 鳥居八右衛門儀去々成年佐州表在勤之節上山田村善兵衛兼而巡見使え訴狀差出に付村々之者共黨を結候次第は不相辨候共同人呼出差紙不參之始末吟味中入牢申付置候處其節彼地え被差遣候巡見使小木湊出帆差掛り村山村白山權現祠官宮岡豊後重立最寄村々之者共一同善兵衛慈悲爲願寄集及不法候段場所出役之地役人共申立候上は右始末得と可遂穿鑿候處其儀無之豊後猶又黨を結ひ村々一同八幡野へ屯致し奉行所え可押參沙汰承り候節徒黨之者とも嚴重に取計候は、人氣に障り尙騒動可及も難計候とて善兵衛を歸村爲致殊に同人吟味之儀は兼而巡見使え差出有之候訴狀之主意不辨候而は難及吟味との見込を以徒黨狼藉におよひ候者共穿鑿方等手延に差置候段不行届之始末不束之至に候依之御役御免小普請入逼塞八月十四日被仰付旨九月朔日申來る

一 江戸詰地方掛淺見忠次儀八月十九日評定所において百姓共騒立一件に付押込申渡有之旅宿に相愼罷在十月八日御免申渡有之旨申越

一 於國々新田畑之義に付而は享保并安永年中被仰出之趣も有之候處諸國川筋之義連々押埋水行惡敷相成候間自今以後諸國共御料私領に不限川通之附寄洲を新開に取立候儀は不及申上段眞菰等植出候儀堅く仕間敷追々生立候場所刈拂此上附洲に不相成様可心掛候

但私領之内古田畑川欠に相成居候分前後村方之差障も無之起返に可取掛場所も有之候は、御勘定所へ問合得差圖可申候難相分儀も有之節は見分之者差遣且又一流水源より海口迄一領分に籠り候川筋附洲之義は本文の趣に准し可相心得候

右之通寛政十二申年相觸置候處其後年曆も相立候に付尙又相觸候間彌以無違失様可致旨御觸書八月中水野越前守殿御渡九月朔日到來

一 連歌師土屋昌仙儀先達而於江戸表御連歌常御連衆に可相加旨被申渡御城并寺社奉行所へ罷出候せつ御連歌師同様帶刀いたし候間當地に而も帶刀致度段相願候處素々邊鄙殊に在中住居之者故平日帶刀之儀は容易に難成乍然寺社奉行伺濟之上帶刀差免に相成候哉九月中松平伊賀守へ及掛合候處右昌仙に限連歌書畫を家業にいたし御連衆に加り候者は何れも帶刀に而別席と唱候席へ罷出候前々よりの仕來に而願に寄差免候儀には無之候得共今般考辨之上御連歌師同様には不相當之筋に付右躰身分之者は以來帶刀難相成向後奉行所におゐても身分に應し取扱候積伺之上御連歌師共へ申渡候間其心得を以取扱候方に可有之旨挨拶有之

一 松平伯耆守殿御事病氣之處養生無御叶九月十八日卒去之旨同廿日附御奉書十月朔日到來に付同日より鳴物三日停止普請は不苦段觸る

一 萬釵姫君様御病氣之處御養生不被爲叶五月廿三日被遊御逝去右に付御機嫌伺に不及普請鳴物御構無之旨六月中申來る

一 古金銀眞字貳分判古貳朱銀等引替所之儀當子十月迄被差置候段去亥年相觸候處今以引替殘有之候間

引替所之儀尙又來丑十月迄は是迄之通被差置候條古金銀其外所持之者は來丑十月を限り急度引替可申候

一 草字貳分判并文政度吹直貳朱銀之儀も追々相觸候通り所持之者早々差出引替可申候

一 文政度吹直金銀之儀も頓而通用停止可被仰出候間聊不貯置此節精出引替可申候

右三ヶ條十月中御觸有之

一 十二月三日夜夷町橋次郎次郎兵衛兩人宅内より出火本家四拾三軒類燒其外御廻米御藏屋根え飛火有之所々燒損す

一 市之勢間歩之儀年來廢居候處銀山町長兵衛代次郎自分入用を以追々取明相稼當節十日壹貫目以上之鏈代賣立候様相成候に付酒錫を爲取大吹所之義も去亥四月中より粉成吹取扱金銀出來宜右を以前同斷

一 十二月廿四日御金藏え錢壹萬九千貫文餘御藏納相成候に付同所役人え酒壹樽錫遣旨書付を以申渡

一 羽田町六助外百八拾七人困窮難儀之趣相聞救米を爲取

一 國中廻船積石改之儀小役物改出役之外來春別段出役差出候上一圓改之積を以右改相濟候迄乘出差留候様沙汰す

一 十一月三日於御前井上河内守殿御事御懇之以上意連判之列被仰付大御所様え被爲附候旨同四日附御奉書十二月廿九日到來

一 仙洞御不豫御養生無御叶十一月十九日被遊崩御之旨牧野備前守殿注進候右之趣達上聞候處驚被思召候御哀傷之御事乍然御機嫌被爲替候御儀無之旨右に付同廿四日より同廿八日迄普請鳴物停止之旨同廿

三日附御奉書前日到來に付於當國も前書之通停止を觸る

- 一 篠山十兵衛事御先手御鐵炮頭被仰付候旨十一月廿四日附御奉書前日到來
- 一 十二月三日泰姬君様松平因幡守方へ御引移即日御婚禮萬端御作法首尾無殘所相濟誠以目出度御事に候段同五日附御奉書前日到來

- 一 十二月四日徳川宮内卿殿御事被任中納言旨被仰出候稱清水中納言殿と誠以目出度御儀に候旨前同斷
- 一 組頭山本新十郎義御勘定評定所留役相勤候節佐州百姓共徒黨いたし候一件吟味取扱骨折候に付銀五枚被下旨御書付水野越前守殿御渡前日到來

- 一 目付役内江清五郎儀佐州百姓共徒黨いたし候一件奉行所におゐて評定所留役等吟味いたし候節骨折候に付銀貳枚被下旨前同斷

- 一 元佐州地役人早川爲四郎妻へ一生之内悴娘へは片付候迄爲取續三人扶持被下候段前同斷

- 一 古金銀引替方之儀先年相觸候趣も有之候處其後年數相立候得共未タ引替殘有之哉に相聞候如何之事に候此後引替差出候者へは享保以上之古金百兩に付代り新金百九拾兩元ノ字有之古金は同斷に付百三拾兩乾之字有之古金は同斷に付百兩其餘元文以來吹直に相成候分は兼而相觸候通夫々手當相渡候筈に候間聊も不貯置後藤三右衛門役所并江戶京大坂其外在々引替御用相勤候者共之内え差出早々引替可申付此上尙貯置候趣於相聞は糺之上急度及沙汰候義も可有之旨十一月中御觸有之

- 一 佐州御備之儀當子年牧野備前守殿順番之所今般所替被仰付候に付來丑年溝口主膳正順番に有之候間可被引送哉之段十一月中御用番水野越前守殿へ備前守家來より相伺候處伺之通御差圖相濟候に付此節

より主膳正相心得候段御用番太田備後守殿へ御届申上候旨主膳正家來山田熊之助より十二月中以上覺書到來

- 一 萬石以上以下質素節儉之儀都而去々戌年四月相達候通尙又來丑年より三ヶ年之間彌嚴敷相守可申旨十二月中御觸有之

- 一 今般泰姬君様御婚禮相濟候付而爲御祝儀輕罪之者赦被仰付候間當時赦に可相成者遂吟味如先格可申付旨水野越前守殿御書付到來之處當時赦可申上者無之旨書面進達

- 一 金銀山出方と御入用差引年々取調申上候間去々戌年分去亥年中可申上處壹分銀直割合を以差引爲仕度段右已前相伺置候儀に付取調見合延引相成候段去亥十二月中申上置候處壹分銀直未々御下知無之に付亥年分も調見合追而御下知之次第に寄兩年分一同取調可申上旨十二月中水野越前守殿え申上置

- 一 去亥御年貢米之内六千九百六拾石大坂御廻米になる内貳千三百六拾石 大石
四千六百石 夷

佐渡年代記卷之十九終

佐渡年代記 卷之二十

天保十二 辛丑年

- 一 兩尾村甚四郎親甚右衛門外壹人九十五歳に相成候に付存生之内老養扶持を爲取澤根村茂左衛門母志か外五人九十歳以上に相成に付鳥目を爲取北田野浦村佐次兵衛外拾六人孝行又は奇特之趣相聞ルに付鳥目を爲取褒賞に及ふ
- 一 山出鏈粉成方近來其年分出來高を量り稼方押而の取計及ふに付其弊相殘かなことも鏈手入方悪き品をも差出本步當り不都合に而買石共も引請粉成に無之故目利方強而押引にも不到いつとなく古格規則をも取失様成行趣以之外之事に付古法之通改る様に沙汰す
- 一 海士町七右衛門忰杵次郎と云もの西濱通りに而不見馴海獸を拾ひたる旨を訴ふ名を知る者なし
- 一 去子十二月廿日久須美六郎左衛門祐明事佐渡奉行被仰付候旨同廿三日附御奉書閏正月十一日到來元御納戸頭なり
- 一 閏正月晦日附御奉書二月六日到來左之通り

大御所様御不例被成御座候處御養生不被爲叶去ル晦日辰ノ下刻被遊薨御奉絶言語御事に候

一 右に付普請鳴物停止公方様右大將様御愁傷之御事に候得共御機嫌被爲替御儀無之旨大御所様薨御に付

松平加賀守溜詰御譜代大名高家雁之間詰御奏者番菊之間縁頼諸番頭諸物頭諸役人御番衆迄不殘 右御三七日過月代剃可申候

一 國持大名并庶流外様大名交代寄合表高家寄合小普請之面々 右御二七日過月代剃可申候
一 御目見以下之もの共坊主同心以下輕きもの共迄 右一七日過月代剃可申候

但陪臣は月代剃候義構無之候

一 西九附之面々御目見以上は五十日御目見以下は三十日過月代剃可申候 但一七日過西九附御直參之面々髭剃陪臣は月代剃可申候

一 去月晦日大御所様薨御に付先格之通獵業之儀は今六日より停止之事

一 二月十二日附同廿三日到來御奉書左の通

二月廿日 午ノ下刻 御出棺 戌ノ上刻 御葬送

御出棺御道筋

矢來御門より竹橋御門一ツ橋御門外御堀端左へ本庄伊勢守屋敷前通り今川太郎屋敷前脇右え稻葉丹後守前通左へ松平信濃守屋敷脇前戸田日向守屋敷前筋違橋御門外神田仲町旅籠町通り堀丹後守屋敷前井上筑後守屋敷前新黒門町左へ廣小路上野黒門

御内道筋

黒門より文珠櫻前右へ凌雲院前通松原大師堂脇矢來御門通金龍堂前

覺

一 御出棺御供之面々布衣以上は熨斗目長袴布衣以下は熨斗目半袴可着事 但熨斗目は無地に而も腰

明に而も且上下も小紋に而も無地に而も可爲勝手次第に候

一 御出棺之御道筋へ提灯水桶出可申事 但提灯は紋付有無之構常之通用可申事

一 御道筋之屋敷前へ家主罷出に不及候事

一 窓蓋可仕事

一 二月廿八日夜岩首村源右衛門灰小屋より出火本家三拾貳軒寺一ヶ寺棟數七拾軒類焼に及ぶ

一 川路三左衛門爲巡村三月九日出立同廿二日歸陣

一 羽茂本郷兵左衛門祖父多兵衛百九歳同村善次郎祖母も百四才に成稀成長壽に付川路三左衛門巡村先に於て鳥目を爲取

一 船代村後藤五郎右衛門外三人奇特之趣相聞ルに付川路三左衛門巡村先え呼出五郎右衛門へは白銀外三人へ鳥目を爲取褒賞に及ぶ

一 脇坂中務大輔殿病氣之處養生不相叶去月廿四日卒去及言上候處御哀惜之御事に候旨三月二日附御奉書同十日到來

一 三月十四日附同廿九日到來御奉書左之通り

此度於東叡山御法事無滯相濟翌九日御廟所え公方様御參詣同十二日東叡山え勅使女院使准后使宣命

使參堂家齊公御院號文恭院殿正一位御贈位同十三日右大將樣被遊御參詣候

一 鳴物之義所作に仕候もの計去廿一日より可差免旨江戸表におゐて御觸有之旨三月十四日附御奉書同廿九日到來

一 堀田備中守殿御懇之以上意御本九勤間部下總守殿井上河内守殿事御懇之以御誼右大將樣へ被爲附候段被仰付候旨三月廿四日附御奉書四月四日到來

一 佐州金銀山之儀往古大盛之頃は御益も莫太之處追々衰微及び御入用差引御損分多に付夫々御主法替等有之其後石谷備後守勤役中都而の取計向一變して御入用と御金出方差引御損失さへ無之は多く金銀穿出方永世之御益且は市中助成に可相成儀を申上其後金澤大藏少輔在勤に至深く勘辨之上古敷等數ヶ所取明金銀山をも廣く爲相稼年來取續來る處文政之度泉本主水正勤役に至出方之事を深く差はまり金銀之出來方多き事を而已旨とせし場合よりいつとなく先人の究置し規則を離れ内實種々之弊を生し御益は表向而已にて實は年々御損失多く右等の次第達御聽先般御沙汰之向も有之恐入候次第に付今般改革して年來の惡弊を改候旨之申上三月中在府久須美六郎左衛門より水野越前守殿え進達之處伺之通り可取計旨御下知あり

一 四月十三日到來之御觸書左の通り

諸國より出銅は勿論古地銅に至る迄銅座へ可相廻旨明和三戌年相觸置其後天明八申年寛政九巳年觸渡候處近年不進に相聞國々之銅山相稼候分は不及申出精相稼新山等間穿致し出銅之分は聊たりとも外賣不致大坂銅座へ可相廻尤江戸古銅吹方役所并別段古銅吹所へ是迄廻し來候分且新規之分は申立

之上相廻し諸山より津出道中并津々浦々又は海上に而銅賣買堅く致間敷若亦心得違之者も有之山元より銅座へ之外へ相廻シ賣拂候歟又は山元にて荒銅勝手に延板器物或は眞鍮地鏡地等に仕立候儀は堅く令停止事其外圍銅并質銅停止申付候段先年より相觸置候通り可守之

一 國々出銅船積いたし大坂へ相廻し候節は右銅員數書付廻船之者え相渡船宿之ものより大坂町奉行所并銅座へ廻着毎可届出事

一 銅はけ之儀京并大坂ともはけ吹職之者申付置有之候間右之ものへ差廻し候儀は勿論眞鍮はけの儀も紛敷有之候間以來は一應銅座之改を請可申事

一 諸國より荒銅を白目と名付勝手に致賣買候趣相聞候條不埒の事に候以來は白目たり共一旦銅座之改を受賣買可致事

一 古銅之儀天明五巳年より古銅切屑銅とも不殘銅座へ買入に相觸置寛政八辰年より關八州之分は江戸表へ可相廻旨相觸置候處近年相弛み古銅賣上相減若心得違不正之賣買いたし候歟又は眞鍮職鑄物職之者にて勝手に吹潰候義は決而不致前々より相觸置候通り急度相守古銅切屑銅は不及申はけ銅に至る迄大坂銅座并江戸古銅吹方役所別段古銅吹所之内へ賣上可申事

一 林肥後守義兼々勤方思召に不應候に付御役御免菊之間椽頼詰被仰下御加増之内八千石被召上差扣被仰付居屋敷家作とも被召上候旨四月十七日大目付より之達書來ル

一 御目見以上以下陪臣寺社町人等百姓地を内々に而讓受抱屋敷にいたし百姓名前に而致所持候もの數多有之趣相聞右躰に而は御場内御取締不宜候に付此度不殘屋敷改に而致吟味持主之名前に而抱屋敷帳

面に相載御料私領寺社領に不限有來圍家作等間數坪數に隨ひ役人足爲差出候様屋敷改へ申渡候間所持之面々より屋敷改へ可申達是迄之通り百姓名代に而内々所持之もの有之候は、持主村役人とも可爲越度候

但是迄持主相知候分之抱屋敷は只今迄之通り役人足等差出に不及尤讓渡等も是迄之通りに候事

右之通天明度相觸候處其後猥に相成百姓地を内々ゆすり受抱屋敷にいたし家作取建候由右躰百姓名前前に而内々所持之分は家作取拂早々返地可爲致旨之御書付四月十日到來

一 久須美六郎左衛門在勤に付四月朔日御暇に而同廿三日江戸表出立三國路通り五月朔日越後寺泊え出津同四日赤泊湊へ渡海翌五日相川御役所へ着川路三左衛門交代して同八日出立小木湊へ出津同十六日越後出雲崎へ渡海信州路通り歸府す

一 山師和田與太郎下女みよ外貳人奇特之趣相聞ルに付鳥目を爲取褒賞におよぶ

一 元地役人河住傳藏松村庄太夫小田切伴藏松浦勘兵衛八木長左衛門先年不屈有之遠嶋申付候處文政五年御轉任御任槐御祝儀之御赦に此度御免被遊旨江戸表より被仰下候に付親類之もの共呼出六郎左衛門申渡

一 組頭山本丈右衛門病氣之處養生不叶死去貳町目玉泉寺へ葬る

一 御百ヶ日も相立候に付最早表向鳴物有之候而も不苦旨五月四日附御奉書六月朔日到來

一 掃部頭事五月十三日御懇之以上意御役御免被成候是迄出精相勤候に付御自身御指料之御刀被下向後も折々御用部屋へ罷出候様被仰出候旨同十四日附御奉書同斷

一 松平大藏大輔病氣之處養生不相叶五月十六日卒去公方様右大將様定式半減之御忌服被爲請候旨同十七日附御奉書同斷

一 五月廿四日大坂水替拾人同所町奉行組同心宰領澤根湊え着岸

一 久須美六郎左衛門巡村として五月廿四日陣屋出立六月八日歸陣

一 古金銀引替之事江戸表より御觸に付佐州御金藏御有金之内壹朱金并市郷より取立ル古金銀口々打合貳千三百貳拾六兩餘有之井口新次郎高野新右衛門宰領して五月廿一日相川出立同日小木湊へ出津翌廿二日越後出雲崎へ渡海

一 五月廿一日附御奉書を以被仰下候御書付左之通

上意之趣

御政事之儀御代々之思召は勿論之義取分ヶ享保寛政之御趣意に不違様思召候に付何れも厚く心得可相勤候

老中申渡候趣

寛政之度御初政之砌向々心得方之義に付厚き上意有之候旨其節達置候は一統相辨居可申儀に候處年月押移り場所々々に古く相勤候ものも殘少に成候より自然御趣意取失候歟前々御規定之心付薄く當座之御用便のみ専務と心得候様成行候は如何之義に思召候自今以後御代々様被仰出候儀は勿論分而は享保寛政之御政事向に相復し候様との御儀に付假令御沙汰之儀に而も御規定に觸候歟或は筋合之穩ならざる儀は不差扣申上候様との御沙汰に付誠に難有恐悦之御事に候乍然是迄何れも不行届御安

心不被遊御儀は深く恐入候事に候右之御趣意各奉承知享保寛政度觸達之書付類熟慮致し向々厚く相心得是迄仕來候事たりとも筋合に違ひ候義は改革致シ何事も正路に御爲第一に取計被遊御安心候様精々可被相勵候事

附享保寛政之度を始惣而度々被仰出候義當座同様に相心得候輩も可有之甚如何之事に候殊に御役人之儀は表向手本にも相成候事故別而厚く相心得新役被仰付候節も聊不洩様精々傳達可有之事

一 御政事向之儀享保寛政之兩度悉被仰出之趣有之處追々流弊致候に付以來専ら右兩度之御趣意に復シ御爲第一に可取計右に付而は上意之趣有之段今般江戸表より被仰越候間右寫一同へ爲見置候上は一同厚く心得可相勵事に有之へく今般御沙汰之趣誠以難有御趣意に付何れも容易之事とは不相心得格別正實に厚申合御趣意に叶候様精勤いたし若右書面一覽いたし候迄に而重キ御沙汰之次第を等閑に心得候輩有之におゐては以之外恐入候儀に付其節は聊無用捨可及沙汰旨廣間役始地役人一同へ於書院久須美六郎左衛門申渡ス

一 江戸詰山田市郎右衛門無宿壹人才領六月三日江戸表出立奥州會津通同十三日越後新潟へ出津同十五日夷湊え着翌十六日相川へ着

一 右大將様御年頃にも被相成候に付而有君御方御縁組被仰出候御結納之義は當十一月月上旬御入輿之義可爲同十一月中之旨今日被仰出候依之御一門方始其外出仕有之候誠以目出度御事不可過之候有君御方姫君様と可奉稱旨被仰出旨五月廿八日附御奉書六月九日到來

一 六月十七日水野越前守殿御書付左之通

惣而御直に御尋之節申上筋或は重役頭取申聞候儀世上風説等宜事而已申候は無詮事にて不行届義行違候事等を専ら心掛ケ言上之儀尤に候事

一 重役より申聞候事に而も難致得心儀は随分押返し存念之程可申達候右は御爲を存候而不敬之沙汰には無之候事

御政事向之儀に而も心付候儀は假令役外之事たりとも心底十分に可申出事

一 頭支配之間隔候而はおのつから御趣意も届兼候間随分親敷教導可有之事

一 親類之内不宜もの有之成丈異見を加へ心添等を盡し候は勿論之事に候を近來右躰之もの候得は一

二往異見等相加へ取用候様にも不見時は早速義絶之儀を申立深切を盡し候には不到哉も相聞如何之事にて候義絶之義は誠に不得止事節は格別之義一躰不容易筋に候得は平生深切をも不盡或は危難に臨み見捨候類之儀は猶更有之間敷事に而候

一 頭支配等より御用人申上候節一己之功に拘り或は支配中の事のみ心得候面々有之哉に而宜キ御人隠不申其役々之備並御目鏡違ひに不相成様被心懸善惡進退其程にあたり候得は風俗にも相成御政事專一之事に而候儀を能々相辨心之及ひ候程精を入相撰可被申事

一 近來同役は勿論他向へ對し候而も見合を専らとし目立さる儀をのみ宜事に心得縦令甚其恥辱に當る程之事に而も了簡致シ事立さる風に取計候を物馴候儀と心得辨口立振舞形容之儀に而已拘り自然實事薄く相成候類も有之哉に候間此趣被相辨實事相立候様教方之儀可被心得事

一 諸御役所向次第に手數多く手重に相成以前より人數相増候而も御用向繁多成哉に候以來手重に不

相成様何分可被心掛候書面等もたとひ文意不行届書損等有之候とも實事におゐて不行届儀無之候得は可相濟事に候無益之儀に念を入候義無之様可被心掛候

一 惣而度々被仰出候儀に而も當座之心得同様に相成候は畢竟心之用ひ方不直故之様に相見甚如何之事に候條能々被心得候事

一 太田備後守殿就病氣願之通御役被遊御免候旨去ル三日被仰出候段六月十日附御奉書同廿日到來

一 質素節儉其外心得方之儀天保九戌年相達候趣猶亦去子十二月相達置候間萬石以上以下とも奢りケ間敷義無之衣服飲食之儀は勿論都而無益之費を省キ武備非常之手當專一に可被心掛儀に候得共此度厚キ御沙汰も有之に付彌質素節儉を相守御趣意不違様可相心得旨同斷

一 川路三左衛門事小普請奉行被仰付候旨同斷

一 下戸村字十二ノ木田地へ市中之もの多人數布木綿糸之類を持行て染ものをなす稻作の障りなき所故其儘差置由を訴ふ

一 去子年分山出灰吹銀貳百拾三貫七拾目御傳馬宿入用金三拾四兩壹分銀拾貳匁壹分三厘七毛下山平左衛門長嶋小右衛門宰領六月廿九日差立同晦日小木湊出帆燒金拾四貫七百五拾四匁六分佐州御金藏へ積置出方御入用指引壹萬五百九拾八兩三分永百貳拾文六分御益に成ル此小判積四千八百八拾貳兩壹分永百四拾五文七分江戸詰下山平左衛門藤村小四郎御勘定仕上ル

一 去子年分荒銅千八百五拾貫八百目此金積り三百七拾兩貳分永百貳拾壹文壹分

一 去々亥年分佐州山出荒銅千七百貳拾貫目五月廿二日於澤根湊積渡夷大石御廻米七百六拾石餘積合候

而六月十四日出帆之處七月九日長州須佐沖に而時化立淫之道出來水船になり御廻米打捨被吹流同十日岩田鍛三郎御代官所石州大浦湊字鏡ヶ崎にて及破船御廻米荒銅共海底へ沈に相成乗組之内壹人溺死三人致怪我御代官へ相届海底精々掛探處荒銅高之内千六百九拾三貫六百目掛揚其餘は捨りに相成破損之始末疑敷儀も無之趣右取揚品は鍛三郎より大坂銅座へ引渡之積掛合有之に付右之趣御勘定奉行へ達之上御老中方へ申上置

一 去る朔日堀大和守殿御事御懇之以上意御側御用人被仰付且向後御譜代席被仰付旨七月二日附御奉書同十七日到來

一 去ル八日松平兵庫頭事佐渡奉行被仰付候旨七月十一日附御奉書同十九日到來元御目付なり

一 引替金宰領井口新次郎高野新右衛門七月廿四日江戸表出立八月三日越後出雲崎え出津同八日小木湊へ着岸翌九日新町村止宿十日相川へ着

一 百姓共儀衣服は常々布木綿に限食事はかてを用ひ其餘は都而右に准し儉約を守身分夫々に相愼へき儀は前々之掟有之處近頃奢之風俗となり分限を辨へす家業を怠り身分不相應之衣類を用ひ或は無益之家財道具を他國よりも買求メ別而女之着用物をはしめ櫛かうかひかんさし其外都而花美を盡す趣相聞不埒之至に付以來右躰之もの有之趣相聞るにおゐては急度可申付旨市郷え觸を出す

一 八月廿九日松平兵庫頭御城え被爲召水野越前守殿御直に御渡御書付九月十三日到來左之通
佐渡奉行え

此度格別厚き御趣意之被仰出も有之候に付諸向役所々々御入用筋之儀其外自然相弛み候廉々取締方

之儀主法取調相伺候様於當地向々へ申渡候右に付而は於佐州表も取締方相弛候廉有之か又は被心附候義も有之候は、寛政度を目當致シ御入用減方其外取締方仕法取調猶其外にも減方有之不然と被存候廉も有之候は、必寛政度へ引當候にも不及候間篤と勘辨之上取調方主法取締可被相伺候

一 九月十二日諸役人之武術を試

一 諸國酒造之儀半高相減造入之儀去年中相觸候處當年之儀は諸國共豊熟に付追而及沙汰候迄三分一相減三分二造可致旨九月廿八日御觸書水野越前守殿御渡十月晦日到來

一 十月八日夜雷鳴夥敷大間町市郎右衛門と云もの、宅へ雷の落シ由を訴ふ

一 河嶋才右衛門義江戸表へ罷越候様可申渡妻子等も召連當表引拂可申旨御書付水野越前守殿御渡十月九日到來同十八日妻子召連出立新町村に止宿翌十九日小木湊へ出津十二月二日出帆

一 去子年十二月中相川柴町次三郎弟惣太郎大間町三四郎と云もの兩人盜致候趣相聞ルに付召捕入牢申付ル處三四郎は吟味中牢死惣太郎は當九月中眞田信濃守殿へ伺之上同十月十六日死罪申付ル

一 木野浦村外捨五ヶ村入會字三崎野と云所を松ヶ崎村百姓六左衛門と云もの見立自普請にて山野を取開當丑より村高三拾六石壹斗餘之御高入になりて村名を金田新田と唱ふ水懸りなく田地には開キ難く皆畑之村なり

一 松平兵庫頭事京都町奉行被仰付候旨十月十九日附御奉書同晦日到來

一 曹洞宗下寺町金鐘寺先達而江戸表に罷在候節紀伊殿奥女中より千手觀音之木像外九品寄附有之旨歸國して訴るにより紀伊殿御城附へ掛合に及ふ處無相違旨挨拶有るにより寺社奉行へ問合之上右品は寺

中に安置して平日猥に内拜等爲致間敷旨を沙汰す

一 大吹所大床脇仕事師共居場取片付候砌手道具を落し尋ル處敷板下に怪き品有之旨申に付役人立會土底を爲穿見候處竿鉛四拾三本入川鉛に似寄たる分四本合貫目百拾貳貫貳百目有之旨を届ル

一 去る八日中野又兵衛事佐渡奉行被仰付貳百俵高被成下候旨十一月十日附御奉書同廿八日到來

一 山師大坂庄右衛門弟福三郎と云者二月朔日夜皆川村百姓八右衛門宅え盜に入同人并悴八五郎へ爲疵負ルに付差押シ段訴出ルに付吟味を詰堀田備中守殿へ伺之上十二月三日福三郎は死罪申付八五郎は親八右衛門手疵負節素肌之儘立出親之危急を救殊に相手取逃候而は殘念と存有合竹切を追取福三郎と打合同人携る脇差に而深疵數ヶ所受候といへとも必死を極終に福三郎を差押ル段健氣成働奇特之至に付御同人へ願之上御褒美として鳥目貳拾貫文を爲取

一 近年面体を隠シ頭巾を拵途中に而かふり候者數多有之奉行所より尋ものに紛敷候間前々より有之丸頭巾角頭巾之外一切かふり申間敷旨先年相觸候處近頃又々面体を隠シ異風之頭巾をかふるもの有之段相聞不埒之次第左様には有之間敷事に候以來右躰の者有之におゐては見掛次第頭巾をとらせ名前等も承糺疑敷ものは召捕へき旨享和之度相觸候處近來男女とも頭巾をかふり候上^{一本手拭}掛を以鼻口を掩ひ後に結び下ヶ面体を隠シ往來致し右風儀武家へも押移り候哉に相聞風俗に拘り如何之事に付以來右躰之者見懸次第可召捕旨之御觸書十二月三日附同十五日來ル

一 去々亥年三月中相川大間町多市外四人盜致す趣相聞るに付召捕入牢之上引合之者共呼出追々及吟味處いづれも不輕罪狀殊に元來強勢之者共に付重立候者へは枷を打同年十二月御仕置相伺候處去子六月

二日曉右多市其外別段吟味に付入牢申付置もの等都合六人牢拔致に付夫々尋方手配申付牢内之様子見分爲致候處足枷に打置鋏を迦し屋根板搔破り拔出候躰之處右之内平松村小十郎を五十里炭屋町におゐて召捕尙相殘る者共尋方手筈爲致牢拔之始末御届申上先般之御仕置伺書は一先ッ御下ヶを申上牢拔之者共行衛種々穿鑿なすといへとも不尋出ルに付右小十郎并小木村與平次其外一件引合之者共吟味詰之上同十二月中水野越前守殿え伺之上兩人とも死罪外引合之もの共は夫々御仕置御答申付る多市其外之者は終に不出

一 遠國狀且又諸向より差出す諸書物進達書等に相用ル料紙之義先年も相達候處今以宜紙を相用ル向も有之候以來紙を吟味致候に不及候間可成丈ヶ麤紙を相用可申候認方等も遠國狀其外到て細字に認候向も有之候得とも書面も程能可相認候遠國狀も奉書紙に不限其所に相應之紙何紙に而も相用可申候書面を強而吟味致候而は其場所々々之不辨相成却而御用向手間取候様にも可相成候尤遠國役人御當地に詰會候者より相達候様可致旨天明之度相觸置候處遠國狀并諸向より差出候書面進達等に相用候料紙之儀いつとなく宜紙を用ひ且認方等も到而細字階書様に認候向も有之候間向後は可成丈ヶ麤紙を用ひ認方等細字は勿論階書様無之和様に而不敬不相成様に相認候様可致旨十二月十三日附越前守殿御書付寅正月六日來

一 於學問所素讀吟味請御褒美被下候ものともは引續猶又學業相務五ヶ年目學問御試之節罷出候様可心掛筈之處素讀御褒美に相成候得は夫に而事濟様に相心得自然廢學にも至り候哉に付向後御褒美被下候ものは別而出精いたし修行之上學問御試之節は可成丈ヶ罷出候様可致候尤左候迎學問而已に相懸り武

藝を怠り候儀有之間敷は勿論之事に候間銘々厚く相心得其父兄之ものとも、精々世話致シ教諭之筋行届候様可致旨同斷

- 一 去子御年貢米の内八千七百七拾石大坂御廻米に成内三千六拾石 大石
- 一 羽田町六助外貳百拾貳人困窮難儀之趣相聞ルに付爲救夫々米を爲取

天保 十三 壬寅年

一 去丑十二月廿六日組頭河嶋才右衛門漆奉行被仰付候旨眞田信濃守殿被仰渡候段同月廿七日附正月五日到來之御用狀申來

一 江戸廣間役平塚金兵衛儀江戸表へ罷出候様可申渡旨妻子等も召連當表引拂可申尤急候儀には無之條其心得に而支度道中も常躰之日積を以罷出候様可致旨丑十二月廿一日水野越前守殿御書付を以被仰渡候旨同日附御用狀正月八日到來に付爲御手當金拾五兩被下同十八日相川出立小木湊へ出津同廿四日越後出雲崎へ渡海三國路旅行

一 陣屋内に有之候稻荷祭禮之節是迄門内へ商人とも爲立入候儀不都合に付以來差止に存る

一 後藤三右衛門去丑十二月加増被仰付候に付役人共年寄役改役迄のしめ着用可致旨被申付候趣年寄役届出候に付御勘定奉行え問合候處後藤三右衛門役人共之内年寄役改役勤方まで熨斗目着之儀拙者共承届候而三右衛門役所并御勘定所へ罷出候節差免候様去十二月廿六日御書付を以水野越前守殿被仰渡候に付問合之趣相違無之旨挨拶有之に付承置

- 一 柳澤村よね九十五歳に相成候に付老養扶持壹人扶持小倉村宗十郎親宗五郎外四人九十歳に相成候に付壹人に付鳥目三貫文宛爲手當遣す
- 一 銀山町名主有田善兵衛奇特に付爲褒美白銀壹板上横山村とり外壹人同斷に付鳥目五貫文ツ、爲取之
- 一 三月廿六日椿村孀百姓ひさ居小屋より出火同人母かつ外壹人焼死いたし候旨訴出に付爲見分目付役差遣處相違無之旨申立に付ひさ呼出吟味之上過料三貫文申付ル
- 一 三月晦日山之神教壽院におゐて文恭院様御一周忌御法事有之
- 一 御用炭掛役金之義當年より定役は一ヶ年金五兩並役は三兩宛相渡候積り沙汰いたす
- 一 大川浦目付役扱ひ兩尾村之儀羽二生浦目付所へ村を狭み手遠之場所へ隔同所浦目付所扱ひ推泊三分一へは大川扱を隔双方扱村を扱み不辨理にて取締方不立候間以來兩扱にいたし締方爲心得候事に成ル
- 一 町同心以下雇之もの共不調法筋有之咎申付候節外に引合之者有之候得は於裁許所申渡候得共引合無之候節は其群々に而寺社町方銀山方在方月番之廣間役宅におゐて目付役立會相渡書付を以申渡仕來に候處江戸より被遣候廣間役之内壹人立會江戸廣間役月番之節は地附之内より立會之事に成ル
- 一 青盤間歩山師味方與次右衛門村上横之助大坂庄右衛門嶋川左右兵衛義同間歩元樋場十番東延切山立場等地山丈夫と見込去丑三月より切延申立同九月に至り薄鏈相見るとて切廣申立ル處無程古敷へ貫合候段石中難見極筋とは乍申古敷等之有無をも考へ永續第一之見込可申立處無其儀一躰職分等閑故之義不埒之至に付押込申付ル旨久須美六郎左衛門相渡書付を以月番廣間役原田次郎右衛門宅におゐて露木兵助目付役立會二月六日申渡三月六日内江清兵衛宅へ呼出差免之儀申渡

- 一 召捕者有之非人尋申付捕出候節は捕候もの壹人に付爲手當錢貳貫文宛被下候得共平人之手にて捕出候而は別に手當等無之右は平人共之儀後難を恐れ見遁候意味も有之容易に捕出候儀無之心得有之ものならては捕出不申候間非人より餘計に被下方締にも可相成候間平人は三貫文宛手當遣す事になる
- 一 當國金銀山之儀は天下之寶貨に候處慶長以來貳百餘年に及び候事故起發之ことく大盛に至り不申候とも盛衰に不拘金銀出方永續いたし候儀肝要に候處近來諸間歩共景氣不宜由尤一時に廢絶いたし候様之儀は有之間敷候得共諸山共可成に出方有之候内猶新規之場所一二ヶ所も見立候様此節より工風有之度候處初在勤素より不案内之儀に付山師共は不及申縦令其筋に不携ものに而も當人地役人共は銘々見込も可有之哉に付古書其外申傳之趣を以銘々見込之趣十分に存意申立有之様致度右は公儀御爲筋へ奉對候段は申迄にも無之當國中取續にも拘候儀に付衆評之趣を以必定可然と見込も附候上は伺之上取計申度此段申達候條厚く勘辨可有之旨二月十日沙汰す
- 一 役人出役廻村之節駕籠相用來候由之處夫々取締向申渡候に付昨年以來駕籠不相用由一段之事に候彌向後不弛様相心得證文人馬之内をも相減餘慶之人足等不遣様可致候諸役所并番所浦目付所其外在出先より爲差事にも無之儀繁々御用狀差出繼送方村々及難澁由相聞候間不差掛事は役所々々申合夕七ツ時頃迄地方役所へ集置一同差立在々よりの分も成丈ヶ勘辨いたし不差急分は溜置差越候様都而心を用ひ取計可申候

- 一 諸在出之砌成丈ヶ辨當持參いたし泊所之儀も兼々申渡置候通一汁一菜所有合之品を以爲相賄萬端村入用不懸様可取計候右之趣寄々役人共へ可被申聞旨二月八日書付を以申渡

- 一 博奕賭之諸勝負御制禁之段勿論に候得共御家人之面々屋敷にても常々可申付事に候得共今以博奕不相止趣相聞候依之享保年中被仰出候通銘々厚く心を用ひ疎略有之間敷事に候召仕共堅く制止を加へ不相用におゐては他所之もの入交り候をも無用捨召捕置奉行所又は最寄々々火附盜賊改へ可被相渡候時宜に寄而は尤討捨にも可被致候右之趣寛政之度相觸候處近來武士屋敷に而博奕いたし候もの有之由嚴敷可申付様向々え可被相達旨土井大炊頭殿御書付を以被仰渡候段二月三日附御用狀同十二日到來
- 一 武術稽古場不取締無之儀は勿論に候得とも近來心得違之輩も有之實意に出精之もの少く雜談なといたし候趣も相聞如何に候諸藝稽古場共彌右躰之風俗無之實意に出精致候様寄々可被申聞事
- 一 近來武藝免許之旨申立候面々之内修行年數も無之未々年若なるも有之候上達之遲速は性質の器用又は修行之次第にも寄候事に而あなち年數にも拘るまじき筋に候得共少しも早く免許を得申度なと存違未熟にても競望いたし師範之者も無餘義傳授等及ひ候様なる儀有之候而は一体之風義にも拘り不宣事に候間師弟ともに心得違無之様可致旨頭支配より教諭可被致事
- 右之趣先年も相達候處近來心得違いたし候向も有之哉に相聞左様には有之間敷事に候向後右躰之風儀に流不申様一同厚く心掛出精稽古致し候様頭支配に而も常々心付世話行届候様寄々可被達旨前同斷
- 一 享保十三申年安永五申年日光御社參之節向々御入用金高口々相認尤此度之義享保安永之節御入用より格別相減候様相糺右減之分其口々へ朱書致し積り早々可被差出候
- 右之通向々へ可被相達旨寅二月水野越前守殿御渡之旨前同斷
- 一 在詰役人引越之節荷物積廻として前々より六人乗一艘分證文相渡來候處右に而は過當に付中には心得違村方へ相對を以代錢請取候義有之哉に相聞如何之事に候以來荒繁に而遅く送差支候節は追々引取候積に而代錢等之相對いたし候儀不相成三人乗一艘分證文相渡候間其旨可相心得旨書付を以申渡ス
- 一 岩首村作助船四人乘庭場村清三郎船四人乗小木町留助船四人乗尾戸村に囁掛居候處二月廿三日沖合へ被吹出然處三艘之内壹艘出火と相見其内行衛不相知旨尾戸浦目付役より役上松ヶ崎番所へ達有之旨同所より相届ル
- 一 浦方番所役扱ひ村々廻浦或は出火其外見分に付番所役之もの問屋召連致出張候由人數多相成候程村方失費にも拘り不宣候間向後都而出役之砌問屋召連候儀致間敷候
- 但難破船見分之節散亂之荷物取締等不行届儀も有之砌は時宜に寄問屋召連候義不苦候且是迄難破船其外見分吟味日數相掛如何に付成丈ヶ抄取候様可取計候
- 一 例年二月八月扱下并役下村々廻村之上取締申渡請證文申付候儀は相止村々呼出於番所可申渡旨文化十四年申渡置候處心得違區之儀も相聞候間向後右酉年申渡置候通り取計不時見廻り取締方可入念候
- 但在詰役人木錢米代拂方之義相川詰同様御年貢爲替に取計書付相添在方掛廣間役え可相達候
- 一 廻船新造積石改方兎角不行届向も相聞候間向後二ヶ年月よりは小役改之もの再改請候様可取計候
- 右之通可相心得旨同日書付を以申渡
- 一 別紙之通市郷へ觸流候間役人一統之儀も心得違無之様可被申渡事

寅 二月

- 一 船方浦方之者とも積荷改候節切手錢袴料と唱相川濱手番所役人等え鳥目持參いたし候ものも有之

一本運送

由相聞不埒之至に付以來右躰之義決而致間敷候

- 一 板木炭薪他國出之義先前より停止之處近頃不取締之向も相聞候間切手外之品伐採或は拔出等致候もの於有之は其品取上急度答可申付候間心得違無之様可致候
- 一 町役人とも諸願受負事等之義に付其筋役人宅へ立入或は手寄を以音物等差贈り候ものも有之由相聞不埒之事に付以來右躰心得違之もの於有之は急度可相糺候間其旨可相心得候
- 一 右之趣町々小前末々迄不洩様可申渡旨町年寄へ申渡候様同日書付を以廣間役へ申渡す

觸書

船方浦方之者共積荷改受候節切手錢袴料と唱浦方役人共え鳥目差出ものも有之よし相聞不埒之事に付以來右躰之義決而いたす間敷候

- 一 板木炭薪他國出之義は先前より停止之處近頃不取締之向も相聞候間切手外之品伐採或は拔出等いたすもの有之におゐては其品取上急度答申付候條心得違無之様可致候
- 一 百姓共諸願并請負事等之儀に付其筋役人共宅へ立入或は手寄を以音物等差贈候もの有之由相聞不埒之事に候向後右躰之もの於有之は急度可相糺條其旨可相心得候
- 一 右之趣村役人共より其筋のもの共始小前末々迄不洩様可觸知もの也

寅二月

- 一 大石御藏納米之内羽茂本郷西方清士岡三ヶ村御年貢米字居尻郷藏へ相詰御廻米積渡之節同所にて納拂いたし候儀御藏方元伺濟有之處不取締之義も相聞候間當年之儀仕來に不拘大石御藏え爲納外村

同様納拂取計候事に成ル

- 一 惣而諸願事公事訴訟請負事に付面會を乞或は年寄を以頼ヶ間敷儀申來又は音進等いたし候族有之候は、急度相斷其段早速相届可申候且寺社並諸役所山方其外下掛之もの或は町人百姓等猥に宅々へ爲立入申間敷事
- 一 右之趣堅く可相守もの也

寅二月

右之趣は役々誓詞面にも有之且寶曆文化文政度先役共申渡置候趣も有之處追々嚴密之御沙汰有之候に付猶改而申渡候諸役人一統在詰之もの并同心共に至迄住居之内人之見候所に前書之通認張置可申候別而地役人とも儀永住に付從來出入或は由緒を以雇町人其外町人百姓立入内には内願等之取次致シ或は任懇意忽之取計も出來可申哉且は銘々經濟にも拘り可申事に付雇男女并職人商人等無據自用之者は格別其外猥に爲立入候儀は堅く致間敷旨二月十一日書付を以申渡

- 一 三月三日附御奉書同十一日到來左之通被仰下

文恭院様一回御忌御法事東叡山におゐて從去月廿六日御執行之御事に候
文恭院様一回御忌御法事於東叡山首尾能御執行去月晦日公方様御參詣去ル二日右大將様被遊御參詣萬端御作法無殘所誠以恐悅之御事に候

- 一 大床屋町やを青龍寺村清左衛門奇特之儀有之に付鳥目五貫文宛爲取
- 一 廣惠倉役所元地面へ引建直し普請有之

- 一 諸向窺并届役銘而已認差出廣間役は取扱之者名前記し小印いたし差出候仕來之處一体役銘而已にては麤略之筋に候間取扱誰と記實印致し爲差出候様沙汰す
- 一 學問所並役に差續素讀世話いたし候者并武術取立世話いたし候ものへ手當を遣し稽古之もの共爲勵引立候様可致旨沙汰す
- 一 學問所定役並役之御宛行を改す
- 一 同所用達を相止下改兩人之儀は名目不當に付小遣上番壹人門番小遣兼貳人之積相心得可申旨を沙汰す
- 一 平塚金兵衛二月十一日支配勘定被仰付候旨同廿三日申來
- 一 海士町善兵衛兵吉兩人之もの共二月廿一日願村へ相越獵業に罷出候處俄に東風吹募兩艘とも行衛不相知旨届一本洩米
- 一 御拂米之儀減米可有之哉と相見候儀之分は相除拵立候内閣當三俵之廻しを爲相立候儀に付強而之増減は有之間敷縱令増減有之候とも聊之俵數ならては格別違は無之等之處町方に而受取候榭目難相分右に付而は追々取調之趣有之候間以來買請米廻シより壹舛餘増減之分俵數共月々町役人共より御役所へ可訴置候素より御救のため直安の御拂米殊に廻シ渡之儀に候上は餘分之米有之候迎右等を取調候筋無之は勿論之義畢竟御藏方之御趣意行届候哉否之義を糺置候事に候條町役人共へ請取方麤略無之様可致旨を觸る
- 一 他國出國禁之品有之に付而は拔出之儀遂吟味儀は勿論に有之制外之荷物たりとも改請積出可申事に

有之處番所浦目付所より掛隔候場所におゐて夜分等竊に船積拔荷有之由相聞候間晝夜共不時に見廻りいたし差押可申立候於然は右取上物代錢十分一爲手當差遣旨沙汰す

- 一 浦方定番役番所役へ當分之内手當差遣猶精粗に寄追而可及沙汰旨を沙汰す
- 一 矢柄村瀧藏外拾九人漁業に罷出難風に逢助命難計難儀致し居候處但州瀬戸村甚兵衛船風波を不厭助揚粟嶋へ入津厚く介抱いたし此度小木湊へ入津右貳拾人之もの共送り相越候旨小木湊より申越右船方之ものへ爲酒代錢三拾貫文遣す
- 一 御城米は勿論諸廻船之儀に付浦々高札之趣兼々厚く心得罷在事に候處浦々之内に而鼠米抔と唱へ其外不正物諸廻船より買請候を潤助と心得候族も有之哉に相聞不届至極之事に候たとへ愚昧之小民一旦貪利に迷ひ候とも其所に被附置候役人とも取締方嚴密に行届候得は自ら惡業も出來申間敷事に付以來精々心を用ひ他之扱下に候とも如何の儀及見聞候は、無斟酌申立且手延に難相成分差押候様可致候若向後等閑之儀於有之は場所詰役人共可爲越度旨を沙汰す
- 一 三月三日諸向下方共職名改之儀左之通書付を以申渡

御役所附下改事

銀山方御入用向下改事

御役所附小遣上番

山方役所帳付

床屋下改事

定間吹所用達事

床屋銀掛

定間吹所銀掛

出張役所下改事

長崎廻儀物方用達事

出張役所下遣

長崎廻俵物請負人

御用炭役所下改事

廣惠倉下掛事

御用炭役所下遣

廣惠倉小遣上番

大吹所下改事

吹炭用達事

大吹所銀掛

吹炭世話煎

銀山炭用達銀山炭留木方世話煎事

銅稼山方重世話煎事

銀山炭留木方世話煎

銅稼重世話煎

銀山炭用達事

銀山炭世話煎

一 二月十九日御奉書を以被仰下三月三日到來左之通り

一 來年四月日光山御宮御參詣可被遊旨被仰出候

一 當二月廿五日廣大院様從一位御加階御作法首尾能無殘所相濟御喜悅之御事に候

一 廣大院様御事可奉稱一位様と之旨被仰出候

一 御勘定評定所留役助福田勝平當二月十九日支配組頭被仰付御足高是迄之通御役料三百俵御役金百兩並之通被下永々御目見以上と可相心得旨於御右筆部屋椽頼に御老中御列座土井大炊頭殿被仰渡候段同十九日附御用狀三月三日到來

一 鐵炮獵師羽茂本郷七郎兵衛鶴一羽打留差出スに付拂方之儀糴入札申付候處下戸町惣四郎外壹人代錢

三貫貳百四拾八文に而拂方申出不相當無之に付相拂

一 澁手村百姓甚五郎村内百姓源左衛門を益殺候に付右一件窺之上甚五郎は死罪其外之者共夫々御仕置御咎三月七日久須美六郎左衛門申渡

一 右一件之内同村百姓九十郎弟太郎遠嶋申付江戸表町奉行え引渡候に付右宰領として使役横田甚之助同心野原貢助中川留五郎申渡

一 江戸廣間役水野正太夫江戸表へ罷出候様可申渡旨妻子等も召連當表引拂可申候尤急キ候儀に而は無之條其心得に而致支度道中も常躰之日積りに而罷出候様可致旨二月廿八日水野越前守殿御書付を以被仰渡候旨同日附御用狀三月十三日到來右に付爲御手當金拾五兩被下同廿四日相川出立小木湊へ出津同廿六日越後出雲崎へ渡海

一 廣間役次席其外持席之者は迄申渡之順に而着座いたし候處以來は役席之順次に可相心得旨を沙汰す
一 此度寛政以前之振合を以諸勘定吟味方定役申渡候處暫く中絶いたし候役儀に付取計方改めて左之通申渡候

一 毎日定勘定所に詰會諸向勘定方致吟味存寄可申立事

一 諸向不取締之儀及見聞候は、早遠申立候様可致且又銀山勝場其外へも折々見廻り役人勘定方精粗

相糺可申聞事

但諸向へ不時に罷越御入用金錢并有品等相改可申候

一 取締之役筋に付向々におゐて取扱方廣間役目付役等に准シ候事

右之趣書付を以三月廿一日申渡す

一 山方役所附帳付武藤岩五郎是迄給米三斗給錢五百四拾八文之外手限増給差遣處以來一ヶ月給扶持貳人扶持給錢貳貫文差遣旨三月中申渡

一 矢柄村仁三郎外四人もの共二月廿三日沖獵に罷出難風に逢助命難計致難儀居候處越前國三國湊木屋甚右衛門船馳寄助揚越後新潟湊へ差送世話方厚く骨折候に付手當方之儀松ヶ崎番所役人共より申立候に付右船方の者共へ爲手當金千疋差遣旨右領主松平越前守役人へ廣間役より爲及掛合ル

一 舊冬相觸候問屋組合仲間等唱候儀は停止之旨申渡候處問屋商賣計は勝手次第に候得共矢張之間屋之名目相唱候故組合迄不解様に心得同商賣之内下直に賣買いたし又は素人に而荷物仕入等致し候類へ差障候儀も有之哉に相聞大金之冥加御免相成候上は難有相守可申處無其儀段不埒至極之儀に付依之以後組合仲間等勿論問屋と相唱候儀堅令停止米商は米屋炭商は炭屋油商は油屋と計可相唱候商賣方も仲買へヲロシ候計に無之小賣を専らにいたし品物拂底之節卸方は見合候とも小賣は不差支様可致候且又仲買之ものと申合卸方より小賣の方直段高直に賣買致間敷候此上申付候趣不相用組合無之候而は差支候たと申觸又々内々申合願立等いたす者有之候は、時刻を不移嚴重に吟味之上御仕置可申付候

一 都而株札並問屋仲合組合と唱候儀不相成段相觸候處右は十組外は不差構様心得違候ものも有之哉に相聞不埒之事に候彌先達て相觸候通相心得十組外に而株札問屋仲間組合等決而難相成候間可存其旨候是迄爲冥加無代納物無賃人足川浚駟付等之儀都而差免候間銘々正路に可致賣買候追々同商賣之

もの出來候共決而差障申間敷候御用に付前々より納物人足等之分は其筋にて調之上追而可相違候

一 品物手前に買込置追々賣出儀は勝手次第に候得共他國へ前金等遣シ買留積送爲見合其所え圍置候は則へ買に相當不正之筋に候間以後右様之義致間敷候萬一不相改趣外より於相聞は可處嚴科候

一 湯屋髮結ひ之類は諸色直段に不相拘もの故組合仲合停止之儀は不致沙汰候處同商賣之内賃錢致下直候もの有之候得は組合之ものより差障候趣相聞不埒之事に候依之以後右商賣之者も株札は勿論組合仲間等唱候儀令停止候間町内其外同商賣之もの何軒出來候とも決而差障申間敷候

右之趣町々へ不洩様早々相觸可申事

三月

右之通町奉行へ申渡候間可得其意旨水野越前守殿より御書付御渡之旨三月中御用狀に申來

一 並役格使役竹村九十郎儀數年實跡相務候に付眞田信濃守殿へ伺之上並役申付只今迄取來ル役扶持は上り向後御切米貳拾俵三人扶持被下候旨三月十四日申渡

一 町同心小頭黒田鐵藏儀數年實跡相勤候に付伺之上使役申付之只今迄取來貳人扶持は上ル向後御切米貳拾俵之外役扶持貳人扶持被下之旨同日申渡

一 三月十四日廣間役田中從太郎學問所定役へ山中又四郎夷湊定番役へ兩人とも廣間役次席兼而伺之上勤候内拾人扶持つゝ被下廣間役當分助内江清兵衛御武器掛定役廣間役次席申渡

一 同十五日廣間役助原田次郎右衛門を廣間役へ同當分助石井三郎右衛門を廣間役へ申渡其段水野越前守殿へ申上置同日山方役藏田太中を廣間役助申渡

一 兼々申達候通當表流弊改革之儀に付而は厚御沙汰之趣も有之殊に御政事向復古之御趣意被仰出も有之昨年以來組頭衆へ申談追々申諭差略之取計は悉く相改候處各同勤之面々も差はまり宜敷萬事實意に取計諸役人之内にも取締方心付候趣夫々申立追日行届大慶之至一段之事に候併流弊之取計は從來之仕癖に候を一昨年以來改革故末々に至り候ては未心得違之族も有之哉に相聞畢竟教諭方不行届故之儀に付別段沙汰には不及歎息いたし候依而茂十郎四郎兵衛も追々及老年勤苦之程察居候事に候得共兩人とも山方其外とも老練之儀兼々頼母敷見込罷在候併老人故歎萬端斟酌いたし扣目に取計候様にも被察候何事によらず心付候義は十分に申立前書申述候趣意末々迄實意に差はまり職分相勵候様連々及教諭取締も行届候様厚く心掛候様有之度旨廣間役井口茂十郎永井四郎兵衛へ書付を以申渡

一 坂下町紋次郎盜いたし候一件水野越前守殿へ伺之上紋次郎は死罪其餘之もの共夫々御仕置御答三月廿一日申渡

一 御藏々御普請掛之儀三御藏共一ヶ所壹人宛並役定掛申付置候處向後御普請方へ一纏に取扱申付御金藏役御雜藏役掛り差止候間手入場所出來之節箇所付取調組頭迄可差出候尤御米藏役御普請役へ出役申付是迄之通御扶持方貳人扶持被下候間御藏々作事方入用之儀御普請所定役俱々にて取扱御入用請拂證印帳可差出候且御藏方定番匠定人足之儀向後御藏方御普請方兩支配之積給錢は是迄之通遣候積伺濟之趣を以申渡

一 諸向雇之者共勤方入念候儀は勿論常々質素儉約可相守處中には分限を忘れ遊藝に長シ如何之取計致し候ものも有之趣相聞候處主役之教諭を以改心之趣に付宥免を以不及詮議條向後雇入之節平日行蹟相

糺可申候是迄見習勤之もの其儘差置候得共以來銀山勝場等之内若手より其職不見習候而不叶者は格別其外職分見習申付間敷旨沙汰におよぶ

一 四月九日北河内村庄四郎五人乗之船漁業に罷出候處大風に被吹流行衛不相知旨相届ル

一 同十二日組頭山本新十郎彌十郎間歩へ敷下り致す

一 同十四日組頭福田勝平小木湊へ渡海翌十五日新町村に止宿同十六日相川へ着御役所へ出勤致す

一 廣間役水野正太夫同月十二日支配勘定被仰付候旨同十三日附御用狀同廿日到來

一 御勘定吟味方下役大矢與太夫佐渡奉行支配與力格廣間役明跡へ可申渡勤候内役金三拾五兩被下且又此度爲引越料金五拾兩被下候旨當月十九日眞田信濃守殿御書付を以御勘定吟味役申渡候旨前同斷御用狀に申來

一 廣惠倉壹軒御役所書物入置候ため御園内へ引移

一 振矩師共儀往古之通以來平生銀山番所へ爲相誥候事になる

一 御米藏定番役長嶋小右衛門御勘定仕上相濟無宿六人宰領いたし信州路通越後出雲崎へ出津五月四日小木湊え渡海同五日相川へ着

一 中野又兵衛四月朔日御暇に而同廿三日江戸表出立三國路通同廿九日越後寺泊湊へ出津五月五日赤泊湊え渡海同六日相川御役所着久須美六郎左衛門交代して同十日相川出立同十一日小木湊出帆越後出雲崎へ渡海信州路旅行

一 廣間役井口茂十郎永井四郎兵衛兩人老年之故を以取締向心附之儀申渡置に付爲手當金三兩宛差遣す

且茂十郎は筆頭高年之儀に付月番は差除尤諸掛り之儀是迄之通可相心得旨五月中書取を以申渡

一 銀山向へ相渡候入用之内文政八酉年以來二十分一取立一ヶ年金高四百貳拾八兩程宛有之右を以所々敷内普請其外品々遣拂に相成候處右二十分一取立候故一鉢之御入用向吟味手弱之儀も有之且は金穿大工諸仕事師身薄之もの共可爲難儀間此節より二十分一取立は差止可申然上は御入用向精々吟味いたし諸仕事師共格別に相勵右出精之次第相顯候様可取計旨五月中沙汰す

一 銀山かなこ前鏈代之儀前々より四ツ七分相渡候處寛政之度右之内四分引上勝場粉成入用足拂之廉へ振向其後文政度に至り青盤鳥越中尾清次雲子五ヶ間歩舊來仕入錢其外口々拜借高取調之上鏈代手當之内三分通引上右を以追々返納相立來當時末納壹萬貳百三拾貫文餘有之其後長年返納不致候而は稼方手薄相成且は稼人共可及難儀は勿論に有之然處中尾を除青盤外三ヶ間歩は兼而申渡候御趣意を守稼方出精いたし此頃大工壹人當鏈代も粗相進隨而勝場粉成入用も可相減旁一段之事に付格別之譯を以今般右四ヶ間歩未納錢一圓棄損に申付勝場足拂に相成候四分之分も引戻以前之通鏈代四ツ七分相渡候條猶此上稼方差勵御損失無之様山方役におゐて厚く掛引可致旨沙汰す

一 牢屋敷之義先年より度々牢拔之者等有之格別に取締方申付此節は右様之儀無之候得共牢内へ下番人非人足等番致シ候而已に付取締不宜候間圍空地へ梁間貳間半桁行壹間半に新規張番所取建牢守は勿論見廻町同心共爲相詰候積其外入牢病人之者入置候圍并焚出所共及破損殊に用辨不宜候間増根替いたし候積り入用錢八拾九貫文餘相掛出廉之儀手限過料錢より相渡候積りを以三月中伺之上修復に取掛ル

一 與力格廣間役忤之儀目通并見習勤相願御用召に而御役所へ罷出候節式日に候へは熨斗目白帷子着用

罷出見習申渡候而も別段格式申渡無之引續右着用いたし來候得共不動之節は格別其身勤仕之上は親之身分に不拘外並之通相心得可申等之處最初定役之格式に罷出見習申渡外並之通相成候而は不都合義にも候間存寄に寄候譯には候得共以來廣間役忤之儀は定役格申付候事に極ル

一 佐州陣屋附教諭所地面之内へ孔廟醫學所再建之儀ならひに相川市中救手當圍穀詰立候儀とも久須美六郎左衛門歸府之上五月中水野越前守殿堀田備中守殿へ申上書面進達

一 澤根番所定番役吉田藤助を廣間役當分助へ五月九日申渡

一 相川下戸町七右衛門店借入墨篤次郎先達而盜いたし候一件水野越前守殿へ伺之上篤次郎は引廻し之上死罪其餘之ものとも夫々御仕置御咎五月十六日申渡

一 六月八日大坂無宿貳拾八人澤根湊え到着に付例之通同所へ出役之上受取

一 同十三日浦川村眞言宗文珠院より出火御圍米藏壹棟類燒御圍米拾九石燒米に相成其段御届申上外に郷藏壹棟百姓家三拾四軒納屋小屋數拾軒類燒いたす旨届出ル

一 賣女渡世致し候者共儀吉原町之外は隱賣女に付此度御改革之御趣意を以不殘取拂品川千住四ツ谷板橋宿之儀は道中方定之通被仰渡候に付佐州表中又は端々之内吉原町同様前々より賣女差免候場所之外不殘取拂可申付賣女渡世致シ候箇所々々委細取調可申上尤右之内船着并宿驛等に類し候場所之分は得と取締相立候上是迄之通居置候方にも可有之候間其譯をも相糺可申上旨今般御書取を以被仰渡候然處佐州之儀慶長年中相川陣屋近邊に賣女町取立有之享保年中同所場末水金町へ所替申付當時右渡世仕候者拾一軒賣女貳拾六人有之候處花美之儀等無之其外羽茂郡小木町村之儀は諸廻船入津繁多之囁湊に

付初發年曆相知レ不申候同所に限り飯賣女相置候儀奉行所へ相願承届候儀に而右女共七拾四人有之是又聊花美之儀無之候得共冬春廻船入津無之節は在中又は船附之場所等へ内々出稼爲致候趣相聞候に付昨年以來右跡之類及探索吟味之上各申付尙市郷の内紛敷相聞候者とも夫々呼出當時吟味中之ものも有之追々取締も付寄候處今般被仰渡之趣も有之候に付前書水金町賣女并小木町村飯賣女之儀は是迄之通差置右飯賣女共之内奉公人とも難決ものも有之候間右様之分は差止以後七拾人を限り右人數之外相増候儀は勿論自國之もの酒食給仕酌等に差出候儀不相成段急度申渡候旨申上御下知濟有之

一 三分一村之儀羽二生浦目付所扱下に候處荷物積出し其外不辨理に付河崎浦目付所扱に組替に成ル

一 八百屋町奎兵衛居宅内大釜築立候場所地面少々掘下り候處古鏈目形貳貫目程出候趣届出に付買石へ目利爲致候處入用に引合不申品に無之旨申立に付大吹所へ相渡

一 御米藏下掛り共當地御年貢米大坂御廻米積所出役下掛前々御手當手薄之趣を以差出餘米の内より割賦手當差遣候處當年より餘米之名目差上差出米何程有之候とも相川は正米納御廻米は本米一同相廻し殘石無之取計依而是迄之手當に而は食料不足之由に相聞後弊不生ため伺之上當寅年より雜用旅扶持を増被下旨を沙汰す

一 金銀改出張役所建替普請有之

一 屏風澤彌十郎間歩水吐之ため藤兵衛間歩取明普請いたす

一 今度姫君様御誕生之處表向被仰出は無之御名之儀は若姫君様と奉稱候旨都而表向御祝義等不及申上旨六月廿九日附御奉書七月十日到來

一 去丑年分山出灰吹銀百八拾四貫八百貳拾三匁去ル申より去子迄五ヶ年分燒金并去丑年分燒金之内三分二とも六拾三貫六百八拾六匁四分外御傳馬宿入用金四拾兩貳分銀拾貳匁壹分七厘壹毛宰領堀口市太夫桑山愛之助其外御藏有高之内古金四千五百五拾兩三分市中引替金三千貳拾貳兩共小山新左衛門清水季左衛門宰領して七月十八日差立同廿六日小木湊出帆燒金之分共道中御證文水野越前守殿眞田信濃守殿去丑年山出當寅年吹立之分之内燒金三分一四貫百九拾目御金藏へ積置出方差引九千百拾貳兩永三拾五匁壹分御益に成江戸詰堀口市太夫清水季左衛門御勘定仕上ル

一 同年分荒銅三千百八拾七貫目此金六百三拾七兩貳分永六文六分

一 河原田本町もき忤吉太郎外壹人儀奇特に付鳥目を爲取褒賞に及ふ

一 國々城下社地等におゐて江戸京大坂より旅稼に出候歌舞妓役者共を拘芝居狂言等相催候由右は其所之風俗を亂し不可然筋に付向後決而抱入申間敷候尤三都狂言座之外他國稼不相成旨今般取締方急度申渡候間得其意此上右之者共罷出芝居興行等之及對談候は、其所に留置最寄奉行所又は御代官所領主役場へ早々可申出候若觸面の趣相背におゐては右に携候ものとも悉く遂穿鑿遠國等に候とも壹人別に江戸表へ呼出吟味之上村役人共始一同嚴重之咎可申付旨御觸書七月五日附御用狀同十五日到來に付國中へ觸る

一 平清水村利平次奇特の筋有之鳥目を爲取褒賞に及ふ

一 相川市中名主中使之儀去ル酉年以來年番持に申付候處町内取治方行届不申哉に相聞候間人物相撰向後以前之通持切申付町代之儀は町内重立共之内より壹人宛相立町内限之取計に而名主中使え差添用向

相辨候處右に而は名目而已成行都而名主ともに任せ置取締にも不相成候間同年より年番持いたし諸願等に加印致候儀に申付候處強而之取締にも相成不申一躰町代は村方百姓代に准し候者に付向後町内限りいたし諸願等に加印不致事に申付旨町方掛廣間役評議書出すに付承届ル

一 大野村平八儀吟味筋に而入牢中七月十八日留住宅同人女房さよ同村なつ悴利三郎と相對死いたし平八養娘たみ手疵負候旨訴出に付檢使差遣候處申立之趣相違無之たみ疵所之儀は同夜平八宅へ忍入候もの有之相咎候砌手疵受及氣絶候儀に而利三郎相對死いたし候傍に血刀有之上は同人仕業に可有之外怪敷儀無之旨申立候に付利三郎さよ死骸取捨申付ル

一 村々におゐて名主組頭百姓代を三役人と唱村用取扱來候得とも百姓代は素々村役之筋に無之名主組頭同様村用取扱にも不相當之儀に付以來相止可然尤諸願訴之品に寄百姓惣代之心得に而連印致候義は不苦旨村々へ觸ル

一 丸山村名主右衛門四郎儀不届有之吟味筋に抱り居候處去ル十八日病氣致候旨訴出に付松ヶ崎番所定番役へ見分出役申渡村入いたし候處右衛門四郎悴右衛門三郎始村役人とも心得違致シ三月廿日右衛門四郎死骸火葬致候旨見分難成旨出役之者承置右衛門三郎並村役人等は呼出吟味之上夫々咎申付ル

一 組頭山本新十郎江戸表へ罷出候様可申渡旨妻子等も召連當表引拂可申尤急候儀には無之條其心得にて致支度道中常躰之日積に而罷越候様可致旨去ル十五日水野越前守殿御書付を以被仰渡候段同日附御用狀同月廿七日到來八月八日相川出立新町村に止宿翌九日小木湊え出津同十二日越後出雲崎へ渡海奥州路旅行

一 八月四日異國船渡來之節取計之儀に付江戸表より御書付を以被仰下候趣左之通り

異國船渡來之節無二念打拂可申旨文政八年被仰出候然處當時萬事御改正に而享保寛政之御政事に復られ何事によらず御仁政を被施度との難有思召に而右者外國之ものに而も逢難風漂流等に而食物薪水を乞候迄に渡來候を其事情不相分一圓に打拂候而は萬國へ對し御處置にも不被思召哉依之文化三年異國船渡來之節取計方之儀に付被仰出候趣に相復候様被仰出候間異國船と見請候は、得と様子相糺食料薪水等乏敷歸帆難成趣に候は、望之品相應に與へ歸帆可致旨申諭尤上陸爲致間敷併此通被仰出候に付海岸防禦之手當ゆるかせに致し置宜存心得違又は猥異國人親み候儀等致間敷筋に付警衛向之儀は彌嚴重に致し人數并武器手當等之儀は是迄よりは一段手厚聊に而も心弛無之様相心得可申候若異國船より海岸之様子伺ひ其場所人心の動靜を試候ため杯に而鐵炮を打掛候類可有之哉も難計候得とも夫等之事に動搖不致渡來事實能々相分り御憐恤之御主趣貫候様取計可申候されとも彼方より亂妨之始末有之候か望之品相與候而も歸帆及異議に候は、速に打拂臨機之取計は勿論之事に候備向手當之儀は猶追而相達候次第も可有之哉に候文化三年相觸候趣書留は可有之候得共爲心得別紙寫相達候

七月

右之通相觸候間可被得其意候

但文化三寅年之御觸書は同年之部中に有之に付略す

一 諸役所並浦方番所浦目付所等前々より有來之御用書物帳面等一ヶ所に目錄貳冊宛爲差出太印押切一

冊は御役所に留置一冊は場所へ相渡尤以來年々相増候書物類書載翌年二月中目錄二冊ツ、爲差出先同様取計之儀取極ル

一 元地役人地方掛頭取早川爲四郎儀去ル成年百姓共騒立候一件御吟味中於江戸表病死いたし去々子年存命候得は頭取役取放シ押込可被仰付旨被仰渡御吟味中病死之者に付御宛行上り爲四郎厄介之者御扶助之儀奉願候處妻は一生之内悴娘は片付候まで爲取續三人扶扶被下置候處地役人共一同源次郎身分御隣愍之儀願出依願及沙汰筋に無之其段申渡置候得共佐州御役所向は勿論金銀山稼方御直取扱に付御用向多端に有之役人人數引足不申前書源次郎人物爲相糺候處筆算も相應に仕篤實に而御用辨可相成もの由相聞候に付新規御雇入大積御入用之内より相當手當差遣候様仕度旨水野越前守殿へ申上之上爲御手當一ヶ年金五兩差遣御雇入申渡

一 銀山番所役之義何れも同様之勤方に候上は間歩限り別役名に取扱候は不相當に付以來銀山番所役と改場所之儀は其時々別段可申渡候尤席之儀は間歩順に不抱役成順に可相心得旨八月中書付を以申渡

一 下山勝三郎儀父平左衛門銀山方御勘定爲仕上江戸表へ罷出候處病死に付銀三枚爲御手當被下候旨土井大炊頭殿御書付を以被仰渡候段八月中申渡

一 廣間役大矢與太夫儀家内召連八月八日江戸表出立信州路旅行同十七日越後出雲崎へ出津同廿一日小木湊へ渡海同廿二日新町村止宿翌廿三日相川へ着

一 八月廿三日鳥越間歩敷内樋場拾四番順後光より落石有之右響に而留棚潰込江戸水替五藏柄山に被埋即死

一 醫學所世話煎之儀は醫師之内別段申付候處以來は誥醫師肝煎一同に而相心得可申尤御拂米之儀は是迄之通一ヶ年八石宛右仲間へ買請之積書付を以申渡

一 和泉村甚作鶴一羽打留差出に付糶入札申付候處四町目清七外壹人入札差出直段吟味増之上壹貫九百貳拾四文にて落札になる

一 善知鳥明神祭禮之節爲初穗六ヶ年以前酉年より白銀五枚遣候處先達而入用取調より向後相止候積之處右之趣未タ社人え不申渡折柄に付此度渡方之儀願出に付神事にも差臨殊に達落之廉も有之候間當年は是迄之通差遣シ明年より不差遣旨社人え申渡

一 久須美六郎左衛門事小普請奉行被仰付候旨八月廿五日附御奉書九月四日到來山本新十郎御賄頭被仰付候旨前同斷

一 目安裏書并差紙等は迄之取計振不相當に付相改向後目安裏書は勿論差紙之儀都而奉行名印にて差出候様可致間其旨相心得可申候但地方御用向に付村々呼出候節之儀は地方役所より認同所之太印相用可申旨書付を以申渡

一 御勘定吟味並役鈴木莊五郎去月十日支配組頭被仰付御足高是迄之通御役料三百俵御役金百兩並之通被下候旨於御右筆部屋縁頼御老中御列座堀田備中守殿被仰渡候旨九月十六日附御用狀十月二日到來

一 九月廿四日書院におゐて武術を試ル

一 十月三日大屋圖書佐渡奉行被仰付候旨同日附御奉書同十一日到來元御先手御鐵炮頭なり
盜賊火方改より

一 羽黒村權現外八ヶ所修復之節御林木之内よりは迄杉木拾本被下候積之處以來松木取交尺百六拾八

本を目當にいたし修復願出候節被下候積り十月中伺之上取極ル

一 諸色直段引下之御趣意を以十組運上御免諸株仲間等之名目も御差止相成右に付文政元寅年以來新規取立候運上冥加之類は縦今年季中に候とも差免其外古來より納米候分も御免に相成必諸色直段引下り可申と見込候分は取調可申上旨當六月中御勘定奉行伺之上相違候趣も有之候間湊町方諸商物運上冥加錢等文政以來新規取立候分は勿論前々より取立候廉に而も全く諸色直段に相響候分御免之儀取調之上九月中水野越前守殿へ相伺候處伺之通御下知有之

一 佐州御圍籾之儀元來離嶋に而時節に寄り渡海難相成國柄に付御備之ため御圍籾之義寛政四子年本多彈正大弼殿被仰渡候趣を以追々詰立十ヶ年分も相立候は、新籾に詰替古籾御拂相成候處追年石數多に相成御藏場所差支納方相減候歟又は年々引替候分計り爲相改候様可仕哉之旨同十一子年相伺候處助合錢利錢に而買入候米籾打合五六ヶ月程之夫食相備り候迄は是迄之通可相心得旨御下知有之文化九申年に至り籾高貳萬九千五百石に相成内千五百石は非常爲御備正米七百五拾石に摺立殘籾貳萬八千石は六ヶ月分夫食に引當候ては猶籾壹萬七千三百石餘可相納積り御藏取建場所敷地無之外急變夫食と唱正米八百八拾五石と打合凡三ヶ月半程之夫食相備其外村々貯置候助合穀三千九百七拾石餘有之候間籾納相止年々古籾詰替計仕度段相伺御下知相濟文政五年右籾詰替候分五分通正米に而爲相納廣惠倉に而相納右代金之内御圍籾代并正米に而相納候間金をも御金藏納にいたし十ヶ年之間正米半納之儀同十亥年相伺子年御下知相濟去ル戌年々季明に付繼年季申上當時年限中に而御圍高壹萬四千石に相成前書急變夫食之分は病難火災等之手當貸附年賦に取立候故強而御備には相成不申村々助合穀當時四千百石餘有

之時々拜借相願候故先ッは銘目而已の仕癖に流居候間逐々取締申付積然處籾納は遠近に不拘一圓相川御藏之相納候故格別運送も掛り村々難澁之由相聞候間皆籾納に申付今般郷中河原田外二ヶ村へ藏所取建十ヶ年詰立候得は凡壹萬四千石に相成相川御藏御圍壹萬四千石と打合貳萬八千石に相成御備も相立候儀に付先ッ右三ヶ村え五ヶ年分圍方相成候程に藏所取建追而五ヶ年分建繼候積相窺候處御聞濟相成

一 外海府村々之儀は米穀拂底殊に道路難場に而異國船渡來之節相川表より糧米運送難成依而文化五辰年非常爲御備米貳百石浦川外三ヶ村へ圍藏取建最寄村々より爲相納圍ひ置年々御年貢米詰替古米御拂に致し候處代錢損失有之候間今般籾四百石圍置摺立方は女業に而も相調候儀有之藏所敷地之儀は追而普請入用一同可申上一旦御入用掛り候得とも年々貳百石宛詰替不及分は大坂御廻米に取計往々御益に相成候に付尙寅年より籾四百石圍置度旨相伺候處御下知有之

一 世上金銀貸借利足之儀に付御書付九月廿九日附御用狀十月八日到來左之通

一 世上金銀貸借利足之儀是迄一割半に候處以來金貳拾五兩に付壹分之利足に利下ヶ被仰出候間諸國共右之割合を以無滯貸借致相對右より高利金一切貸出申間敷候尤右御定之外品々之銘目を附多分之雜費取候儀決而致間敷候

一 宮門跡方其外名目有之貸金之分同前たるへき事

一 此度金銀貸借利分之割合右之通に相成上は以後弃捐等之沙汰は無之金主とも致安心貸出世間之融通無差支様可致候尤右に付ては返濟方も是迄之借金銀弃捐に可致なと、の心得違はいたす間敷又貸

方も容易に出訴可及筋は有之間敷諸事寛政九巳年金銀出入之儀に付相達候趣彌堅く相守精々實意を盡し取引可致候若右之趣相背キ節義に欠候取計於有之は無用捨及吟味右之廉にて嚴重咎可申付候

右之趣在町共可被相觸候

九 月

右之通可被相觸候

右之通相觸候間寛政之度被相觸候ヶ所へ右之趣可被申渡候尤以來之裁許も彌事實相當厚く吟味有之候様可被致候不實之取計致し候分は其所之廉專一に吟味いたし咎可被申付候且又裁許の限銀を不足に差出候分も有之候は、右始末柄篤と相糺是又事實相當之處相辨可被及裁許候

一 百姓共之儀に付御書付十月三日附同十日到來左之通

一 百姓之儀は蠶服を着し髪も藁を以つかね候事古來之風儀に候處近年奢に長し身分不相應之品着用致髪も油元結を用ひ候而已ならず流行之風俗を學ひ其外雨具も蓑笠のみを用ひ候事に候處當時傘合羽を用ひ其餘之儀萬端に准し無益之費多く先祖より持來候田畑も人手に渡候儀歎ヶ敷事に候一体百姓にて餘業之酒食商等致し候類又は湯屋髮結床等有之候儀畢竟近年之儀に而若もの共自然よからぬ道に携柔弱且放埒之基に候間古代之風儀忘却不致物故質素にいたし農業相勵候儀肝要に候且先達而菱垣廻船積問屋共其外諸株仲間組合一統停止之旨被仰出御府内におゐて同賣買何軒に而も相始させ手廣に相成候に付自然在方へも押移候哉に相聞候御府内町之分在方と一樣に存候は心得違に而候百姓共専ら耕作に力を用へき身分に而餘業へ移り町人之商賣を始候儀は決而不相成事に候

一 近年男女共作奉公人少く自然高給に相成殊に機織下女と唱候もの別而過分之給金を取候由是亦餘業に望候故之儀本末取失候事共に候元來百姓共は商向當座之利潤を以營候町人共とは格別之儀に候條是等之儀能々辨別致し一途に農業精出し銘々持傳候田畑不離様專一に可心掛候

一 勘當久離帳外之義一体不輕儀に候處右体親族のちなみを絶候程之者出來候はをしへ方不宜故之事に候忤又は厄介等有之もの共は勿論村役人共一同其段厚相心得不實之義無之様常々異見等差加へ壹人たりとも其所人別不相減様取計可申儀肝要に候

右之趣堅可相守若等閑に心得候者於有之は夫々吟味之上嚴重に可及沙汰條違失無之様御料は御代官私領は領主地頭より可被相觸候

九 月

右之通可被相觸候

一 買石共儀引請中と違ひ當時之姿に而は目利見込違増減有之候而も私欲之筋に拘り候儀は無之實に丹誠を凝し眞實之目利致し候儀に候は、増減有之候は、無據筋に而不埒之廉は無之候然を目利に精入させ候仕法に候とも増候分は不及咎減候分而已咎候而は全く御損失に拘り候にも相聞何共如何と存候不埒之所業有之候を咎候は刑法勿論に候得共無不埒ものを咎候は無謂事に而畢竟増減融通など相巧候罪を引出し候縷にも相成旁以不可然候依之無罪を不咎誠實に職分差はまり候様致度此度仕來相改候條能々得其意其筋之役人へ精入心附若此後買石共かなこと馴合如何之取計候歟或は増減候而も咎無之様相成候迎職業等閑之次第も相聞候は、速に申立右犯科を以相當之御仕置御咎可申付候間往々とも無油斷

心附可相勤旨掛々之役人共へ可被申渡旨九月中組頭へ達す

- 一 上納金銀其外引替金燒金等小木湊滯津中是迄后社拜殿に差置役人始夫々不寢番等致し來候得共定式御金銀は是迄之通相心得其外燒金引替金等は嵩少之儀に付御番所に差置泊番不寢番等爲致候事に成
- 一 寛政曆差錯有之に付今般於京都改曆宣下曆號定陳儀被遂行新曆號天保壬寅元曆と被定候依之來々辰年より新曆頒行之事に候旨御觸書十月十五日附御用狀同廿四日到來
- 一 近來北國筋其外諸國廻船等異國船に似寄候帆之立方致し候船有之既に異國船と見違候次第も有之又は追々大洋を乗通シあるひは朝鮮之地方近く馳寄候も有之由右等之次第に及ふ間敷旨十月中御書付到來に付國中へ觸ル

- 一 諸國御年貢米并石代金納に相用候相場之儀毎年十月十五日より同晦日迄國々町相場市場等之相場書へ御代官領主役人奥印いたし差出御勘定所にて吟味之上相場相極候故相場之高下は自然相立候事に候處國々之内には私之作略を以相場書立方疑敷趣相聞候は吟味之上可被行重科之旨明和七年相觸候趣堅相守不束之筋無之様諸國村々市町等迄御料は御代官私領は領主地頭より不洩様猶又急度可被申付候尤近年相場相立候日限改候場所は右改候日限相用御代官并領主地頭に而も精々入念遂吟味是迄之通相場書へ印形いたし可差出候若不束之儀於有之は奥印之者も可爲不念候條其旨可相心得候
- 右之通文化十一戌年相觸候處近來心得違いたし候向も有之哉に相聞候間御代官所御預所領主地頭に而彌入念可被遂吟味候向後如何之趣相聞におゐては吟味之上急度申付奥印之もの共可爲不念條其旨可相心得旨御書付十月三日附御用狀同十一日到來國中へ觸出ス

- 一 町人男女衣服之儀前々相觸候通絹紬木綿麻布之外一切着用いたす間敷候縦令絹紬候共羽二重龍門に紛敷品并浮織綾織等似寄候類總而手數掛り候織方之品は無用に候御用達町人共之儀御目通へ罷出候節計羽二重龍門之衣服着用不苦平日は御法度衣服一切着用いたす間敷候若相背におゐては吟味之上嚴重に咎可申付候

右之通可被相觸旨前同斷

- 一 組頭鈴木莊五郎十月十五日江戸表出立信州路旅行同廿五日越後出雲崎へ出津十一月九日小木湊へ渡海同十日新町村に止宿翌十一日相川へ着
- 一 御米藏定番役小山新左衛門引替金宰領いたし十月四日江戸表出立同十四日越後出雲崎へ出津十一月九日小木湊へ渡海同十日河原田町に止宿同十一日相川へ着江戸詰地方掛藤村小次郎無宿拾人并調合藥等宰領十月十九日江戸表出立同廿八日越後寺泊湊へ出津十一月九日赤泊湊え渡海之積りに候處風筋合かね小木湊へ渡海に付同十日陸通赤泊え相廻り同十一日新町村に止宿同十二日相川着
- 一 一國百姓共騷立候一件に携候畑本郷與次兵衛逃去行衛不相知處今般召捕候に付評定所一座掛え差立候に付使役五十嵐半右衛門町同心野澤甫助三國佑次郎宰領して十一月廿日出立
- 一 御金藏定番役庭谷多三郎地方掛金光嘉右衛門引替金爲宰領江戸表へ出府十二月十二日申渡
- 一 十一月六日有栖川宮御息女精宮御方御養女被仰出精姫様と奉稱右大將様御妹之御續に候旨十一月六日附御奉書同十三日到來
- 一 大概帳と宗門帳と文政之頃より國中人數引違候處宗門帳へは三歳以下之もの除來候に付卯年より爲

書出事實之通取調候様十一月沙汰に及ぶ

一 山之神教壽院へ文政十一子年より御宮御靈屋御掃除料として一ヶ年錢七拾貫文宛并別當料として文政九戌年より地拂米三拾五石ツ、買請申付候處外に手當筋も有之口々多端に付引上以來是迄買受候御拂米拾五石之外猶拾五石増買請申付ル

一 中尾間歩之儀當秋以來景氣立直り此節代銀相進大工當り等も追々相進吹味^吟行届候趣に付青盤外三ヶ間歩同様舊來拜借鏈代を以返納致來候分一圓弃捐いたしかなこ前鏈代之儀も此後外間歩同様可相渡旨十一月中申渡

一 銀山勝場師事師共病難に付救之義願出候節當人死失之上厄介之者へ救申立候例無之然處其職分三十年以上其場所へ立入出精相勵頭立候ものに候は、病中月數少救不遣内に病死致し候は、年來之働方次第に寄凡例三貫文より五貫文迄死後にも厄介之ものへ救遣事に極ル

一 去丑年分御年貢米之内當寅年大坂御廻米壹萬百七拾石内^{三千三百石 大石}_{六千八百七拾石 夷湊}

一 組頭福田勝平儀御藏納中四ヶ月之内壹人に而骨折相勵候に付爲御手當銀五枚被下候旨達ス^{一本働農}

一 今度於江戸表御府内え立廻候無賴之無宿共召捕出所之支配領主地頭へ引渡夫々歸郷勸農之御世話有之候一体當國之もの猥に他國出不相成儀は古來より之掟にて銘々辨へ可罷在處或は神社佛閣參詣亦是湯治療養等之儀申立出判願受他國出致候類追年相増右之内には内實江戸京大坂等繁花之場所見物致シ無益之金錢遣捨終には欠落いたし候次第にも到り且期月通り立歸り候而も自然繁花之土地柄を見真似國風を損し候基に有之其外奉公稼之申立を以他國出いたし候類とも向後堅く令停止候勿論病者等療養

之ため他國出相願候ものは以後奉行所詰醫師へ申付病体爲見極實に無餘義相聞候分は願之通申付候儀も可有之其餘松前稼又は國中商人共商用に付他國出致候類は無據筋に付是迄之通たるへき事に候得共無謂月數等多に願候儀は決而致し間敷旨十一月中國中へ相觸る

一 御雇町同心廣田兵作儀年來出精相勤候に付町同心へ新規御抱入申付御切米貳拾俵貳人扶持被下候儀真田信濃守殿へ申上之上十一月晦日書付を以廣間役申渡

一 十一月廿九日於書院素讀吟味いたす

一 後藤三右衛門年寄役并改役迄年頭八朔五節句之禮其外御用向にて罷出候節熨斗目白帷子着用可致旨申越候趣十一月中届出ル

一 古金銀之儀丑年停止相成候に付引替頃合之義當九月中御勘定奉行え問合候處いつに而も差支無之趣挨拶有之候に付御役所御入用之内古金銀六千八百八拾貳兩壹分并市中同斷七千八百八拾貳兩壹分三朱共御金藏定番役助庭谷八右衛門地方掛金光嘉右衛門宰領十二月九日差立同廿四日小木湊出帆道中御證文水野越前守殿

一 浦方詰役人共之義一統出精いたし取締行届候に付爲手當定番役え一ヶ月錢壹貫五百文番所役浦目付役へ壹貫文宛被下候段先達而久須美佐渡守在勤中申渡置候處右は手限之取計に而此上出廉も無之候に付來卯正月より不被下候間可得其意候尤是迄御手當薄に而難儀之よし粗相聞無餘儀次第に付得と勘辨之上追而可及沙汰品も可有之候條彌以取締向嚴重に取計出精可相勤旨十二月中書付を以申渡

一 例年大坂御廻米積渡出役之義是迄年々正月十一日申渡來候處明年之儀は初春之内積請度旨申立に付

當暮廣間役其外御藏方地方共出役申渡尤廣間役召連候町同心も夫々申渡さする

一 壹町目裏町志の外百九拾五人困窮難儀之趣相聞に付爲救夫々米を爲取

一 當寅年家數人別増減書付十二月中差立

高十三萬貳千五百四拾八石八斗五升貳合

家數貳萬千貳軒

内拾軒

去丑年に増

男五萬千三百五拾七人

内三拾八人

去丑年に増

女五萬五百五拾壹人

内百拾七人

去丑年に減

牛六千貳百疋

外三百五拾七疋

去丑年に減

馬四百拾九疋

外六拾疋

去丑年に減

外

高九拾石五斗

御朱印領

寺一ヶ寺

家數七拾壹軒

無増減

男貳百貳拾貳人

内拾三人

去丑年に増

女貳百五人

内五人

去丑年に増

佐渡年代記卷之二十終

佐渡年代記 卷之二十一

天保十四 癸卯年

一 佐渡奉行儀國中爲取締已來壹人役當地在住に被仰付候間萬事之儀格別行届候様可致尤當夏御暇被下に而可有之旨大屋圖書え申渡候間得其意中野又兵衛は當夏圖書着之上交代可有參府且又右之通相成候に付而は當地御役宅手狭に而差支も可有之哉其段早々取調可被申越旨亥十二月廿六日附御奉書正月六日到來

一 右に付御役宅有來之儘に而は差支候に付住居向模様替建足并土藏物置并戸其外家來共居小屋御普請御入用積御林木千百九拾九本此尺ハ六百貳本三分三厘末木拾五本米貳拾六石貳合錢貳千八百七拾八貫八拾九文相掛御下知之上取掛可申候得共交代時節差掛り殊に渡海場に付日和都合に寄差支候間仕越に取掛候旨書面二月十六日に水野越前守殿え進達之處仕立中厚考辨差略仕御入用相減候様可取計旨御差圖有之

一 組頭福田勝平廣間役露木兵助同助藏田太中并其外役々右御普請掛申渡其段御届申上ル

一 内外海府非常御圍米保方之ため正米圍相止糶圍に取計候積りを以是迄之藏所建替并相川御藏御圍糶

詰替高之外正米半納之分糶納に申付郷中河原田竹田潟上三ヶ村え藏所取立已來年々糶圍ひ去七月中伺之上御下知相濟支配之者差遣場所の様子爲取調候處河原田は差支無之竹田潟上は藏所可取立空地高低有之に付見合大石村え壹ヶ所城腰下久知兩村入會地に空地有之何れも作物可生立地味に無之人家離火災取締并海陸運送辨利宜村々差支無之旨申立右場所え取立候得は一郡壹ヶ所宛御圍に相成非常之節辨利宜右之通取計其餘内外海府非常御備糶御圍藏も是迄之場所手狭に付場所見分之上右ヶ所に御普請取調罷在候内追々荒繁に相成候間當春雪消次第取掛候積尤去年分御圍糶は前書場所之最寄宜郷藏え詰立藏所出來次第引移候様可仕旨申上書面正月九日水野越前守殿え進達

一 近來無宿并野非人共御府内徘徊致不屈之及所業候類不少依而今般御府内立廻り候分町奉行に而召捕方御書付を以被仰渡候處佐州之義良民害に可相成惡黨共は召捕追込水替ト唱銀山圍内小屋場え入置敷内水替業爲致常々教諭右之内心底相改候者は追々歸農爲致來此後國中立廻り候無宿有之歟又は當國出生之者無宿になり御府内徘徊被召捕其筋より引渡候は、右小屋え入置水替其外銀山向働方爲致心底直候者は歸農申付候様右類多人數に相成差支候は、別段寄場取立方相伺候様申上書面前同日御同人え進達御勘定奉行えも達置

一 泰姬君様御不豫之處御養生不被爲叶正月四日被遊御逝去候に付同日より同十日迄鳴物停止普請は不苦段同五日附御奉書同十一日到來に付同十二日より十八日迄鳴物停止普請は不苦旨を觸ル

一 佐竹右京大夫領分羽州秋田より大坂廻米并銅爲積受差下候藝州作平船沖船頭丈五郎外五人乘羽州秋田え運賃荷積入去寅七月十五日澤崎村沖合に於て及破船一件浦手形相渡同八月中出帆爲致候處其節世

話相成候由を以小木番所定番役同番所役深浦目付役并小木番所問屋深浦澤崎兩村々役人其外澤崎村之者共え贈物差越候に付受納爲仕可申哉之段正月十四日眞田信濃守殿え伺書進達之處即日伺之通受納爲仕可申旨御差圖有之

一 文恭院様御三回忌に付正月廿九日晦日兩日御法事教壽院勤ル

一 下新穂村又右衛門父又五郎外壹人九十五歳に相成候に付老養扶持壹人扶持宛柴町三平母さん外六人九十歳に相成候に付鳥目を爲取

一 鹽屋町重助外壹人孝心奇特之趣相聞ルに付鳥目を爲取及褒賞

一 諸勘定吟味方役二人御武器掛定役二人同並役二人辰巳口番所定番役壹人御金藏定番役壹人同助貳人金銀改定役勤方壹人御用炭掛定役壹人同並役三人下戸番所定番役二人床屋定番役壹人同助壹人銀山方定役壹人定勘定役助三人書役貳人水替掛壹人山方役所並役壹人海府材木町下戸番所役八人銀山番所役貳人は迄臨時御用扶持又は手限取計を以相渡候處今般伺之上役金役扶持共御藏々より相渡候旨正月廿九日書付を以申渡

一 清次間歩油番壹人荷之番壹人外並之通給米給錢御藏請取之積り可相心得旨右同斷

一 赤泊村無宿幸吉去寅二月中小木湊御船道具置場に有之候芋綱壹房盜取候一件堀田備中守殿え伺之上二月十一日死罪右品買取候越後柏崎次郎右衛門船沖船頭萬七水主清藏右品取上代金損失御差圖有之候間柏崎松平和之進御預り役所に而申渡請證文取之可差越旨申遣す銀山町助作方に罷在候入墨勇藏去寅四月中敷内より逃去在中に而盜致候一件堀田備中守殿え伺之上前同日死罪申渡

- 一 文恭院様三回御忌御法事東叡山に於て正月廿六日より御執行之御事候段同日附御奉書二月十七日到來
- 一 井上河内守殿御事病氣に付願之通御役被遊御免候旨正月廿九日被仰出候段同晦日附御奉書前同日到來
- 一 文恭院様三回御忌御法事於東叡山首尾能御執行正月晦日公方様御參詣二月二日右大將様被遊御參詣萬端御作法無殘所相濟誠以恐悅之御事泰明院様御忌日正月四日之處思召有之三日之御日取に被仰出候段正月晦日二月三日兩日附御奉書前同日到來
- 一 相川濱手並浦方番所問屋今般諸商人株式問屋組合仲間停止被仰出以來問屋之銘目相止番所下遣と相改尤是迄諸品役錢掛り有無に不拘場錢受取候處以來役錢掛り之分は是迄之通相心得役錢免除之分は場錢請取申間敷候其外切手錢と唱旅人商人船手より受取之儀差留諸廻船積來候商物以來直買致候儀勝手次第可致通役其外役錢之内是迄之半減又は皆免除申付右之通夫々役錢差免候上は諸色直段引下ヶ之爲申付候事にて素より改方相弛候筋に無之此上共嚴重可相勤旨相川濱手番所浦方番所え二月晦日書付を以申渡
- 一 最樹院様十七回御忌御法事東叡山に於て從二月十六日御執行之御事候段同十七日附御奉書同晦日到來
- 一 最樹院様十七回御忌御法事於東叡山首尾能御執行二月廿日公方様被遊御參詣萬端御作法無殘所相濟誠以恐悅之御事候段同廿二日附前同斷

- 一 唐物拔荷之儀先年より度々相觸候處近來いつとなく相弛追々不正之唐物取引致者有之哉既に去ル成年越後新潟に而拔荷物取引致候者夫々嚴科被行候處間もなく同港其外北國筋之者共不正もの賣買致候趣相聞不届に付今般吟味之上夫々御仕置申付右取締筋之儀是迄迎も銘々無油斷遂穿鑿候は勿論に候得共文化二巳年拔荷取締方相觸置候後年數相立自然其支配筋并在町役人共心得方相弛候哉に付右丑年以後追々觸渡趣彌無違失可相守旨御觸書水野越前守殿御渡三月九日到來
- 一 澤根番所扱下高瀬外六ヶ村四十物渡世之者共こふなご油貯之分自國に而望之者無之他國出相願候處去寅年國中大漁魚油多く有之可成丈ヶ自國に而爲賣捌相川商人え申付爲及對談候處損油に而望無之他國出相成候而も差支無之直段は此節小賣壹升貳百文之内六文相減當八月迄賣出し可申趣に付願高賣買可致分引之殘他國出申付ル
- 一 享和度差出候支配向由緒書其後同三亥年正月より去寅十二月迄事跡調繼之義堀田攝津守殿え被仰渡候旨二月中御目付より達に付目付役兩人右調方取扱申渡追々出來之分貳百五拾冊其後兩度に御目付え相達
- 一 本途勝場買石並八十吉外壹人義同所壹番勝場石扣とも不正之取計致すを差押其段掛り役人え申立一段之事に付爲褒賞鳥目五貫文つゝ爲取
- 一 日光山就御參詣赦被仰付候間享保安永度之格に而可被書出候尤從日光還御以後當五月中書付可被出旨二月廿二日附御奉書同晦日到來
- 一 當四月日光御參詣に付御留守中當國爲取締湊々浦々番所役之外目付役並地方掛之内増詰申付他國出

之者并廻船等迄御用之外は他國出差留出御前夜より還御御當日迄町々火之元別而入念自身番いたし町同心晝夜とも見廻り可申在々も家込之場所は相川町々に準其外村々は村役人共晝夜村中相廻り浦々え廻船入津之節平日逆も相改候得共猶又遂吟味囁掛爲致他國稼之者致歸國候は、平常之通可相心得四月朔日より同十一日迄は一切他國出不相成四月十二日夕より同廿一日迄在町共大火焚候事致間敷町々晝夜共町方掛廣間役町同心召連れ相廻り目付役繁々可相廻不時に使役も見廻り可申旨三月十七日書付を以て申渡在町え觸出ス

一 日光御參詣御留守中爲取締小木え目付役頭取近藤庄平町同心兩人夷港え目付役山西篤之進町同心兩人澤根え御武器掛定役小崎六左衛門使役一人水津え定勘定役助藤木定之進松ヶ崎え筋金所役藤木門左衛門赤泊え地方掛助矢ヶ崎與十郎海府口え地方掛藤村小四郎三月十九日出役申渡

一 村々凶年手當助合穀百姓持高に割合六ヶ年爲積立米に直し四千石程之高辻村々え爲圍年々新穀に詰替凶作又は類焼に而夫食相願候得は貸渡年割爲詰戻候様天明四辰年伺之上六ヶ年に割合米に直四千石程爲積立候處去寅年國中田畑充分之作柄百姓共作徳有餘有之趣に付増圍申聞候處承仕米八拾石餘并糶雜穀米に直千四百石餘新規増圍いたし候間猶此上年柄見計追々増圍申付候様可仕旨三月十二日水野越前守殿え申上置

一 金銀山水替賃之儀文政六未年伺之上米錢半々之御斷に相成候處右米相川御藏に而請取不申在々辨利宜村々御物成米御藏え可納分引殘水替御入用渡に取計御藏えは御年貢納迄差繼差略之取計相成居候間當卯年より以來水替御入用米之分年々御物成米之内村々置米にいたし地方御勘定元拂に立錢は是迄之

通御金藏より受取夫々遣拂候様仕度旨伺書三月晦日水野越前守殿え進達之處伺之通御差圖有之

一 相川町之義元來高請之地所に付屋敷切畝歩讓引は不相成筋に有之候處文政度一事差支之品相聞間口貳間以上は相對次第切畝歩讓渡可致旨其砌相觸候處素々差略之取計にて今般諸向御改革に付而は是迄之儘難差置候間以來檢地帳之面一筆限を以て讓引切畝歩は決而致間敷尤右觸渡以來是迄切畝歩に取計候分も此後追々古復致候様心掛町役人共無油斷世話可致旨三月廿五日書付を以申渡

一 御代官小笠原信助支配所越後蒲原郡下倉村市嶋次郎吉儀同國御廻米船差配申付有之於彼地新規廻船造立候積之處檜木同町に少々候間當國に而相調度趣右御用出役御勘定高橋平作其外え申立平作より書狀相添下代常吉願書差出候處木品他國出國禁に付難及沙汰旨願書下ヶ遣ス

一 御役所に而追々取立候文政度文字金銀草字貳分判貳朱銀壹朱銀并市郷より取集候古金銀金座に於て通用金に引替候分口々合金壹萬四千七百四拾三兩貳分銀六匁七分五厘之内市郷引替元として去寅年御下ヶ有之候三千兩之分返納殘壹萬千七百四拾參兩貳分銀六匁七分五厘外荒銅代直増手當共金八百六拾貳匁銀拾六匁貳分壹厘五毛江戶表より御差下庭谷八右衛門金光十兵衛才領して二月廿九日江戶表出立信州路三月九日越後出雲崎え出津同廿八日小木港へ渡海廿九日新町村泊翌晦日相川着道中傳馬御證文土井大炊頭殿

一 御役所詰醫師肝煎本多勇節猪坂玄亨醫業出精に付諸出禮四疊目え可罷出旨申渡

一 坂下町久兵衛去ル戌年以來山之神教壽院境内重キ御場所え度々忍入唐銅眞鍮御道具并其外品々盜取候内銅類は三町目所左衛門え賣拂候一件土井大炊殿え伺之上久兵衛は引廻之上獄門所左衛門は死罪其

餘一件に携候者共落着四月二日申渡

一 御役所向取締方可相伺旨去々丑八月中御書付ヲ以て被仰渡爲取調去寅五月中相伺候處伺之通被仰渡流弊に而諸役所勘定合紛亂差略筋不少調分ケ出來兼候處連々取調主法相立候に付掛り之者御褒美願水野越前守殿え進達廣間役露木兵助石井三郎右衛門同助藤田太仲え銀三枚宛定役三人^{諸勘定吟味方役永井庫之助山方役藏田友太夫}銀貳枚宛御褒美被下候旨水野越前守殿御書付御渡四月七日到來元組頭山本新十郎江戸表に而銀七枚頂戴

一 元御米藏定番役佐野勝右衛門儀御米藏納拂之度々流弊之取計有之次第申立猶取締存付之趣申立元金銀改定役小宮山彌八郎是迄之鍾石粉成手順相流御不益廉々申立候ニ付御褒美願前同斷之處銀貳枚宛御褒美被下候旨御同人御書付御渡前日到來

一 諸國人別改方之義此度被仰出候に付自今在方之者身上相仕舞江戸人別に入り候義決而不相成候間領分知行所役場に罷在候家來より精々勸農之義申諭成丈ケ人別不減様取計且職分に付當分出稼之者並奉公稼に出府いたし候者は村役人共連印願書爲差出願之趣承届候旨右役場に相詰候家來與書印形之上相渡小高之分知行所に家來不差置遠國にて當地へ願等手重之向は割元役之もの與書印形いたし候積り其外出家致し候者無由緒弟子之望有とはいへとも猥に不可令出家若無據子細有之は其所之領主代官え相斷可任其意旨寛文五年諸宗へ御條目を以被仰渡候處近年糺方等閑之向有之哉に相聞以來出家願候者は人柄并子細領主地頭に而得と吟味之上寺社奉行え申斷聞置之挨拶有之上に而可差免并廻國修業六十六部順禮に罷出候ものも前書出稼之もの同様に取計尤出家願仕來に而添簡いたし候向は其通に可致諸藩

中無據子細に而出家いたし候分は是又寺社奉行へ可相斷且吉田白川陰陽師神事舞太夫等より許狀申請候者も其度々添簡又は前同様願書與書いたし可被相渡并近年御府内え入込候妻子も無之裏店借請候者之内には一期住同様之者可有之左様之類呼戻し在方人別不相減様取計可申旨御觸書三月廿八日水野越前守殿御渡四月七日到來

一 板町彌八養父之變死を内證に而葬候一件眞田信濃守殿へ伺之上四月九日彌八存命に候得は死罪可申付處牢死同人女房こん遠嶋其外に携候者共御仕置落着申渡同十四日囚人差立江戸表迄宰領使役壹人町同心兩人遣ス

但御仕置申渡町奉行え引渡に相成候者御老中方宿次御證文に而罷越候處女之義是迄差出候例無之自然江戸表え差出候節矢張右御證文計に而御關所無差支哉又は斷申請候哉三月中御留守居え問合候處江戸表より關所を出候婦人之手形差支候へ共入女は取扱無之旨挨拶有之

一 備後國御調郡向嶋東村之内矢立谷百姓留藏弟嘉助船羽州村々去ル亥御年貢江戸御廻米本欠合六百四十八石餘積入同年七月中小木湊え入津圍船翌五月出航之處右滯船中積入米之内八拾五俵小木町由藏其外之者買取候一件去寅年中大坂町奉行掛りに而吟味相成候旨掛合有之候由藏外拾三人當地に而吟味を遂ケ口書申付差遣候處御仕置眞田信濃守殿へ伺之通り當三月中御下知相濟候旨大坂町奉行より相達に付五月九日申渡

一 右に付御金藏定番役橋本權平地方掛本間十次郎野浦々目付役内田惣右衛門義は先役中小木番所役内藤勘左衛門一同喜助船小木湊え滯津中御米密揚ケいたし賣拂候を不存其上船中出役之節改方不行届不

埒に付權平勘左衛門は日數五十日十次郎惣右衛門は日數三十日押込可申付旨御書付三月中眞田信濃守殿御渡到來に付四月九日申渡且惣右衛門勘左衛門在詰に付歸村之上爲慎置

一 日光御參詣中濱手三番所勤方並海府下戸兩番所暮六ツ時小門へ切候旨其外御役宅普請場火之元爲取締並役并使役込壹人宛四月十二日より同廿一日迄御普請方へ加番繁々見廻り勝場仕事師共朝五ツ時入夕七ツ時仕舞候取極之處火之元爲念早朝入爲致仕廻刻限引上候旨其役々より届ル

一 四月十三日公方様日光山爲御參詣江戸表被遊御發興候誠以恐悅之御事候段同日附御奉書同廿日到來
一 橋本權平外三人押込并寺院逼塞市郷之者敷内追込手鎖押込等申付候者共此度日光御參詣に付日數不相立候得共四月十一日差免候様可致旨評定所一座に而伺相濟可相達旨水野越前守殿御差圖有之候旨一座より達書同廿日到來に付即日差免候旨申渡

一 小木町村傳左衛門外二人孝心奇特之趣相聞ルに付四月廿三日鳥目を爲取及褒賞

一 公方様四月十三日江戸出御御道中益々御勇健被成御座同十六日至日光山御着座同十七日御祭禮首尾能相濟其以後御宮御靈屋御參詣萬端御作法等無殘所御機嫌不大形誠以目出度御事不可過之候且又同十八日日光山出御可被遊還御之由に候段同十九日附御奉書同廿六日到來

一 中尾間歩敷内盛太郎敷樋場仕立替并盛助盛平兩敷大西と唱候古敷稼人共見込有之趣に而穿鑿懇望致し罷在候に付取明之義御入用積り四千八百七拾八貫五百四拾七文相懸り金銀山穿鑿御入用之内を以て仕拂別段御出方之義不申上候へ共廉立候御入用高に付申上書面四月廿三日水野越前守殿へ進達

一 四月廿一日公方様從日光山還御御機嫌不斜候誠以恐悅之段同日附御奉書五月五日到來

一 朱並朱墨共朱座之外江戸京大坂奈良堺仲買之者申付掛札爲致朱店並仲買共より勝手次第買受候様寛政度相觸置候處此度右仲買之者差止候間以來先前之通座方より直に買請候様尤朱は朱座包之儘正路之直段を以て小賣致し候儀且職人遣殘も右包之儘同職え讓渡は不苦若出所紛敷品賣買致し候趣相聞ルに於ては吟味之上急度答可申付旨御觸書水野越前守殿御渡五月五日到來

一 無宿並惡黨共關東筋在々多く徘徊致し山寄村々にては白晝も亂妨に及村々難儀之趣相聞關東取締出役へ召捕爲致候處右風聞に而惡黨共關外へ逃入候由銘々遂穿鑿捕方手配は勿論に候處他之引合有之分差出方手數相掛ルに付自然忽に致し置候向有之哉に相聞右は關東最寄國々に不限無宿惡黨共猥に徘徊致し候而は百姓共及難儀其上不宜義押移良民害に相成國々一般に可被遂穿鑿品に寄最寄奉行所組與力同心又は御代官手附手代等踏込召捕候儀可有之間領主地頭にても遂穿鑿召捕候様可致萬石以上以下とも自分仕置難相成他之引合有之分は是迄之通り奉行所吟味之儀被申立候事に候得共彼是手數可相掛に付此節限他の引合有之とも別段被申聞に不及關外は最寄奉行所又は御代官え引渡關内は關東取締出役手附手代又は最寄御代官へ引渡候歟或は其品に寄寺社領は月番寺社奉行其餘は公事方御勘定奉行へ村役人召連訴出候而も不苦旨御觸書水野越前守殿評定所一座え御渡之由一座より達書前同日到來

一 五月十三日諸役人武術同十六日諸役人子供等之素讀を試む

一 同十四日諸役人丁打足並見分の處何れも常々心掛宜拜見一段の事に付歸府之上御老中方へ委細可申上旨書付を以て申渡

一 御鐵砲方山西篤之進へ御扶持方三人扶持同見習伊澤勝之助へ同二人扶持砲術出精世話方行届一段之

事に付以後被下旨五月十五日申渡

一本町方

一 町中は勿論國々在町共家作之義度々相觸候處相弛みなけし板戸附書院入側附に紛敷家作致しくし形彫もの床縁さんかまちを塗り金銀之唐紙相用門立關様のもの取建或は外見質素に而も都而工手間相掛候茶席同様好事之普請有之趣相聞奢修僭上不埒之至り假令先代取建候共品々家作相改其外別莊補理手廣不相應之家作有之由相聞候間當六月限質素之家作に相改町人共家作手廣に候共花麗奢侈に無之物好之義無之分は取毀申付候に不及町家に不似合不相應之家作は不殘爲引直可申右月を越等閑に捨置者有之は見分差遣吟味之上嚴重答可申付並百姓家にて餘業致候者は勿論農家一通りに而も身分不相應家作花麗奢侈身分不相應に無之共物好之家作は耕作怠慢之萌を生し風俗頹敗之基にも相成候間農家並に家作相改農家之家作にて手廣に候共花麗に無之物好之義無之分は取毀申付るに不及尤農家之家作に引違有之は追而普請修復之節に古代之家作に引直可申且百姓家不相應之家作引直可申付分江戸町中並國々在町に準急速可引直は勿論に候得共耕作一本時節々差向難儀可致間農事隙明を考當十二月迄に引直可申右月を越等閑に相心得候者有之は嚴重答可申付旨御觸書水野越前守殿御渡五月十五日到來

一 奥州會津熊膽商人喜兵衛外壹人揚之義是迄之通り近國賣藥商人多人數年々渡海在々立廻如何之義有之趣相聞以來揚差留熊膽は素より當地に無之候間右商人は爲改揚其餘調藥類は船場にて差留に成る

一 生魚他國出文化二丑年差免處不締之向相聞去ル成年より他國出は勿論地廻りと唱船に而浦々積廻候儀不相成旨申渡候處差支之儀有之趣に付以來地廻りは差免候積申渡

一 廉伏村字春日崎並鷺崎村字彈野遠見張番所文化五辰年伺之上新規御普請之處風烈敷場所故大破に及

ひ當時跡形無之様相成今般新規御普請御入用積百六拾六貫四拾文相掛申上書面五月九日土井大炊頭殿え進達之處同廿四日伺之通被仰渡

一 金銀山御入用中割鐵當卯年御買上之積を以て去ル冬請負之者入札觸致し候得共望人無之に付是迄の請負相川町善平相糺候處近年仕入元直段引上り多分之内損相立直増願出壹貫目に付四百六拾文代金五分通米に而請取度旨申立候得共米渡取計方無之一体相場高直に相成請負人申口自然利慾筋可有之哉に付去冬支配廣間役より松平出羽守家來え近來之相場聞合せ彼地にて請負之者無之哉糺方爲掛合候處去春以來相場立不申近年之相場取調請負人無之旨返書差越追々高價相成候は無相違飛脚之者より安き鐵問屋え相對買及談判候處中割鐵三拾貫目に付代銀百拾匁に可賣渡旨約定書持歸積廻並陸揚賃とも見込壹貫目に付四百四拾文程に相當前書義平申立より下直品合宜趣に相聞試旁當卯年右中割鐵先つ五千貫目御買上に取計地廻船雇立代金繰替船頭へ相渡雲州え積船差向當地着之上直段取極支配組頭より御勘定所え可相伺候得共御直仕入にいたし萬一海上異變有之節は御失墜之儀相伺候外無之趣五月中御勘定奉行え達置

一 大屋圖書四月朔日御暇に而五月十三日家族召連江戸表出立信州路旅行同廿四日越後出雲崎え出津同廿六日小木港へ渡海同廿七日新町村に止宿翌廿八日相川御役所え着中野又兵衛交代して同晦日相川出立小木港え出津六月朔日越後出雲崎へ渡海信濃路旅行

但大屋圖書渡海之節目付役山下仕兵衛出雲崎迄出役申渡

一 市郷之者所持致居候古金銀引替元金相川引替川島藤七外一人え相渡追々引替爲致ル

一 五月廿三日末姫様被遊御平産女子出生彌御安泰被成御産御機嫌不斜誠以目出度御儀に候六月十一日申來

一 去寅六月以來御勘定奉行より水野越前守殿え伺之上御代官御預り所役人別紙之通申渡爲心得御勘定奉行より達書前同日到來左之通

別紙

御城米可積請空船湊え差向候節是迄藍玉鹽砥石三品三分通迄は船足迄に積入差免其餘は積入不相成仕來之處向後積湊最寄え運送之分は歩合に不拘何品に而も勝手次第荷積差免候然るに於ては賣荷等積立候分は若及難破船候共運賃之内御失墜には不相成全く空船又は前書三品三分通迄積入候分は是迄之通り歩合を以て御失墜之積取計勿論所々湊々に於て賣買等いたし居候儀は難相成候

一 御城米積船之義向後賣荷積合勝手次第可爲候然と雖所々湊々に於て賣買いたし居候儀は是又難相成候間右之趣船頭え申渡證文取之積合之分は送狀外書に記出帆可被申付候

一 遠州灘乗通し候分は是迄五百石以上之廻船而已相用候得とも以後東海道邊より濃勢州迄之御廻米は五百石以下廻船え積立候義勝手次第可爲候

右之通相心得船中條目は是迄之通相渡不取締之義無之様入念可被取計候

寅 十二月

一 桑山愛之助御藏方御勘定仕上相濟無宿五人宰領六月二日江戸表出立奥州會津通同十四日越後新潟え出津同十七日夷湊え渡海翌十八日相川着道中傳馬御證文堀田備中守殿

一 組頭福田勝平江戸表え罷越候様可申渡妻子召連引拂可申旨御書付六月十三日土井大炊頭殿御渡同廿三日到來七月四日相川出立小木湊え出津同六日越後出雲崎え渡海奥州會津通旅行

一 六月十二日水野越前守殿御渡御觸書前同日到來左之通

一 世上金銀貸借利足之儀金貳拾五兩に付壹歩之割合を以取引可致旨去ル寅九月中相觸候に付而は双方共不實之義無之様可致は勿論に候處借方之者共兎角等閑に相心得濟方不抄取金主共も利益薄きを厭ひ融通不宣趣相聞候依之於奉行所吟味之上裁許申付候分向後切金には不申付日限を以濟方申付埒不明においては身躰限金主え爲相渡候間金主共彌無懸念十分に取引可致は勿論借方においても其旨相心得等閑之儀無之様實意に濟方可致候

一 寛政九巳年以來之借金銀は是迄之通取上裁許可申付候得共年古キ借貸に而追々利足を元金に詰新キ借用又は預り金等之證文に直し候類吟味之上無紛におゐては素々不實之取引に付向後相對濟申付於奉行所取扱致間敷事

一 賣掛ヶ之義十ヶ年以上之滯は向後相對濟申付是又奉行所に而取扱致間敷事
但十ヶ年以上之滯に而も引續致取引候分は吟味之上取上裁許可申付候

一 遊女町傾城町より願出候遊女揚代金滯之義向後相對に可濟は格別奉行所に而取上申間敷事
右之通相心得彌世上金銀融通無差支様取計借方之者は勿論於貸方も相互に實意を専らに心掛取引可致候且以來身躰限爲相渡候付而は先訴之分取上日限申付置候内同様之後訴有之候共金銀出入に限先訴相濟候上に無之候而は取上裁許は申付間敷條其旨可相心得候尤右に付身躰を隠シ或は如何

敷所業に及び候者其外利欲に拘り不埒成出訴之類有之におゐては當人は不及申其所之町役人村役人等迄吟味之上嚴重咎可申付候且又武家寺社等は是迄之通裁許可申付候得共兎角濟方等閑勝或は申渡之金高不足に差出候輩も有之由相聞候尤不埒之事に候向後右体之類有之においては糺之上急度可及沙汰候

右之通可被相觸候

五月

一 諸寺院借金銀先住死失又は御仕置跡宗掟之趣兼而之申立に候得共今般御改革御趣意有之以來借金銀取捌方宗掟に不拘吟味之上事實次第於奉行所裁許申付候間其段可相心得候評定所一座伺之上諸宗觸頭え申渡候旨六月中寺社奉行より達有之

一 去寅年分山出灰吹銀百八拾三貫四百七拾目御傳馬宿入用金三拾八兩貳朱銀壹匁七分三厘三毛古金銀并壹朱銀其外細工銀共三千百五拾五兩三朱外勿捨金銀九拾貳兩壹分壹朱銀細工物貳百五匁五分小宮山

此金直壹萬八千三百六兩壹分永百五拾三文六分

彌八郎細野太十郎小山富太郎才領六月廿八日出立同廿九日小木湊出帆道中傳馬御證文水野越前守殿燒金拾貫五百四拾三匁八分此小判積三千四百八拾九兩永拾三文八分佐州御金藏に積置出方御入用差引九千貳百八兩貳分永貳百拾七文貳分御益に成る江戸詰小宮山彌八郎小山富太郎御勘定仕上ル

一 同年分山出荒銅千七百四拾貳貫六百目此金三百五拾四兩三分永四拾四文九分

一 諸色直段引下り之ため運上役錢減并小役免除當春觸渡候處直段立方區々に相聞今般在町之内重立候者え申渡直段引下ヶ方爲取調候得共未々以前に復候様に到兼猶追々引下ヶ候積を以先ッ御調之趣承置

候間諸商人共商方正路に可致自然不相當之利潤貪候もの於相聞は急度可遂吟味間小前末々迄不洩様可觸知旨六月廿九日書付を以申渡

一 佐州引替金銀去寅十二月中當地差立後御年貢諸運上え相納壹朱銀并市郷より取集候古金銀壹朱銀共金銀座に而通用金に引替候分口々合三千百五拾五兩三朱有之去年分山出金銀一同支配之者才領差立候積右之内貳朱銀壹朱銀三分壹分銀に而相渡候而は常是役人詰會不申市郷より御年貢其外運上取立候節御金藏納差支小判貳朱金之内に而引替右諸入用之分皆金に而御渡相成候様六月中水野越前守殿え申上

一 佐渡奉行交代之砌越後出雲崎より小木湊え渡海之節是迄往返共大小早小早御船貳艘之外雇船四艘御入用元御斷有之請取之處今般大屋圖書家族召連家來も妻子一同引越荷物供駕籠相増船引足不申別段三艘雇入渡海仕候間右船賃御入用に相立候様仕度旨御藏斷相添六月中牧野備前守殿え進達之處伺之通被仰渡

一 河崎浦目付所役家沖合見渡は宜候得共船掛囀之方手遠にて諸荷物揚下ヶ改方不行届候間爲取締同村海上見張并囀内見渡宜場所に役家移替明地元地主え相返御取箇附致し此度役家取立候地所は引方相成候旨六月中御勘定奉行え相達

一 御勘定奉行井上備前守佐州御用向江戸取扱被仰付是迄佐渡奉行申上候廉之内同人連名可仕廉長崎表御用取扱之趣に見合都而御入用筋に拘候儀備前守連名申上御仕置筋并地役人身分且市郷取締方等は佐渡奉行一名を以申上候様可仕哉之段備前守より六月中水野越前守殿え伺之通被仰渡候旨達有之

一 中野又兵衛御持筒頭被仰付候旨六月廿三日附御用狀七月二日到來六月十五日之御役替

一 文恭院様御尊牌先前振合之通宮様御震筆に而奉安置旨献備物其外贈物之儀教壽院より寒松院え問合候處上野方にも書留無之趣申越候上は献備には及問敷寒松院は佐渡掛に而諸事世話取扱候趣に付同院え爲挨拶金貳百疋爲贈候積大積入用之内より相拂教壽院え相渡

一 去寅御年貢米之内八千六百貳拾石大坂御廻米に成る内 貳千四百石 大石
六千貳百貳拾石 夷

一 唐和明礬之儀江戸京大坂堺四ヶ所會所に而致賣買候間諸國出明礬之分四ヶ所最寄會所え賣渡可申旨先達而相觸候處右會所之外薩摩も并唐明礬計り引請是又四ヶ所會所相建賣捌候間其旨心得右兩會所之外山方より直賣買一切致問敷旨天明二寅年相觸且伊豫砥も大阪表江戸積問屋に而一手引受賣買致來候處今般明礬會所并伊豫砥江戸積問屋共差止候間向後銘々勝手次第可致賣買旨御觸書水野越前守殿御渡七月朔日到來

一 諸國寺社修復爲助成相對勸化巡行之節自今は寺社奉行一判之印狀持參御領私領寺社領可致巡行候公儀御免之勸化に無之相對次第之事に候間御免勸化に不紛様明和三戌年相觸置候處年曆相立御免勸化は其度々觸有之相對勸化は寺社奉行一判之印狀持參候故不審に存候向も相聞候得共紛敷ものに無之間其段可相心得旨御觸書七月朔日水野越前守殿御渡同廿一日到來

一 下寺町法然寺實道五郎左衛門町廣源寺開俊女犯致し候一件土井大炊頭殿え伺之上七月十八日遠嶋申渡候處同廿日法然寺實道牢死廣源寺開俊同廿五日相川差立江戸表迄才領使役壹人町同心兩人差遣ス

一 陰陽道取行候もの吉田家免許請取扱候様寛政之度江戸表より諸國一統御觸之處近年亂雜に相成或は闇又は數珠占大師四目像杯と唱吉凶判斷致し候類寺社家に而は土御門外之免許請候義之處是又亂雜に

相成當國之義宜取計頼入候旨同家役人より廣間役え書狀差遣陰陽道觸頭鈴木土佐より右之趣申立候内寺社并修驗神子等迄其段觸渡之義申立候得共寺社奉行より達無之而は難取用趣を以土佐差出候書面下ケ遣

一 諸宗本山并都而年始繼目御禮として江戸表え出府登城御禮申上候寺院着服供連等一ヶ寺限爲書出可差越旨案書相添寺社奉行阿部伊勢守より四月中掛合有之處佐州にて出府登城いたし御禮申上候寺院三ヶ寺之内蓮華峯寺は入院御禮として當四月江戸表え罷出後國分寺は當時無住兩寺共院代え相尋仕來之趣爲書出眞光寺之分共三冊七月中相達

一 眞野村眞輪寺義同村并竹田入會字眞野山御林に而松木拾本每暮伐取同寺門松に相用候旨去秋御林改支配之者え申立御役所諸書物取調候得共元濟不相見候間相糺候處右御林往古同寺持山に候處慶長之頃御林に相成右引付を以毎年節松勝手に伐來慶長四卯年山守故障申聞伊丹播磨守勤役之節願出松五門可爲伐取旨願書え裏書いたし相渡候書付差出聊疑敷無之舊例爲止候義難相成此後引付居置候方に可有之自儘に伐採は不取締に付以來寸間極置支配之者差出伐渡御林帳面相減候様別段御勘定所え書付差出置證印可申請置哉乍併聊廉立候義に付相伺可申哉之段古書寫相添六月中御勘定奉行え及問合候處證跡慥に候上は別段伺に及申問敷伐渡之節に御林帳之面減木之積御勘定所え書面差出候は、證印差遣候様可致旨七月中挨拶有之

一 組頭福田勝平七月廿一日御代官被仰付候旨八月朔日申來

一 浪人鉢之者在々多く徘徊いたしねたりヶ間敷義申掛候義に付前々相觸置候趣も有之處近年右党之者

共横行いたし村々及難儀趣相聞右は百姓共心得違聊之合力を與へ爲立退又は止宿領主地頭において畢竟手數厭取締等閑打過候より超過致し候と相聞良民難儀不少品に寄最寄奉行所組與力同心又は御代官手附手代踏込召捕候義も可有之銘々領分知行所限遂穿鑿候は勿論村方に而差押候歟又は立廻り先穿鑿訴出候は速に捕候様可被致候尤他支配他領え逃去候者は文化九申年相觸候通相互に附入召捕且萬石以上以下共自分仕置難相成他之引合有之分先達而無宿惡党共召捕方に付夫々相達候振合を以此節限關外は最寄奉行所又は御代官え引渡關内は關東取締出役手附手代又は最寄御代官陣屋え引渡候歟或は品に寄寺社頭は月番寺社奉行其餘は公事方御勘定奉行え村役人差添召連訴出候共不苦條得其意別紙箇條之通一村限嚴重申渡板札認村々高札場或は村役人宅前え爲掛置可申旨御觸書七月十六日水野越前守殿御渡有之旨公事方御勘定奉行より達書前同日到來

別紙 近年諸國在々浪人跡多く徘徊致し頭分師匠分杯と唱廻場留場と號し銘々私に持場を定百姓家え參り合力を乞少之合力錢遣候得は惡口或は押而止宿を乞又は病氣杯と申逗留之内種々難題申掛金錢ねたり取候趣相聞不届に候以來右浪人跡村方え罷越何様申共不爲致止宿帶刀いたし候ものは一錢之合力も不致自然不法申ものは差押若手に餘候は其所穢多非人に爲差押御領は御代官私領は領主地頭役場え可致注進候

右浪人跡黨を結押歩行候を及見聞候歟又は村方え罷越候節不得差押其所に穢多非人無之場所は立場廻り先等遂穿鑿是又御領は御代官私領は役場え可申立候
右之通可相心得候若相背候者於有之は急度可申付候

七月

一 隱賣女は前々より御制禁之上猶又去寅三月中嚴敷觸出置趣堅く相守可申向後觸面之趣相背女子供抱置賣女爲致候者有之を訴出候は縦合同類たりとも其科を被免御褒美銀貳拾枚可被下且女子呼寄隱賣女に紛敷稼爲致候者其手筋に而相分り候は是又御褒美金可被下間其旨を存町役人共は勿論一同厚心掛少も油斷致間敷若相背候者於有之は召捕嚴重御仕置可申付旨水野越前守殿え伺之上致町觸候旨七月中寺社奉行より達書前同日到來

一 山之神教壽院境内に前々より御宮御靈屋有之右御修復并諸御道具等御役所向御普請御定高之内に而取賄御膳料御香料等御役所御入用之内より相渡り候得共無檀故寺納物無之難行立候に付文政十一子年より御掃除料と唱村高に應郡中より取立年々相納來候處御役所御入用向改革之節前書御掃除料は文政度新規之取極に付皆式相止當時御役所より相納候廉々相束一ヶ年金拾兩餘に相成右之外御拂米等買請候得共代金取立に付敢而所徳に不相成御構内掃除年中餘程之人歩相掛り捨置候而は自然御崇敬に拘り恐入候義之處近年御藏方流弊之廉々相改候に付目欠差引前々に見競米貳百七拾石餘御益相増此後右御益増は連綿いたし候義に付右之内を以當卯年より年々米貳拾石宛爲御手當教壽院へ被下置候様伺書面六月中水野越前守殿へ進達之處七月十九日伺之通被仰渡

一 羽田町藥種屋茂助奇特之趣相聞ルに付鳥目を爲取及褒賞
一 村々百姓共貯穀凶作以來別而増圍度々申渡置候に付而は是迄何程圍穀いたし候哉且當年は稀成豊熟に付何程増圍之心得候哉村毎員數取調爲差出尤申渡之趣厚く相守圍高宣村方へは外村屬之ため賞方可

有之當年は村高百石に米壹石之割を以圍穀いたし候得は千三百石餘圍高に相成以來共作物之様子に寄此上六七ヶ年増圍爲致候得は一廉備に可相成無油斷世話行届候様可致尤當年圍高差支候事實之義も候はゞ是又可申聞旨八月九日書付を以申渡

- 一 小普請方改役木村董平七月廿八日福田勝平跡組頭被仰付御足高是迄之通り被下旨八月十一日申來
- 一 村々助合穀圍場所是迄重立共土藏又は百姓家え振分圍置詰替度々出役封印附置候得共別段圍場取立不申候半而は差支候間右圍場取立之義相糺候處郷藏組合又は一村限藏所取建追々普請に取掛候旨申立候間右取建入用は去ル申年臨時石代外二口間錢有餘金之内より金貳百九拾兩餘相渡追々爲取建
- 一 河崎村曹洞宗晃照寺社奉行より召出に付五ヶ年以前江戸麻布龍穩寺え罷出候處江湖修行之節順席之義夫々取調寺社奉行え關三ヶ寺より窺濟之上請書申付尤當役所えも可届出旨龍穩寺申付候由にて受書寫相添晃照寺より届出ル

一 八月四日水野越前守殿御渡御觸書同廿五日附御奉書九月朔日到來左之通

- 一 嵯峨法輪寺堂社大破に付今度任先規例諸國勸化之論旨被下置之從公儀御銀被下候其上爲勸化諸國巡行すへき筈之處失却多く相掛り年月を経候而は修造之ために不相成難儀之事に付於江戸屋敷々々相廻申度旨相願候依之願之通被仰出候間可被存其趣候
- 一 當表屋敷之分一は法輪寺役僧役人相廻り勸化之儀可申達候其外頭支配有之分は其頭支配え相廻り組中支配之面々并其家來迄も勸化帳相廻候様仕度旨法輪寺申候間寄進之儀可有之候委細は勸化之狀に書載有之候事

- 一 勸化物之事來辰年中迄法輪寺請取候様仕度旨可申事
- 一 萬石以下之面々知行所えは向寄御代官より勸化差廻し奉加も御代官中より取立候筈に候事
- 一 當表諸社觸頭有之分は其觸頭え取集可差遣候事
- 一 御料は御代官私領は領主地頭より取集可相渡候事
- 一 勸化物之儀京都は法輪寺自坊當地は同寺宿寺山王社中圓成院にて請取可申事

七月

一 道中往來諸荷物過貫目之分貫目改所え不掛以前分荷致し小附其外相減或は手人持之由申成本荷物改濟之上途中又は休泊にて右分荷着足過貫目荷物爲繼立候族有之おもむき不埒之事に候右様にては宿助合等令難儀候に付以來は改所に不限外宿に而も過貫目と見受候分は宿役人相改貫目に應増賃錢可受取旨申渡候間御朱印并證文を以繼立候分貫目改方は迄之通居置其餘御用旅行に候共前同様可取計條其節不法無之様家來へ可申付且又宿明荷物何人持本馬輕尻附と其荷品え木札を附差出候様文政度相觸候處近來相弛木札無之荷物往來いたし候由相聞候向後無札之分は決而繼合間敷貫目改所え申渡候其旨可相心得旨御觸書七月廿八日水野越前守殿御渡前同斷

一 日本人之内外國え漂流致候もの手寄次第唐阿蘭陀之内へ請取可連越候其外之國々より連越候共不請取旨此度在留之かひたんえ申渡外國之者共えも爲及通達候右に付向後唐阿蘭陀之外々國之者共若漂流人を連渡候義有之候共決而請取申間敷外國之船何れ之浦々え乗寄候共去寅年相達候通薪水食料等乞候

は、其廉而已用辨いたし遣早々出帆爲致候様取計可申右之外都而去寅年相達置候通り可心得旨御觸書八月六日水野越前守殿御渡同廿二日到來

一 町々男女衣服之義に付而は前々より之觸并去寅十月中相觸候趣も有之候處木綿に而模様等織出手數相掛候品高價に商ひ候もの有之今般吟味之上夫々各申付候右は全他之聞へ而已儉素に致し内實奢侈之風儀不改事と相聞不埒之到に候以後吳服物に不限何品にても右体之品決而賣買致間敷候尤吳服物之義は國々相掛り錦純子縮緬等見紛ひ候木綿其外絹紬之類送越候は、早速可訴出萬一等閑に心得觸面之趣相背者有之におゐては吟味之上急度各可申付右之通町々へ相觸候條京都并上州桐生武州八王子織元を始其外共觸面之趣堅く相守無益に手數相掛ケ巧成品織出申間敷若相背者有之におゐては吟味之上嚴重に各可申付旨御觸書八月廿二日水野越前守殿御渡九月十日到來

一 八月廿二日水野越前守殿御渡御觸書左之通

一 都而百姓町人之忤盲人に候は、檢校仲間之弟子に成夫々之渡世修行政し第一官位心掛候筈に候處近來檢校之弟子不相成琴三味線等針治導引を渡世之種にいたし或は仕官之身と成脇差杯を帶候類盲人多く相成候趣に相聞候以來百姓町人之忤之盲人琴三味線等針治導引を渡世いたし又は武家え被抱候而も市中に住居いたし候者は勿論主人之屋敷内に罷在候共右家藝を以他所をも相稼候者は檢校之支配たるべき事
武家陪臣の忤之盲人にても市中に住居致し琴三味線等針治導引を以渡世いたし候分は是又檢校之支配たるべき事

百姓町人之忤盲人にても琴三味線等針治導引を以渡世に不致親之手前に罷在候而已之もの并武家え被抱主人之屋敷又は主人之在所え引越他所之稼不致分は制外たるべき事

右之通安永五申年相觸候處近來規則相崩猥に帶刀杯いたし候もの有之座中より相制候而も不取用由相聞是又座中取締も追々相弛座法不整之筋も有之候に付此度取締役之者申付諸國末々迄嚴重座法改正致し候筈に候間其段急度相辨心得違無之様可致旨

一 江戸詰之もの旅宿先年は町旅宿に而御用向取調候處体裁も不宣候間天保五年申上本郷附木店御持同心組屋敷地面之内借請旅宿爲仕候得共御用向に而時々地役人罷出候處手狭故無據定詰三人之外は町旅宿に罷在候儀乍少分御入用之内より年々地代金差出無益之御出方に付貳百坪計之地所拜借手輕に假旅宿取建右地役人共差置申度旨七月十二日水野越前守殿え書面進達之處八月廿八日難被及御沙汰向後定詰三人は勿論臨時出府之地役人共奉行屋敷内え差置候様御同人御差圖有之

一 地鹽他國出先には差定候義無之年々出來高に應他國出爲致候處其後拂底高直に付去ル年より他國出差留進而下直に相成候は、猶當分爲試他國出爲致候旨其節申立候處當春以來格別出來増此節より來春新鹽出來まで國用凡積壹萬七千俵餘有餘に相成候に付原黒外三ヶ村願之通五千俵他國出差免候旨九月十一日及沙汰

一 清水季左衛門地方御勘定仕上相濟御引替金小判貳朱金壹分銀三千百五拾壹兩三分貳朱永百八拾七文五分調合藥玉鉛宰領八月晦日江戸表出立信州路通九月十日越後出雲崎え出津同十四日大小早御船に而小木湊え渡海十五日新町村泊翌十六日相川着道中傳馬御證文水野越前守殿

- 一 組頭木村董平家内召連九月十二日江戸表出立三國路通同廿日越後出雲崎え出津同廿二日小木湊え渡海廿三日新町村泊翌廿四日相川着
- 一 川路左衛門尉日光山に在所之辨殿櫻壹株を移し木村董平え託し彌十郎町大願寺境内え植しむ
- 一 御役宅建足御普請當正月七日より取掛八月十日迄出來に付同十一日大屋圖書引移家來共居小屋其外土藏物置九月廿五日までに皆出來に付兩度とも御届申上ル
- 一 大小早御船貳艘造替有之當三月中より取掛廣間役大矢與太夫其外役々掛り申渡九月中皆出來御入用正遣御林木貳拾四本米貳拾八石五斗六升三合貳勺錢七百九拾四貫貳百貳拾文中割鐵貳百九拾六貫六百六匁七分木切レ并古小船御拂代百三拾貫四百文は御藏納に相成ル
- 一 智恩院宮へ諸國門末より御扶翼筋之義に付智恩院方丈より國々淨土宗寺院え使僧相廻し候筋に有之紛敷筋に無之候間兼而被相心得候様水野越前守殿え伺之上相達候旨九月中取扱寺社奉行戸日向守より掛合有之
- 一 當年は殘暑強く九月中夏服用可致且御目見以下并又者等は夏冬之服勝手次第相用不苦旨同十二日御觸書水野越前守殿御渡閏九月朔日到來
- 一 河原田町々年寄瀬下彌兵衛外八人河原田城腰大石御圍糶藏番并下番申渡
- 一 赤泊村三太郎外五人孝心奇特之趣相聞ルに付夫々鳥目を爲取及褒賞
- 一 地役人并御雇之者に到迄奉行家來共小屋え安否等相尋候義は素々有之間敷候得共彌可爲無用無餘儀有之節は用部屋にて可致面談縱令前々より懇意に有之もの音信ケ間敷義勿論に候萬一心得違之者有之

候は、得と相糺可及沙汰旨閏九月十日書付を以申渡

- 一 自在心院宮御病氣御養生不相叶九月廿六日薨去に付鳴物は同日より三日普請は不苦
- 一 右大將様五日十五日之御忌服被爲請候旨同廿七日附御奉書閏九月十日到來に付鳴物は同十一日より十三日迄停止普請不苦旨を觸ル
- 一 閏九月十一日於御前阿部伊勢守殿御事御懇之以上意連判之列被仰付堀田備中守殿閏九月八日御前え被召出加判之列御免溜詰之格被仰付候旨同九月十二日兩日附御奉書同十九日到來
- 一 江戸詰堀口市太夫銀山方御勘定仕上相濟無宿捨人宰領閏九月朔日江戸表出立信州路通同十一日越後出雲崎え出津同十八日小木湊え渡海十九日新町村泊翌廿日相川着道中傳馬御證文水野越前守殿
- 一 買石共目利方丹誠を凝し候上にも増減有之候は無據筋に而不埒之廉は無之に付以來眞實之目利に有之上は増減共咎不及勿論かなこと馴合如何之取計致し候歟或は増減共咎無之様相成候迎職業等閑之次第も相聞候は、速に右犯科を以相當御仕置御咎可申付旨去寅九月中申渡置上は格別出精いたし可相勤處其後去年分鳥越中尾彌十郎三ヶ間歩出鍵夫々吹不足相立當年分え到候而も中尾間歩出鍵吹不足又は彌十郎間歩出鍵當正月以來七月迄之内此節迄出來立候分に而も格別之吹過有之如斯間歩に目利方時々不相當之増減有之候は前書申渡之趣意忘却いたし増減共咎無之廉を以自然心弛等相生し等閑相成候義に可有之候間向後吹仕切毎増減共格別不都合之儀有之候は、夫々糺之上咎可申付間其旨相心得目利方格別入念可相勤旨閏九月廿四日書付を以申渡
- 一 澤根町多三郎外壹人奇特之趣相聞ルに付鳥目を爲取及褒賞

一 水野越前守殿御事御勝手取扱之義に付不行届義有之加判列御免雁之間詰被仰付差扣罷在旨被仰出候段閏九月十三日附御奉書同廿七日到來

一 此度御取箇筋其外之儀に付水野越前守殿御沙汰之趣見分いたし候義其外品々當六月中委細申渡猶又御領所一般御改革之御趣意貫キ候様相心得百姓共始手附手代共えも申諭候義に候得共此度右爲取締御勘定御徒目付其外とも支配所え差遣候に付御趣意末々之者共え諭方不行届百姓之風俗流弊に泥み罷在候而は不相濟何れにも御國恩之難有義共發明致し厚御仁政之御趣意被達候様教諭可致正徳三巳年去寅年御書付寫共相渡候間熟覽百姓之風俗古來に復し町人之商賣に移事を禁し農業出精村入用相省キ御取箇筋正路に吟味請候様百姓小前末々迄申諭手附手代其外家來に到る迄諸事嚴重に取締致し一際精勤可致若御勘定御徒目付其外廻村之節御趣意不行届村々見請候は、及談判候儀可有之旨御目付立會之上御勘定奉行より御代官え申渡御勘定所より江戸詰之者え申渡有之旨申越に付當地に而も村々當田方立毛并荒地起返切添切開場所等爲見分廣間役大矢與太夫原田次郎右衛門始諸勘定吟味方役地方掛頭取地方掛等出役申渡八月廿一日出立國中二手に廻村爲致見分濟之上出役一同九月十六日歸郷取調中御料所御改革取調之義御差止に相成候趣土井大炊頭殿被仰渡廻村罷在候御勘定御徒目付歸村之義申遣候旨御勘定奉行同吟味役より申渡有之候段江戸詰之ものより申越

一 内外海府非常御圍米保方之ため正米圍相止粗圍之積去秋伺之通被仰渡候處右藏所是迄之場所地狹に而差支候間御入用積御林木三百貳拾九本此尺、百貳拾七本九分壹厘末木六拾六本米五石五斗六升三合錢六百四拾七貫六百四拾七文相掛り候積渡海場之義に付御下知不相備仕越に取掛候旨書面九月十七日

水野越前守殿進達之處十月七日伺之通被仰渡

一 下相川村字上平畑地高貳石七斗八升四合此反別四反七畝四分之場所天保二卯年炮術稽古丁打場取立右に付畑方御年貢石代并三掛共是迄御役所御入用之内より納來候得共御改革以來御入用手詰に相成辨納可致廉無之候間當卯年より取米四斗六升三合引方可申付旨御勘定所え相達

一 去々亥年川路三左衛門命せし所之修教館藏板六諭衍義大意數百部出來に付立毛見分之者持參村每壹部宛頒ち與ふ

一 土井大炊頭殿御事御勝手御入用掛可相勤旨被仰出眞田信濃守殿御儀暫之内同様可相勤旨被仰出間部下總守殿閏九月廿一日病氣に付願之通御役被遊御免候旨同廿二日附御奉書十月朔日到來

一 廣間役井口茂十郎病氣に付願之通御暇申渡吉田寛兵衛廣間役え藤木武助同當分助申渡

一 京都嵯峨法輪寺堂社修復之ため諸國勸化江戸表より被仰下同寺使者よりも申越勸化帳差越候間十一月中在町え爲觸出ル

一 文恭院様御尊牌御仕立に相成候に付附切として御普請所定役壹人目付役壹人申渡十一月廿一日より取掛ル細工人壹人塗物師兩人え清服仕立相渡同晦日迄に皆出來に付十二月朔日正遷座有之

一 大浦村字どろへ長壹丈程の鯨流寄村方之者拾ひ取候旨十一月十二日訴出ルに付見分として地方掛出役差遣糴入札に而相拂分一運上取立ル

一 十一月五日附土井大炊頭殿御奉書を以被仰下候御書付左之通

一 御政事之儀御代々之思召は勿論享保寛政之御趣意に不違何事も正路御爲第一に取計被遊御安心候

様可相勤旨一昨年被仰出候然ル處右被仰出之趣を若心取違候面々有之候而は御趣意と齟齬いたし候に付左に申達候

一 諸御役人被申聞候義其事之始末委細之糺も無之被申聞候而は品に寄事實相違いたし候義可有之人之善惡邪正之儀は一言半句之違より生涯之浮沈に拘り不容易義に付其心得を以可被申聞等之處實否をも睨と不辨依怙量負或は姑息讒諛等之類も有之候而は人心危懼を抱き自然御奉公之勵薄く成行可申左候而は御爲を存候には無之以外之事に候御役筋之儀に而も自己之過失に而も過去候義は御取用無之候

一 不依何事見込候筋被申立候には本末之次第を熟慮いたし可被申聞左も無之外向之了簡又は世上之風評杯に隨ひ唯申立さへ候へは宜と心得候は素より有之間敷事に候

一 同役相互に信義を盡シ深切に可致は勿論之儀に候心得違之儀有之候は、少も無遠慮何ヶ度も申談其上に而も不取用候は、其旨可申立段急度相斷候而可被申聞事に候

一 組支配之内勤向又は自己之事に付如何成義有之節一應之異見にも不及被申立候筋は有之間敷事に候頭支配え御任セ被置候事に候得は頭支配に而能々教諭いたし夫に而も不取用候は、可被申聞候

右等之趣得と了簡致し御趣意を心取違ひ無之様相心得組支配之者えも可被申聞置候
右之趣諸役人え相達候間可被得其意候

一 十一月三日於御前牧野備前守殿戸田山城守殿御懇之以上意連判之列被仰付山城守殿御事は右大將様

え被爲附酒井若狹守殿御事御懇之以御誼所司代被仰付候旨同四日附御奉書同十三日到來

一 古金銀眞字貳分判古貳朱銀并文政度文字金銀草字貳分判貳朱銀壹朱銀共通用停止被仰出當卯十月迄引替候様去寅年相觸候處今以引替殘も多分有之に付引替所猶又來辰十月迄是迄之通被差置候旨御觸有之

一 御取締御改革筋之義相弛不申様當度相達置候儀に而右を此程御趣意柄心得違候者も有之哉に相聞候御取締御改正筋之義は最初相達候通彌堅く可相心得事に候旨御觸書土井大炊頭殿御渡十一月四日附御奉書に而同廿九日到來

一 彌十郎間歩之儀去ル成年本途稼相成同間歩雇之もの御拂米一ヶ年分六拾四石八斗之分是迄之高え相増候儀三ヶ年宛年限を以相伺當卯年々限相立候處同間歩追々出方相進彌永續可仕様子に候間前書御拂米引續來辰年より以來年々爲買請候様仕度旨十二月三日土井大炊頭殿眞田信濃守殿え書面進達伺之通被仰渡

一 山出金銀銅吹方に用ひ候鉛之儀年來越後商人之内請負有之御買上いたし候處追々高直に相成候に付入川村鉛山文化十酉年より稼相止候場所水路仕付柄山流拂候御普請申付當九月中旬より取掛罷在候處先年稼之節穿殘置候銀鏈体之もの相見穿取差出候に付大吹所に而粉成吹銀氣相備居猶鏈石百荷程粉成吹爲仕候處金銀銅鉛共備居當時金直當に而御益に相成追々爲相稼可申處深山に而十月初旬より雪降積業難相成稼方并御普請共爲引取尤鉛稼見込之場所は當時柄山下に而充分之稼に到り不申來春雪消之上御普請取掛柄山流拂次第鉛稼共押張爲相勵其節之様子に隨ひ猶取調可申上且此度之出來金銀銅は其筋

々々相納鉛は金銀銅吹立に相用ひ候に付別段御斷不申上旨出方差引書付相添十二月十四日土井大炊頭殿え進達

一 地役人繼上下着用之儀に付左之通書付を以申渡

御役所仕來に而並役使役迄十二月晦日より正月七日迄泊番同八日より十三日迄同十四日十五日泊番之者一統繼上下着用之趣に候得共以來左之通

一 十二月晦日泊番平日之通

一 正月元日より七日迄泊番熨斗目麻上下其以下は服紗小袖麻上下着用之事

一 同八日より十三日迄並役使役等繼上下不及着用尤定役に而も平日肩衣着用不致分は不及着用平日之通

一 同十四日十五日泊番平日之通

但町年寄格之者迄も本文に准肩衣着用之儀有之趣に候得共以來肩衣不及着用

一 組頭鈴木莊五郎え大津御代官金三郎二男都筑斧助智養子願之通被仰付候旨阿部伊勢守殿御書付を以被仰渡候段十二月十九日申來に付同廿日申達

一 羽田町六助外貳百人困窮救として十二月廿七日鳥目を爲取

一 青盤間歩臺通當時出方稼は無之候得共切山相立候に付樋場仕付水替入立候趣に有之一体同間歩之儀數十丈穿下り深敷に而年々水替出方御入用多く掛り候間當時臺通に而出方稼有之は格別切山立置候而已に水替御入用相掛候は不都合に付當時稼所松太郎敷之邊を限水規定場相立夫より臺之方樋場切捨切

山は爲相止候様十二月廿七日書付を以申渡

一 材木町太左衛門娘すき奇特之趣相聞ルに付爲褒美鳥目を爲取

天保十五年 甲辰年

十二月二日 弘化と改元

一 去卯年十二月十四日御奉書正月朔日到來左之通

上意之趣

御勝手之義前方より度々御世話被爲在候得共御用途は追々に相増凡御收納之一倍に相成候に付品々御差繰を以一時之急を辨せられ候事に候此後御自身之上は如何にも御不自由を不被爲厭唯々

永世之御主法立おかれ度と之御本意に候諸役人中にも其心得を以昨年中之御入用高に見競半減程に而御取賄相成候様何と歎工夫いたし可申出候但下々の痛候はぬ様事實之調肝要に被思召候事

一 御勝手向之義今般御直に被仰出候趣も有之去々丑年以來御入用格別相減候向も候得共未々御入用高御收納之凡一倍に相當り所詮此儘に而は御暮方難相立候間此後御自身之上は御不自由を不被爲厭永世之御主法立置れ度と之御事に候右様至篤之思召を奉伺一同深く恐入候次第に付諸役人中を始末々之者に至る迄其旨厚く相心得一日も早く御安心相成候様其役所限り享保寛政に復古いたし去寅年御入用高の半減を以來辰年より御取賄可相立右に付省略方義は十分に取調當年中を限可差出旨右同斷御觸書左之通

近年以來諸向追々及困窮可爲難儀に付品々御世話も有之候得共累年借財多之輩容易に勝手向取直出

來兼候哉に付今般爲御救厚キ思召を以公儀諸御貸附御仕法替之上藏宿貸出金年賦濟方被仰出候處世上金銀出入も元來相對貸借に候上は取上裁許にも不及事に候間唯今迄之分此節を限り裁許不申付自今貸出候分は前々之通取上可及裁許は勿論買掛諸職人作料手問貸等に到る迄同斷之事

但唯今迄取上裁許日限等申付置候分も向後濟方奉行所に而取扱いたし間敷候

一 金銀利足之義は去寅年相觸候通彌相心得世上融通方第一に心掛諸國共無差支實意に貸借可致右利足之外品々名目を附多分之雜費取候義決而致し間敷事

一 金銀貸借之義年古き義にても相互に實意を以對談いたし候は、容易に出訴裁許受候にも不及右は双方不實より多くは猥に出訴及び候義に相聞候此度相對濟被仰出候上は諸事寛政九巳年金銀出入之義に付相達候通厚く相守實意を盡し取引可致候奉行所出訴不相成を見込弃捐可致坏と心得亦是欲心を以事を巧出入及び或は利徳に而已拘り候出訴之類は何レも不埒に付吟味之上急度可申付事

一 以來濟方可申付分申渡之金高不足いたし毎度不束に候は糺之上急度可及沙汰事

一 右同日御奉書を以御觸之趣左之通

近年引續御儉約被仰出候得共累年御入用筋相嵩候に付當卯年迄嚴敷御省略有之候處未々御入用高御收納之凡一倍に相當御暮方相立かたくに付猶又來辰年より申年迄五ヶ年之間御儉約被仰出候得共是迄之御主法に而は所詮御取續難相成故を以今般御勝手之儀被仰出候趣も有之間已來左之通可相心得候

一 諸役所定人數之義享保寛政度定人數より不相増様可致候尤享保寛政之内人數少き方に見合定人

數可相立事

一 諸場所共萬端事を省キ無益之手數不相掛様厚く勘辨いたし諸事相改可申事

一 惣而御褒美御手當願之義向後享保寛政度之先格無之義は相願中間敷候尤享保寛政之内員數少キ

方見合可相願事

但享保寛政に先例有之候共當時において事實不相當之廉に候は、相願間敷は勿論之義に候事

一 諸拜借之儀遠國御用居城燒失并五ヶ年之内兩度類燒之面々は是迄之通相當拜借可被仰付候其外は一切拜借之義願出申間敷事

但是迄之拜借金有之面々以來延納願は難相成事

一 御勝手向之義今般上意之趣并御老中方被仰渡候趣共何れも厚く可相心得は勿論當表之義去子年以來一同之出精に而御入用筋格別減方相成といへとも此度被仰出候至篤之思召を奉窺候而は深く恐入候次第に而此上掛り々々におゐて一同御入用省略方之義厚く致勘辨心附候義は十分に申聞此御時合一際御奉公相立候様可致然レ共一概に御入用減候迎末々之痛に成後弊生候様成事に而は却而御趣意に振候間勘辨之上御趣意に相叶候様誠實之調肝要之旨廣間役始一役限書院において大屋圖書申渡

一 堀大和守殿舊獵廿二日於御前御懇之以上意老中格被仰付與向勤方は是迄之通可相勤旨被仰出候趣去卯十二月廿四日附御奉書正月朔日到來

一 佐渡奉行御役宅向模様替建足其外御修復皆出來右御用骨折相勤候に付鈴木莊五郎え銀拾枚廣間役露木兵助藏田太中え銀三枚宛定役四人え金五百疋宛 永井庫之助 熊木仁左衛門 山田新八 久保藤十郎 西川儀太夫 並役四人え金三百疋宛 矢渡彌八郎

丸岡八郎 五十嵐半右衛門 御褒美被下候旨土井大炊頭殿御書付正月朔日來

一 出火之節惣て物見ケ間敷もの罷出間敷旨前々も相觸候處又々猥に相成親類或は知音の方え爲見舞相越候は、其家々え罷越世話いたし候事は勝手次第火口近所往還等え立集候義は有之間敷事に候此後往還等え無故立止り罷在消防又は往來之妨に相成ルにおゐては火事場役人より主人并其身之姓名をも相糺時宜に寄直に捕押候義も可有之候間心得違無之様末々迄急度可申付旨阿部伊勢守殿御渡御書付之趣二月朔日大目付稻生出羽守よりの達書同十二日到來

一 二町目新濱町篤助外貳拾六人孝行又は奇特之趣追々相聞に付夫々鳥目を爲取及褒賞

一 二月廿六日諸役人之足並を試る處何レも心掛宜相見一段之事に付御手當被下旨申渡

一 新町村におゐて毎月十六日市立を始む

一 地役人素々困窮相聞寛政中銘々取續のため被下切に相成候出目錢市郷之者え貸附利錢は年々割渡尤役人一同十ヶ年賦に貸渡し候得は最初は員數も少く候處近年に到り追々相増殊に一兩年返納致候は借返相願多分返納滞候向も有之處追々御時合を辨へ一同正路に相勤候上は何れも勤續相成候様御救筋之義先般相願候處當時出目錢借請高之内銘々借高に應シ歩合を以錢壹萬貫文減之別段金千五百兩貸附元居として御下ヶ金被成下候間暮方立直候様可致旨被仰渡右は當時御入用筋省略方に付嚴重被仰出候御時合斯御憐察之上出格之御手當被成下候義に付難有存自今彌質素節儉を可相守旨廣間役始一役限り書院におゐて申渡

一 二月三日四日之大風高波に而當國浦々難破船多く他國廻船沖合に而難儀に及び湊々え入津損所を繕

ひ其外漁船行方をあらす海邊之人家多く破損及旨を訴ふ

一 地方掛並役之者は迄役金五兩之處以來役扶扶貳人扶持役金貳兩貳分被下旨申渡

一 三月九日諸役人之武術を試む

一 御目見以上小役人之分遠國爲御用相越候節御用柄之差別に不拘御府内長柄傘不相用向は道中袋入長柄傘爲持候義難相成御目見以下之分は長棒之駕籠相用候義并旅宿え幕爲打候儀も都而難相成右之外道中召連候供人數之内減方等之儀去卯七月中相達置候得共道中筋供連之義に付品々差支之向も相聞候間向後旅裝ならひに供人數等之義前々其場所之仕來之通相心得候様佐々隼之助より之達有之

一 鷺崎村源左衛門於沖合長貳丈六尺胴廻り壹丈餘の流鯨を拾ひ村方へ引來る旨訴出ルに付村々え入札之事を觸る拂之上分一運上を取立る

一 奉行巡村之節廣間役以下地方掛頭取目付役其外之者え支度金を相渡す取極之處組頭巡村之節罷出ル地方掛并使役へは是迄支度金相渡義無之如何に付以來支度金を渡す事に極る

一 大屋圖書巡村に付鈴木莊五郎同伴四月九日相川出立西濱通より國仲筋へ相廻り外海府通り五月四日歸陣巡村は是迄外海府より始めし處當年は發駕早き故田畑植付之遲速を量りて之事なり

一 當國之儀は古來より金銀山盛衰に隨ひ國中も盛衰致す國柄に付金銀出方肝要にて金穿大工は右御稼に付候第一之職分に候處敷内にて自然石粉油煙等を吞込故壽命長く相保兼ル由申傳大工に相成義を恐れ候由申傳なれども近年金銀山不盛に付大工人數少き故無據敷内へ數晝夜差組故之義に而既に掛ヶ穿大工之義は敷疲も無之壽も長く相保チ候上其石粉油煙之譯に而無之間以來大工之義は御役所にて仕入

いたし追々人數多相成隔晝夜代り又は往昔之通二三時代りにも差組成夫ケ難儀不爲致様懸り役人にも申付置間御直大工相願者は望之間歩々々山方番所へ罷出下掛り敷役人を以可願立旨四月中市郷え觸る

一 部屋住之面々藝術之義に付而は兼々被仰出候趣も有之師弟之間柄においては如何にも實意之教示修行も可有之義に候取分御見分之節鎗劔等之業前兎角外見に留り候を専らといたし形ヲ取扱候様に而は其太刀筋之意を取失ひ可申一事出來榮候共畢竟未熟之義も可有之哉にて實意之修行とは難申一向に業前眼立不申候とも一流之深意ヲ取失ひ不申暎と法制に叶候をこそ修行之本意とも可申哉尤是迄迎も右様の義有之と申儀にも無之候得共此上共聊心得方取違不申實意之修行之程を御見分被請候様心掛專要之儀に候

一 馬術之義兎角馬振乗合格別に撰多分之謝禮を以借請候杯も有之哉業前修行之厚薄は馬振にて寄申間敷形容而已に走せ候は不可然義にて此上馬振等相撰貸借等之義に付不都合之義は申上候義にも可有之旨主膳正殿但馬守殿厚御尊に付申達候旨櫻井庄兵衛外一人之達書到來

一 雲子間歩之儀文化九申年より取開當時迄三十年來連綿之處事實内間歩稼所は鏈引薄目に成り敷續青盤領に而相稼上は別段番所取立置地定式御入用御失費に付青盤之方へ一纏に可致旨去暮書付を以申渡に付夫々取調之上當春より右之通取計候旨申上書面二月中土井大炊頭殿へ進達

一 五月四日夜三町目紋藏宅より出火家數貳拾五軒焼失

一 去ル十日御本丸炎上公方様一位様精姫君様西九御立退御機嫌被爲替御儀無之西九二九無御別條右大將様御廉中様御機嫌被爲替御儀無之旨五月十日附御奉書同十六日到來

一 五月十三日眞田信濃守殿御事病氣に付御役御免之儀猶又相願候趣不得止事無據被思召願之通御役御免帝鑑之間席被仰付心永く致養生氣分快節は登城仕羽目之間におゐて御機嫌相伺可申旨被仰出候段五月十四日附御奉書同月廿三日到來

一 細野太十郎御藏方御勘定仕上相濟御引替御武器類其外無宿四人宰領五月二日江戸表出立三國路通越後寺泊へ出津六月十三日歸着

一 去ル廿一日於御前水野越前守殿御事御懇之以上意連判之列被仰付候旨六月廿二日附御奉書同晦日到來

一 養子に而見習勤之もの御扶持方御手當金等養父え取上不相渡者も有之哉に相聞右は勤場所に寄被下候御扶持方御手當等取上候而は勤方差支且困窮により自然不正之取計出來申間敷とも難申候間萬一心得違にて勤方差支ル次第に致候而は不容易趣に付以來右体之義無之様末々之者え不洩様可申渡旨書付出す

一 五月廿三日より同廿五日迄大雨降續山水押出し相川市中并銀山内往還道橋川之梓類押流し石垣所々欠崩其外入川村鉛山用水路大破稼所押埋村々より水損訴出ルに付右之段六月中土井大炊頭殿え申上書面進達

一 去卯年分山出灰吹銀貳百三拾六貫九百四拾壹匁御傳馬宿入用金三拾六兩貳分銀四匁三毛橋本權平内
此金直貳萬三千六百四拾壹兩貳分永百七拾貳文壹分
江清五郎宰領引替銀拾貳兩壹分貳朱勿捨銀貳分壹朱金細工物五拾壹匁貳分銀細工物四貫三百七拾七匁
貳分本間十次郎宰領六月廿九日差立同晦日小木湊出帆道中御證文阿部伊勢守殿燒金九貫九百七拾四匁

四分此小判積三千三百貳分永九拾五文六分佐州御金藏へ積置出方御入用差引壹萬貳千八百六拾貳兩貳分永貳百三拾六文壹分御益に成ル内江清五郎本間十次郎御勘定仕上ル

一 同年分山出銅貳千貳百八拾貳貫九百目此金四百貳拾五兩壹分永百七拾貳文壹分

一 堀大和守殿御事加判之列被仰付被任侍從與向勤方は迄之通被仰付候處不肖之身分に而加判之列相勤候義何分御請難申上旨再三御辭退申上候處思召を以被仰付候義に付安心仕相勤候様被仰付候得共猶又心底之趣重々申上候處段々厚御考被遊被仰付候義に候得共數度御辭退申上候儀に付願之通御聞届加判之列は不被仰付勤向是迄之通にて侍從被仰付候段被仰出候旨阿部伊勢守殿御覺書寫を以稻生出羽守より之達書六月晦日到來

一 今度姫君様被遊御誕生候處表向被仰出は無之御名之儀は鐙姫君様と奉稱候尤右に付都而表向御祝儀等申上候に不及旨八月廿九日御奉書九月六日到來

一 當月十二日土井大炊頭殿御事病氣に付御役御免之儀猶又相願候趣不得止事無據被思召候依之願之通御役御免雁之間席被仰付心永致養生氣分快節は登城仕御機嫌相伺可申旨被仰出候段十月十三日附御奉書同廿日到來

一 小宮山彌八郎義無宿七人宰頭九月廿六日江戸表出立奥州會津通十月十二日新潟湊え出津風待中入墨元次郎外二人目籠を破逃去候處夫々手配之上翌朝迄に追々召捕引渡有之同廿六日出帆風筋合兼水津湊え着同廿八日夷湊え相廻り廿九日相川え歸着

一 東蝦夷地モロラン場所沖合に異國船壹艘滯船いたし居に付松前志摩守より一番手差出尤異國船之仕

向に寄又々可及案内旨同所家來より津輕大隅守家來え申達夫より海岸筋連々通達有之勿論此後先々より通達之模様次第追々可申越旨溝口主膳正家來より廣間役え之書狀十月中足輕持參致スに付返書をなさしむ

一 一位様御不例御養生不被爲叶去ル十日午ノ上刻被遊薨去奉絶言語候公方様右大將様御哀惜之御事候乍然御機嫌被爲替御儀無之候

一位様御事奉稱廣大院様と候旨右に付普請鳴物停止候日數之儀は追而可相達旨十月十一日附御奉書十一月二十六日到來廣大院様薨去に付御新葬御法事并鳴物停止相濟候は、御七日目御日取は相除公事出入吟味物相始尤御忌之内繩又は手鎖等掛ヶ候義は見合之事

一 公事出入吟味物相始候とも手鎖過料等之輕き咎も不申付都而御答御仕置申付候義并御仕置伺進達等之儀は追而御沙汰有之候迄見合之事

但御忌御日數五十日相立候は、吟味中之手鎖并入牢等も申付牢問拷問いたし候義は御仕置申付候程合御沙汰有之節より申付候積り

右之通伊勢守殿え伺相濟候に付右等之趣に准し取計尤御仕置申付候程合之義御沙汰有之候は、其節可及通達旨十一月十四日大目付渡邊能登守達し評定所一座より之達書十二月三日到來

一 廣大院様去月十九日午ノ中刻御出棺増上寺におゐて御葬送相濟同廿二日より御法事御執行之由

一 廣大院様御法事於増上寺御執行同廿四日迄無滯相濟候由十一月廿三日附御奉書十二月三日到來

一 廣大院様薨去に付公方様御忌服被爲請候處京都より以格別叡慮被仰進候に付公方様御忌去七日被爲